
遊戯王 怪獣を使う転生者（凍結中）

亀7

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

遊戯王 怪獣を使う転生者（凍結中）

【Nコード】

N4147T

【作者名】

亀7

【あらすじ】

ウルトラマンに出てくる怪獣をカード化した転生者が、遊戯王の世界でデュエルする話です。

今は、GX編です。GXから読む事をオススメします。

ディアブロ、QB、ダークネスは手駒。

設定（前書き）

よろしくお願ひします。
設定です。

設定

主人公設定

名前

東 堅治

年齢

25才

転生理由

事故で神様に会いウルトラマンの怪獣をカード化してもらい遊戯王5D・sの世界に行く。

外見

普通の人。誰が見ても普通の人。

中身

原作は少し干渉する。

ちよくちよく原作キャラに遭遇する。

カード化していない怪獣(この時点で)

星人とネクサスの怪獣

例 バルタン星人、スペースビーストなど

マスコット怪獣

例 カネゴン、ピグモンなど

ウルトラマン

時期

不動遊星が双子と会った後

カードの攻撃力は、平均2000以上です。

設定（後書き）

これから書いていきます。

1 話目（前書き）

書きながら考えています。

1 話 目

さて、まあ簡単に言えば俺は転生者です。頭がおかしくなったわけではなく二次小説のように事故で死んでしまいました。そして、それが神様の手違いということで遊戯王5D'sの世界にウルトラマンの怪獣をカード化してもらい転生しました。正直、カード効果やステータスが高いです。自分がそうしたのですが、攻撃力が最高[∞]にしています。自重する気はないです。まあ、それ以外でもかなり凶悪なカードが多いです。とりあえず原作には干渉は少しします。楽しむ気です。

「まあ、なぜかはわからないけどフォーチュンカップの招待状があるのは参加しろということか。後は、お金はあると。」

まあ、のんびりしますか。

でシティをぶらぶらしていると

「イヒヒヒヒッヒ、あなたが東堅治さんですね。」

後ろから声をかけられた。

「誰ですか？（この男は、確か）」

「私は、治安維持きよ「イエーガー」。「ご存じでしたか。」

「で、俺に何のようですか？」

「実はゴドウィン長官があなたに用があるので連れて来いということでお迎えにきました。」

「拒否権は？」

「ありません。」

「ですよね。」

ということとで連れていかれて

今ゴドウィン邸

ってかデカッ。

どんだけお金かけているんだよ。

そして、

「はじめまして、治安維持局のゴドウィンです。」

「こちらこそ、東堅治です。」

「率直に聞きます。あなたは何者ですか？」

「・・・どういうことですか？」

「そのままの意味です。」

「全然、心当たりがありません。」

「本当に？」

「ええ。」

「・・・どうやら本当のようですね。」

「これだけですか？」

「ええ。お手数をかけてすいませんねえ。」

「では、帰らせてもらいます。」

そして、そのまま話は終わった。

なんで呼ばれたんだ？転生者だからか？

それとも・・・まあいいか。

「さて、デッキを調整するか。」

フフ、どんなものにしようか。

どちらにしても、キングより弱くしないと。

1 話目（後書き）

短いので長くしないと。

2 話目（前書き）

どうしよう、あまり決まっていな

2 話 目

さてさて、デッキはどうでしょうか。

攻撃力は、最高3000にして最低1000にしようか。

レベルは、4から7ぐらいにしてっと。

罨カード多めにして。

飛ばしに飛ばして。

フォーチュンカップ当日

相手は……いきなり不動遊星！！

長官、わざとか？

この世界の主人公、負ける気がしないが負けなはいけないしね。
話的に、

では、

「楽しみもう。」

「ああ。」

「デュエル」

「先攻は、もらおう。ドロー、俺はカードを2枚セットしてガンQ
ベビーを守備表示で召喚。」

ガンQベビー レベル4

ATK1000 DEF1000

赤い欠けた目玉が出てきた。

「……それがお前のモンスターか。」

「ああ。ターンエンド。」

「俺のターン。ドロー。」

「この瞬間、永続罨威嚇する眼を発動。このカードは、フィールド
上にガンQと名のつくモンスターが存在する時発動することができ

る。お互いにモンスターを召喚、特殊召喚する場合1000P払わないといけない。」

「何、俺は、スピード・ウォリアーを召喚。そしてバトル、スピード・ウォリアーでガンQ ベビーを攻撃。スピード・ウォリアーの効果を発動、召喚に成功したターン攻撃力を倍にする。よって、攻撃力は1800だ。」LP 3000

「うお、だけどガンQベビーの効果発動。破壊され墓地に送られた時、エンドフェイズ時までフィールド上のカード効果を無効にして、ベビーをデッキ、手札から可能な限り守備表示で特殊召喚する。威嚇する眼の効果は無効になっているからLP を減らさないですむ。」

「くっ、カードを2枚伏せてターン終了。」

「俺ターン。ドロー、ベビー2体を墓地に送りガンQ「コードNo. 01」を特殊召喚。このモンスターは自分フィールド上のガンQと名のつくモンスターを全て墓地に送る事で特殊召喚する事ができる。威嚇する眼の効果でLP1000を払わないといけないけど。」

LP3000

ガンQ「コードNo. 01」 レベル7

ATK2500 DEF2500

「そしてバトル、ガンQでスピード・ウォリアーを攻撃、そして効果を発動、自分のターンのバトルフェイズ中このモンスターの攻撃力は墓地に存在する『ガンQ』と名のつくモンスター1体につき500Pアップする。よって攻撃力4000になる。」

「何、くっ。」

ウォリアーは、破壊された。

だが、

「罠カード発動ガードブロック自分の受ける戦闘ダメージを0にしてカードを1枚ドロウする。」

「ターンエンドだ。エンドフェイズと同時にガンQの効果で自分フイールド上の永続罫を1枚墓地に送らないと破壊されるから威嚇する眼を墓地に送る。」

「俺のターン。ドロー、俺は、手札のモンスターを1枚墓地に送りチューナーモンスタークイック・シンクロンを特殊召喚。」

膝辺りより低い背のカウボーイが出てきた。

「さらに、さつき墓地に送ったボルト・ヘッジホッグを特殊召喚。」

ネジがささった毛むくじらのネズミ？が出てきた。

「つてえっ！」

「ゲッ、そのままだとシンクロか。」

「こりゃ不味いかなあ。」

「レベルの合計は7」

「この状況ニトロか？」

「それとも？」

続く

2 話目（後書き）

どうなる？

続き。
(前書き)

意外と。

続き。

でも、そう簡単にいかない。

「この瞬間永続罨カード惑わす眼を発動。このカードは自分フィールド上に『ガンQ』と、名のつくモンスターが存在する時発動することができる。フィールドに存在するモンスターのレベルを2つ上げる。」

「なに、くっカードを1枚伏せてターン終了。」

シンクロさせんよ。

「俺のターン、ドロー。・・・バトル、ガンQでクイック・シンクロンを攻撃。」

ガンQが攻撃に出る。

「罨カードくず鉄のかかし、このカードは相手モンスターの攻撃宣言時に発動することができる。相手モンスター1体の攻撃を無効にする。」

途中で鉄で出来たかかしがガンQの前に出てきて攻撃を止めた。

「そして、発動後このカードは墓地に送らず、そのままセットする。」

やっぱり伏せていたか。

「カードを1枚セットしてターンエンド。エンドと同時に惑わす眼を墓地に送る。」

「俺のターン。ドロー、俺はジャンク・シンクロンを召喚。そして効果により墓地に存在するスピードウォリアーを特殊召喚。」

こうしてニトロとジャンクを出され負けてしまった。

でも、使っていないセットカードは怒り狂う眼。自分のモンスターの攻撃力を自分の墓地のモンスターを1体ゲームから除外することでその攻撃力分アップするカード。

他のは、破壊の眼とか名前でわかるカードということ。

でも、負けないといけないからね。

ただ、

「もしかして、わざと負けたのか？」

と、遊星に聞かれ焦った。

とっさに

「違う。ただ力が及ばなかっただけさ。」

と、返した。

気づくわな、そりゃと思った。

でも次にやる時は正直、勝てると思うけどね。

続き。(後書き)

はい、わざと負けました。
勝ったら、いろいろ変わったちゃっからね。

裏（前書き）

伏線かなあ。

裏

ゴドウィン side

ふむ、負けてしまいましたか。

ですが、あのガンQというカード少し闇の力を感じますね。それに、わざと負けた気がしますね。

これは・・・。

Side out

なんだか凄い面倒な感じが・・・なぜ？

いやいやまさかだと思うけど、

「このカードたちに力とか宿ってたり？」

いや無いって。

でも、

「そんな気が・・・しないなあ。」

確かに系統的にやばそうなカードあるけど無いよね

本当に

やだよ、闇のデュエルとか。

命、賭けたくねえよ。

ああ、

原作キャラと関わるといけないのか。

無印とGXは闇のデュエルが多いし、

ゼアルは、まだ後が分からないし。

5D'sは・・・まだ逃げれるから。

パラドクスに追いかけれなければ。

うーん・・・。

「ってか何だかまた」

「君。」

「ありそうな。」

「君。」

「つて、はい？」

「君の番だ。」

金ぴかの甲冑を着た騎士ジル・ランスボウがいた。

「へっ？何が？」

「敗者復活戦だ。」

「えっ、それって。」

龍可って子との？

なんで？

心理カウンセラーじゃ？

「つてか、早く行かないと。あつ、知らせてくれてありがとございました。」

「いや礼はいいから、対戦相手の娘が恥ずかしがっているぞ。」

「えっ。」

モニターには、顔を下に向けている緑色のツインテールが画面に映っていた。

「やべ。」

俺は走って向かった。

裏（後書き）

ジル・ランスボウってアキに心折られてなかったっけ？

訂正（前書き）

訂正しました。

訂正

話ですが、訂正しました。

書き変えたところは少し読んでくれましたら分かると思います。

後、カードの方ですが次辺りからふざけたカードになるかもしれません。

具体的にいえばガンQの効果が増えます。

正確には最初からあったのですが、遊星に負けた後じゃないと使えずらいからです。

そうじゃないと原作での遊星対ジャックとの対戦がなくなってたかもしれないからです。

敗者復活戦で遊星と龍可との対戦になってエンシエント・フェアリーとのことを思い出せないかもしれないからです。

かなりずるい効果かもしれません。

次からは、少しサイドゲームかもしれません。

ですが、勝つかというと違うかもしれません。

まあ、原作であまり干渉しないところは勝つと思いますよ。

原作に関係があまり無いのはですが・・・

後、次辺りから更新遅れるかもしれませんが。

理由は、この後のダークシグナー編に干渉をどのくらいさせるかということです。

まあ、キャラ的には決めているのですが・・・

多分5日ぐらいだと思います。

ですが、

一応まだキャラのカード効果が少し悩んでいますがおそらくそれよりもストーリーが決めれてませんので遅くなります。

ストーリーを早く決めれるようにどれがキャラの考えている方か考

えています。

訂正（後書き）

遅れます。

ゲームが基準なのか？（前書き）

忍者より遅い投稿です。

ゲームが基準なのか？

んん？

なんだか移動しただけなのに数日の間寝ていたような？

・・・メタかもしれないから考えるのを止めて、

「あの、どうしたの？気分が悪いのか？」

「・・・さっきの目玉が・・・。」

・・・ガンQか。

まあ、さすがになあ・・・。

「大丈夫、できるだけ違うモンスターを出すからね？」

「本当？」

「ああ、本当だよ。（できるだけね・・・。）じゃあデュエルしよう。」

「・・・うん。」

「じゃあ。」

「デュエル。」

「先行は私から、ドロー。私はカードを2枚伏せて、墮天使ナース・レフィキュルを守備表示で召喚。ターンエンド。」

・・・ゲツ、シモツチか？・・・DS版かよ。

「俺のターン、ドロー。・・・すまないね。カードを1枚セットして、手札のガンQベビーを3枚墓地に送りガンQ「コードNO・1」をデッキから攻撃表示で特殊召喚するよ・・・ごめんね。この召喚方法で特殊召喚した場合エンドフェイズ時に永続罨カードを墓地に送る効果は無効化されるよ。」

いきなり揃うとは・・・

「ひいつ。」

「・・・とりあえずバトル、ガンQでレフィキュルを攻撃。墓地にベビーがいるから攻撃力は4000になるよ。」

「うう、罨カードオープンギフトカード。本来は相手ライフを30

00P回復させる効果だけどレフィキュルの効果でダメージに変わるよ。」

「やはりか、速攻魔法盾になる眼を発動。自分フィールド上にガンQと名のつくモンスターが存在する時、自分が受ける戦闘又は効果ダメージをエンドフェイズ時まで無効にする。」

目玉が自分をダメージから守った。

「そんな、キャッ！」

目玉を飛ばして破壊した。

「ターンエンドだ。」

「私の・・・ターン・・・ドロー」

・・・何か様子が変だなあ。

「私は永続罠カードシモツチによる副作用を発動。」

「げっ!？」

伏せてたのか。

「そして、クリボンを守備表示で召喚。カードを1枚伏せてターンエンド。」

「俺のターン、ドロー。魔法カード奇襲する眼を発動。自分フィールド上に存在するガンQと名のつくモンスター1体選択する。このターン、選択したモンスターは直接攻撃することができる。」

「えっ、それって!」

「ライフが0になるね。バトル、ガンQで直接攻撃。」

「罠カードオープン和睦の使者。戦闘ダメージをエンドフェイズ時まで0にする。」

「くっ。ターンエンドだ。」

・・・遊星辺りが助言したのか？

守りが固いなあ。

・・・しょうがない、もし負けかけてもこのカードで引き分けにするか。

「私のターン、ドロー。手札から、魔法カードソウルテイカーを発動。相手モンスターを破壊して、相手ライフを1000P回復させ

る。だけど、シモツチによる副作用でダメージに変わるよ。」

「くつ、墓地のベビーの効果を発動。このカードをゲームから除外して効果によって破壊するカードの発動と効果を無効にして破壊する。」

「そんな。」

ふふ、チートカードだからね。

「・・・私はカードを1枚伏せてターン終了。」

さて、かなり守りが固いな。

・・・にしても、さっきからなんとなくアニメで見た精霊世界へ行っている状態の龍可に見えるような・・・。

・・・もしかしてガンQのせい？

ゲームが基準なのか？（後書き）

まあ、はっきり言えばガンQによって催眠術をかけられているようなものです。

だから、精霊世界に行っています。

引き分けれるか？（前書き）

どうする？

この先・・・。

引き分けれるか？

さて、引き分けれるか？

・・・正直、ゴドウィン絶対試している。

俺が、使える駒かどうか・・・。

引き分けにしたとしても、また何かしてくるだろう。
でも、

「その時は、負ける気はないけど。俺のターン、ドロー。永続罠カードオープン狂気の眼。このカードは、自分フィールド上にガンQと名のつくモンスターが存在する時に発動することができる。1ターンに1度、相手モンスターを攻撃表示にしてエンドフェイズ時までカード効果を無効化することができる。クリボンを選択。」

「クリボン・・・。」

「クリッ、クリッ。」

大丈夫だ、って言っているのか？
でも、

「ガンQでクリボンを攻撃。」

クリボンを・・・踏み潰したか。

・・・けど？

「罠カードオープンガードブロック。戦闘ダメージを0にしてカードを1枚ドローする。」

・・・遊星だな。

確実に教えただろう。

「・・・カードを1枚セットしてターンエンド。」

「私のターン、ドロー。やった！手札から、魔法カードハリケーンを発動。フィールド上に存在する魔法・罠カードを全て手札に戻すわ。」

「ちえ。」

「そして、手札からサンライト・ユニコーンを召喚。そして効果を

発動、デッキの上から1枚めくりそのカードが装備魔法なら手札に加える。めくったカードは装備魔法団結の力。そして、魔法カード団結の力を発動。サンライト・ユニコーンに装備させるわ。」

・・・兄のカードか？

後、何でそんなにピンポイントで当てれるの？

「バトル、サンライト・ユニコーンでガンQを攻撃。」

「何！？・・・まさか。」

「手札のオネストの効果を発動、自分フィールド上に存在する光属性モンスターが戦闘した時このカードを手札から墓地に送ることで戦闘を行う相手モンスターの攻撃力分アップする。よって、攻撃力は5100。」

ガンQの目にサンライト・ユニコーンの角が刺さりそのまま、爆発した。

「うお。（絶対、遊星助言しただろう！）」LP1400

「カードを1枚伏せてターンエンド。」

おいおい、ここまで押されるか？

・・・まあ、引き分けにするか。

「俺のターン、ドロ。手札から魔法カード仕返しの眼を発動、墓地に存在するガンQと名のつくモンスターをゲームから除外し相手にそのモンスターの元々の攻撃力分のダメージをあたえる。ガンQ「コードNO・1」を除外して、2500Pのダメージを受けてもらうよ。」

「えっ、きゃあ。」LP1500

「カードを2枚セットしてターンエンド。」

「私のターン、ドロ。バトル、サンライト・ユニコーンで直接攻撃。」

「罠カードオープン道連れの眼。墓地に存在する、ガンQと名のつくモンスター1体につきお互いに1000Pダメージを受ける。墓地にはベビーが2体よって2000Pダメージを受けてもらうよ。つて、うお。」LP0

「うそ、きゃあ。」LPO
と言い龍可は倒れた。

「って、おい大丈夫か？」

遊星が龍可に近づいた。

「龍可？龍可？」

「・・・んん、遊星？」

起きたか。

「大丈夫か？」

「うん。」

「ごめんね。」

「良いの本気でデュエルしてくれたのだから。楽しかった。」

「ありがとう。こちらも、楽しかったよ」

こうして、デュエルは終わった。

ゴドウィン side

「・・・モーメントが反応していましたか。やはり闇でしたね。どうしましょうか。ククッ。」

引き分けれるか？（後書き）

・・・ギリギリでした。
もう少し効果考えます。

これから？（前書き）

ちょっととどろいちゃうか・・・。

これから？

さてさて、・・・

何で！？

「あのう？何で、俺が呼ばれているのですか？」

ゴドウィンに呼ばれて連れて来られているの？

「とぼけないで下さいよ。あなた、ダークシグナーではないのですか？」

腕を捲りコンドルの痣を見せてきた。

けど、

「何で、そういうことになるのですか？」

ってか力とかないよ。

「おや、ダークシグナーの事は知っているのですね。」

「あっ・・・。（やべっ！）」

「まあ、どちらにしてもあなたは私たちと同じようなものですね？」

・・・死んではいるけど。

「まあ、そうですね。それで何か用があるのですか？」

そこがね、問題だよ。

「簡単に言えば・・・私たちと手を組みませんか？」

「ぶっ！？何、言っているのですか？」

「その方が良いと思ったからですよ。」

「・・・何が？」

「ダークシグナーの目的は、知っているでしょう？」

「まあ・・・。」

「あなたも、同じような事を目的にしていそうだと思ったからですよ。」

「いえいえ、そんなことは考えていませんよ。」

本当に、

「そうですね……。何だかあなたは、お遊び半分で似ている事をしようとしていそうだと思ったのですけどね。」

「……何で、そう思うのですか？」

「あなたの使っているカードは闇に近いですね？」

「……まあ、否定しませんですけど。（ガンQか……。）」

「そのカードから、感じた感覚がそういうものだったからですよ。」

「……確かに。」

納得するよ……。

「でも、俺はまだ動く時ではないのですよ。」

「なぜなのですか？」

「いろいろと時間を掛けないといけないカードが別にありますので……。」

モンスターの的に、

「ですので、後1年は要りますので多分無理だと思います。」

「なぜ、1年？」

「力が貯まっていなとかが原因ですかね。」

「……そうですか。それは、残念ですね。」

「なので、仲間というのは無しで……。では。」

と言い部屋を出て行った。

さっきの話は、ほぼ嘘。

……けど、まだ使えないカード、邪神とかは本当だけど。

これから？（後書き）

まあ、邪神とかって言うのは知っている人は知っているラスボス怪獣？ですけどね。

まあ、ネタバレですかね・・・。

初代。(前書き)

初代の怪獣？

とりあえず、知っている奴。

初代。

あの後、引き分けにより敗者復活戦の意味はなくなった。つてか、ゴドウィンによるともう龍可がシグナーだと分かったから復活戦はもういいらしい。

「さて、どうしようか。」

中立の立場で、いないといけないからダークシグナー編の後のイリアステル編ぐらいから動くか・・・。

ああ、言い忘れていたけどDホイールはあるよ。まあ、普通の。なんか、家に手紙と一緒に置いて有った。

差出人はここへ送った神が、困るだろうということで送ったらしい。だけど、

「免許は自分で、か・・・。」

まあ、バイクとは縁が無かったからしょうがないけど・・・。
で免許を取りに行って少し時間が経って・・・。

一ヶ月後・・・。

「では、次に7番。」

「はい。」

ライディングデュエルの実技試験をやっています。

これで、勝てば合格だと思います。

だけど、相手は・・・。

「セキュリティの牛尾だ。やわなライディングしたら合格させねえぞ。」

また、原作キャラしかも今はまだゴヨウ・ガーディアンとかいるし・・・。

まあ、今日のデッキは攻撃力高いし大丈夫か・・・。
後、専用のSp有るし。

では、

「デュエル」

「第一コーナーを取った方が先攻だ。」

分かっているって、

でも、

「はは、先攻は俺だ、ドロー。」

あんた、ラフ過ぎだろ!?

ほぼ、当たりに来ただろう!

「俺は、ヘルウェイ・パトロールを攻撃表示で召喚。」

なんか、一緒に走る奴が出てきたし。

「カードを2枚セットしてターンエンドだ。」

ヘル・ツイン・コップか?

「俺のターン、ドロー。相手フィールド上にモンスターが存在し、自分フィールド上にモンスターが存在しない場合このモンスターを特殊召喚することができる。レッドキングを攻撃表示で特殊召喚。」

」

レッドキング レベル6

ATK2500 DEF1800

「攻撃力2500だと!?だが、リバーズカードオープン奈落の落とし穴。相手フィールド上に攻撃力1500以上のモンスターが召喚・特殊召喚された時、そのモンスターを破壊してゲームから除外することができるってなあ?」

レッドキングが罫カードを踏み潰して破壊した。

「レッドキングがカード効果で破壊される場合、破壊されずそのカードの発動と効果を無効にして破壊する。まあ、このモンスターがフィールド上に存在する時、自分はモンスターの召喚・特殊召喚・セットできないのだけだね。でもバトル、レッドキングでヘルウェイ・パトロールを攻撃。」

レッドキングがどこから出したか、岩を持ち上げ投げつける。

「なら、リバーiscardオープン次元幽閉。攻撃宣言時に発動することができる。攻撃モンスターをゲームから除外する。」

レッドキングが岩ごと次元に吸い込まれた。

「くっ。だが、レッドキングと同じ条件でゴモラを特殊召喚。」

ゴモラ レベル6

ATK2500 DEF2000

「またかよ!？」

「カードを2枚枚セットしてターンエンド。」

ゴモラの欠点はレッドキングと同じだけど、

効果は直接攻撃することができる。

さて、どこまでやれるかな？

初代。(後書き)

初代なので協力しないで強いということ。
自分以外は縄張りに入るな、ということ。
で、こうなりました。

初代の続き（前書き）

続きです。

初代の続き

ゴモラは、直接攻撃できるけどゴモラ以外は場に出せない……。牛尾のターン。

「俺のターン、ドロー。俺は手札からS p | スピードストームを発動。スピードカウンターが3つ以上ある時、相手に1000Pのダメージをあたえる。」

「くつ。(LP4000はきついな)」LP3000

「さらに、チューナーモンスターヘル・セキュリティを召喚。レベル4のヘルウェイ・パトリールにレベル1のヘル・セキュリティをチューニング！シンクロ召喚！ヘル・ツイン・コップ！」

「だけど、300P足りない。」

「ああ、分かっている。カードを2枚セットしてターンエンドだ。」終わるか……。

「俺のターン、ドロー。ゴモラは直接攻撃することができる。バートル、ゴモラで直接攻撃。」

「何！くつ、罨カードオープンセキュリティ・ボール。相手モンスターは攻撃宣言時に発動する事ができる。その相手攻撃モンスター1体を守備表示にする。」

「残念、カウンター罨カードオープンドロクロの悪足掻き。このカードは2つの効果がある。この場合は、ゲームから除外されているレッドキングを墓地に戻す事で相手魔法、罨、モンスターの効果の発動と効果を無効にし破壊する。」

「何！くつ。」LP1500

「さらに、手札からS p | パワー・ダメージを発動。スピードカウンターを3つ取り除く事で、墓地又は、ゲームから除外されているモンスターの攻撃力の半分のダメージをあたえる。墓地に存在するレッドキングの攻撃力の半分1250Pをダメージとして受けてもらつ。」

「何！うおつ。」LP250

「さらに、罠カードオープンレベル・ダメージを発動。自分フィールド上のモンスターを墓地に送る事でそのモンスターのレベル×300Pのダメージを相手にあたえる。ゴモラのレベルは6、よって1800Pのダメージを受けてもらう。」

「うおつ。」LP0

こうして、試験には合格した。

最後に、

「最近、事故が多いから気をつけろよ。」

って言われて、

ゴーストかよ！もう、そんな時期か・・・。

その1週間後、

「レッドキングで攻撃。」

「ぐわあ！」LP0

WRGPの腕試しやらやっている連中にデュエルやつたりしてゴーストを待っています。

で、

「デュエルだ。」

いきなり奴が現れた、

「ゴーストか？」

「だったら？」

もうかよ！ってか、プラシドじゃねえか。

「じゃあ、デュエルだ。」

初代の続き（後書き）

短いです。

機皇帝のパーツの効果って・・・。

アンチ機械族モンスター。(前書き)

機械は・・・。

アンチ機械族モンスター。

前回からの続き、

ゴーストというかブラシドとデュエルする事になった。

まあ、機械アンチのこれでいくか・・・。

では、

「デュエル」

「先攻はもらうよ、ドロー。このモンスターは、自分フィールド上にモンスターが存在しない場合特殊召喚する事ができるアントラーを守備表示で特殊召喚。」

アントラー レベル5

ATK2200 DEF2500

コースに穴が空き、でかいアリが上半身だけ体を出している。

「そして、このモンスターがフィールド上に存在する場合お互いに機械族モンスターは召喚・反転召喚・特殊召喚する事ができない。」

「何だと!？」

これで、楽にゲームが進む。

「カードを2枚セットしてターンエンドだ。」

「くつ、俺のターン、ドロー。俺は、モンスターをセット。カードを2枚セットしてターンエンドだ。」

機械族はきついだろうな。

「俺のターン、ドロー。罨カードオープン永続罨電磁波発生エリアを発動。このカードは自分フィールド上にアントラーが存在する場合のみ発動する事ができる。各ターンのスタンバイフェイズ時フィールド上に存在する裏側守備表示モンスターを表側表示にする。このカードの効果で表側表示になった機械族モンスターは攻撃表示になる。」

「何!」

表側表示になったモンスターは、ワイズ・コア・・・。

「俺は、マグラを召喚。」

コースから、黒いゴツゴツとしたモンスターが出てきた。

マグラ レベル4

ATK1800 DEF1800

「バトル、マグラでワイズ・コアを攻撃。」

「リバーズカードオープンツイン・ボルテックス。自分フィールド上の表側表示モンスターと相手フィールド上のモンスターを破壊する。アントラーを破壊する。」

「アントラーの効果、魔法・罠カードの効果を受けつけない。」

「なんだと！？なら、マグラを破壊。」

マグラが破壊されたでも、

「言い忘れていたけど、アントラーのもう1つの効果はフィールド上、墓地に存在する機械族モンスターの効果の発動と効果を無効にする。」

「くっ……。」

「さらに、マグラが相手によって破壊された事で相手に500Pダメージをあたえ、デッキからマグラを攻撃表示で特殊召喚する事ができる。」

「何！ぐあつ。」LP3500

「マグラで攻撃。」

「ぐっ。」LP1700

「ターンエンドだ。」

「ぐっ、俺のターン、ドロー。俺はモンスターをセットしてターンエンドだ。」

戦意がないなあ。

「俺のターン、ドロー。電磁波発生エリアの効果でセットモンスターを表側表示にする。」

「くっ……。」

ワイゼルGか・・・終わるか。

「バトル、マグラでワイゼルGを攻撃。さらに、罠カードオープン

生贄の怨念を発動。自分フィールド上のモンスターを1体リリースする事で発動する。自分フィールド上に存在するモンスターは、リリースしたモンスター1体の攻撃力分アップする。よって、攻撃力は4000だ。」

「この俺が・・・人間ごときに・・・ぐわあ。」LP0

「じゃあね。」

その場から逃げるように家に帰った。

「正直やり過ぎたか？アントラー以外・・・。」

アンチ機械族モンスター。(後書き)

・・・まあアントラー以外は、やり過ぎの気がします。

初代最強。(前書き)

何を出したら良いのかわからない・・・。

初代最強。

・・・まあ、あの後ゴーストは原作通り、遊星がデュエルした。まあ、結果は機皇帝がセイバーに負けだけど・・・。
ん？何で知っているか？

まあ、遠い方から見物していたんだよね。
光っているから目立つのだよ。

で、それから時間が経ち、

「今、アンチノミーとデュエルしている遊星を見えています。」

ああ、一応言うがWRGPの顔合わせみたいなパーティーの後のデュエルをしています。

何で見ているかってそりゃ、

デュエルをしたいからさ。

・・・誰と？

アンチノミーでしょ。

なぜかって？

この後、ブラシドとデュエル途中に崖から落ちて原作通りになる前の元氣バリバリアンチノミーを相手にデュエルしたいからさ。

んん？ゴースト大量発生の際は？

その時は、ゴーストを狩るから。

今はTGを相手にしたいんだよ。

で、

「おい、そのあんた。」

「・・・誰だ？」

「デュエルしようぜ。」

「・・・良いぞ。」

・・・確実に瞬殺する気にいるだろう。
だって、面倒くさって感じる。

・・・まあ、良いや。

では、

「デュエル」

「先攻は、もらうぞ。ドロー、俺は、カードを2枚セットしてSp
ー終わりを作りし者を発動。」

はは、こいつは・・・絶対戦いたくない。
だって、

「このカードは、デッキからモンスターを10体ゲームから除外する
事で発動する事ができる。」

このカードの効果は、

「そして、手札、デッキ、ゲームから除外されている、」
初代最強の怪獣。

「ゼットン等特殊召喚する。」

ゼットン レベル10

ATK5000 DEF5000

フィールド上に大きな風船？みたいな物が出てきて、

パン、

つと。

音を出して割れ、

ゼットン。

と言い、黒と黄色の色を持った怪獣の、

ゼットンが姿を現した。

「攻撃力5000だと・・・。」

「ああ・・・言うておくがゼットンがフィールド上に存在する場合、攻撃力1500以下のモンスターは召喚、特殊召喚された場合、そのまま墓地に送られるぞ。」

「何だと!？」

他は、魔法、罠、モンスターの効果を受けつけない。

1ターンに1度、バトルフェイズをスキップする事で相手フィールド上に存在するカードを全て破壊する事ができる。

しかも、この効果のスペルスピードはカウンター罠と同じ3。っていうか、無理ゲー。

「・・・ターンエンドだ。」

・・・まあ、他はこれよりひどいが・・・。

・・・どこまでやれるだろう？

初代最強。（後書き）

・・・かなりやり過ぎたか？
でも、LPに直接関係してないから良いか？

デメリットは無い・・・ほぼ。(前書き)

VSアンチノミー 続きです。

デメリットは無い・・・ほぼ。

「・・・ターンエンドだ。」

・・・今更だが、無理ゲーか。

フィールド上に存在するゼットン。

攻撃力、守備力は5000。そして魔法、罠、モンスターの効果を受け付けず、フィールド上に攻撃力1500以下のモンスターが召喚、特殊召喚された場合、そのモンスターは墓地に送られる。

そして、バトルフェイズをスキップする事で相手フィールド上に存在するカードを全て破壊する。

しかも、この効果スペルスピードはカウンター罠と同じ3。

・・・スターダスト・ドラゴンの効果はまず無理って事で。

「くっ、私のターン、ドロー。・・・モンスターをセット、カードを2枚セットしてターンエンドだ。」

まあ、TGは攻撃力が低いからなしうがないか・・・。

「俺のターン、ドロー。俺は、ゼットンの効果を発動する。バトルフェイズをスキップする事で相手フィールド上に存在する全てのカードを破壊する。」

ゼットンが、手を上げてそこから火の玉が出来て、そのまま相手フィールド上に投げた。

ってか、でかつ。

こっちまで、ダメージを受けそうだ。

「何だと!?!くっ。」

そして、そのまま相手フィールド上のカードを全て焼きつくした。

・・・こげているな。

でも、ここからデメリット。

「・・・このモンスターは、この効果を使用したターンのエンドフェイズ時にゲームから除外され、次の自分のターンのスタンバイフ

エイズ時にフィールド上に戻る。カードを1枚セットしてターンエンドだ。」

デメリットの、1ターン行動出来ない効果。

「私のターン、ドロー。私は、チューナーモンスターTGサイバー・マジシャンを召喚。そしてこのモンスターをシンクロ素材とする場合、他のシンクロ素材モンスターは手札のモンスター1体でなければならない。手札のレベル4のTGラッシュ・ライノにレベル1のTGサイバー・マジシャンをチューニング、」

「罨カードオープン裏切りの影を発動。このカードは、自分フィールド上にモンスターが存在しない場合に発動する事が出来る。相手フィールド上にモンスターが特殊召喚された場合、そのモンスターのコントロールを得る。」

「何!？」

シンクロ召喚したモンスターが黒くなり、自分フィールド上に飛んできた。

「TGワンダー・マジシャンか・・・そして、この効果でコントロールを得たモンスターは闇属性になる。」

「・・・カードを1枚セットして、ターンエンドだ。」
ふむ、

「終わるか・・・俺のターン、ドロー。そして、前のターン、ゲームから除外されていたゼットンがフィールド上に戻る。バトル、ゼットンで直接攻撃。」

ゼットンが、フィールド上と同じぐらいのでかい火の玉・・・つか、

「でかつ、しかもなんか熱い。」

そして、そのまま相手フィールド上に落とした。

「うわあああ。」LP0

・・・御愁傷様。

「・・・逃げる。じゃあね。」

一目散に逃げました。

・・・次の日のニュースで、コースが少し溶けてしまっていたらしい。

アンチノミーは、・・・おそらくボロボロの状態だろう。溶けてはいないだろうけど・・・多分。

・・・すまん、やり過ぎた。

にしても、

「実際のダメージなんて・・・。」

ゼットンだからか？

だとしたらガイアに出てきた怪獣は？

デメリットは無い・・・ほぼ。(後書き)

・・・まあ、簡単に言えばゼットンぐらいのレベルになるとパワーがすご過ぎという事です。

番外編 カードの説明 (5D・sの時のモンスターのみ) (前書き)

説明です。

番外編 カードの説明。(5D・sの時のモンスターののみ)

ガンQ「コードNo. 1」 レベル7

闇属性 アンデット族

ATK2500 DEF2500

このモンスターは、自分フィールド上に存在するガンQと名のつくモンスターを全て墓地に送る事で特殊召喚することができる。自分のターンのバトルフェイズ中、攻撃力は墓地に存在するガンQと名のつくモンスター1体につき500Pアップする。エンドフェイズ時に、自分フィールド上に存在する永続罫を1枚墓地に送るか破壊しなければならない。

デメリットが多いですけど、サポートカードが多いカードです。

ガンQベビー レベル4

ATK1000 DEF1000

闇属性 アンデット族

このモンスターが相手によって破壊され墓地に送られた時、自分フィールド上に存在するカードの効果を無効にして、デッキ、手札からガンQベビーを可能な限り守備表示で特殊召喚することができる。手札から3枚のガンQベビーを墓地に送ることで、デッキ、手札からガンQ「コードNo. 1」を特殊召喚することができる。この効果で特殊召喚したガンQ「コードNo. 1」の、エンドフェイズ時に永続罫カードを墓地に送る効果はゲーム中は無効化する。墓地に存在するこのカードを、ゲームから除外することでカードを破壊するカードの発動と効果を無効にして破壊する。

ベビーの方が、チートか？

レッドキング レベル6

ATK2500 DEF1800

地属性 岩石族

このモンスターは、自分フィールド上にモンスターが存在せず、相手フィールド上にモンスターが存在する場合特殊召喚することができる。このモンスターはカード効果で破壊される場合、破壊されずそのカードを破壊する。このモンスターがフィールド上に存在する場合、自分はモンスターの召喚・特殊召喚・セットすることはできない。

カード効果で破壊できない。

ゴモラ レベル6

ATK2500 DEF2000

地属性 爬虫類族

このモンスターは、自分フィールド上にモンスターが存在せず、相手フィールド上にモンスターが存在する場合特殊召喚することができる。このモンスターは、相手プレイヤーに直接攻撃することができる。このモンスターがフィールド上に存在する場合、自分はモンスターの召喚・特殊召喚・セットすることはできない。

直接攻撃は、相手にとってきつい。

ゼットン レベル12

ATK5000 DEF5000

炎属性 恐竜族

このモンスターは、「終わりを作りし者」の効果でのみ特殊召喚することができる。このモンスターは、バトルフェイズをスキップすることで相手フィールド上に存在するカードを全て破壊する。この効果を使用したターンのエンドフェイズ時にゲームから除外され、

次の自分のターンのスタンバイフェイズ時にフィールドに戻る。このモンスターのカード効果は、スペルスピード3として扱う。このモンスターがフィールド上に存在する場合、攻撃力1500以下のモンスターが召喚・特殊召喚された場合そのモンスターはそのまま墓地に送られる。このモンスターは、魔法・罫・モンスターカードの効果を受けつけない。

ほぼ、出されたら勝てない・・・。

マグラ レベル4

ATK1800 DEF1800

地属性 岩石族

このモンスターが相手によって破壊され墓地に送られた時、相手に500Pのダメージを与え、自分のデッキからマグラを攻撃表示で特殊召喚する。

・・・マグラの効果は、捏造しています。

番外編 カードの説明 (5D・sの時のモンスターのみ) (後書き)

現時点でのカードです。

すいませんが・・・。(前書き)

今回は・・・。

「すみませんが……」

目の前は、白い世界。

「……ここは？」

「すみません。」

「……なぜ、ここにいらっしゃる？作者。」

目の前にいる亀に言った。

「まあ、簡単に言えばこの小説を……。」

「おい！？まさか！」

「書くのを止めます。」

「はっ？」

「だから、止めるんだよ！」

「やめるのではなくて、止める？」

「まあね。」

「理由は？……元々、こうなるとは思っていたけどさ。」

「書いていて、思ったんだ。無理かなあと想着て。」

「まあ、オリカだからな。」

「原作キャラに、軽く勝ち過ぎてる事が。」

「怪獣のカード化している時点で効果がメチャクチャだろう？」

「ああ。で、堅治？」

「何だ？」

「かなりの間、名前を呼ばれなかっただろう？」

「……まあな。」

「簡単に言えば、名前を忘れていたんだ。」

「おい！お前が、俺を作ったんだろうが！」

「出す所が、あまり無かったんだよ！」

「もう1つの方の小説の主人公の怪って奴は、覚えてるだろうが！」

「それはな。主人公の目的がはっきりしているからさ。」

「いや、それなら俺も……あれ？俺って何の目的があるんだ？」

「なっ？だから思ったのさ、主人公が何をしたいのか？」

「もしかして、それで止めるのか？」

「ああ。目的が無いし、良いネタが無いしな。」

「おい、後半が本音だろうが！」

「良いネタが無いんだ。ってか、ほぼ勝つだろう？あのカードだと。」

「

「まあ。」

「書いていて思ったんだ。楽しむ事が理由では無理かって事に。」

「・・・だが、どうするんだ？この小説を止めるっていう事は、ネタを考えているのか？」

「無理。カードは出来ても、目的らしい目的がないから。」

「だろうな。」

沈黙・・・

「で、これからどうするんだ？」

「・・・とりあえずアドバイスください。」

「・・・はあ？」

「具体的に言えば感想を送ってください。ほら、主人公も。」

「・・・名前。」

「・・・堅治。」

「忘れたのか？」

「・・・すまん。」

「・・・読まれている方々、感想つかネタを送ってください。」

「すいません。書けるネタが無いんです。」

「「よろしくお願いします。」」

すいませんが・・・。(後書き)

・・・すいません。

戦わせる相手が思いつかないんです。

やじっ? (前書を)

じれは?

どう？

・・・ここは？

目の前に、何かでかい建物？

ええっと、確か作者の奴がアイディア募集（感想の返事を書いてい
る）している時に何かキレて、そのまま、「過去に逝け！」って言
われて、ブラックホールに吸い込まれて・・・。

え？

過去？

GXの世界？

服は、同じだけど・・・背が縮んでる！

若返ってるのか・・・。

ポケットの中には・・・アカデミア受験票？

受験番号が・・・77番？

・・・7に、こだわり過ぎだろ！

（うるさい！）

・・・今、声がしたような？

気のせいかな。

さて、これだと受験しろって事か・・・。

「まず、カードと。・・・ってなあ？」

怪獣のカード効果が変わっている？

弱くなったり、強くなっているし！

しかも、アイディア募集のカードもあるし。（強化しています。）

・・・まあ、しょうがないか。

チート過ぎるからネタが、無くなったのだから。

何だ？

何かある・・・紙か。

ええっと、

「速く話、進めろ！か。」

お前がな！

（・・・ゼットン、向かわせるぞ。）

・・・すいません。

ええっと、

「じゃあ、向かうか。」

移動中。

あっ！

カイザーと天上院がいる。

ええっと後は、

三沢が、試験デュエルしているな。

十代は・・・遅れてくるのか。

確か、武藤遊戯にハネクリボー貰ったりしてくるんだっけ？

じゃあ、今は見物するか。

で、

「デュエルしました。」

すいません。

描写については、ほぼカットでした。

何で、カットしたか？

それはですね・・・、

「何でいるんだ？・・・リリカルメンバーと、」

「レッド・デーモンズ・ドラゴンで攻撃！」

「ぐわああ。」LP0

なんかスッゲー、

「イケメンってか、シンクロ？」

・・・転生者か。

しかも、アイドル顔。

あっ、

「リリカルメンバーが、イケメンの方を見ているってか、」

ロストロギア

って言ったぞ。

「おいおい、本物かよ！」

確か・・・3トップの主人公、ユーノ、ギンガがいる。

あいつら面倒事を、起こすだろうなあ・・・。

二次創作的に、

「はあ・・・。」

どう？（後書き）

まあ、これで勘弁してください。

番外編 オリキャラ設定（前書き）

オリキャラ設定です。

番外編 オリキャラ設定

名前 七龍 翼

年齢 十代たちと同じ

性格 二次創作で出てくる、熱い性格

アカデミア寮 オシリスレッド

イケメンで、背が高い。

憑依者。

起きてみたら、いつの間にか受験会場にいた自分に憑依していた。
原作知識有り。

5D'sは、最終回は見ている。

ゼアルのアニメは、ギリギリエクシーズを知っていて内容は知らない。

実は、憑依した翼は元々の世界では事故で死んでいるが（本人は覚えて無い）遊戯王がかなり強いため他の神が、この世界の翼に憑依させた。（この世界の翼と、融合に近いからこの世界の翼の記憶はある。

デッキ シンクロデッキ

チートドロー、ディスティニードローは、持っている。

この世界に、なぜ？

なのは達がいる理由は、リリカルの世界にこの世界に存在するあい

つら（後の話で、出てきます。）が行っているいろいろしたせいで、それを追ってこの世界に来たから。

ちなみに、リリカルの世界はs t s 編後です。

年齢は、平行世界（年齢だけが違う）のため十代達と同じです。

番外編 オリキャラ設定（後書き）

はい、設定です。

ええっと、アンケートです。

フェイト、はやて、ギンガのデッキを募集します。

イメージが、あまり無いので送ってください。

ちなみに、ユーノは魔法使い族デッキ、なのはは、天使族デッキ（魔王モードの場合、堕天使族混合デッキ）です。

よろしくお願いします。

アカデミアに入学。(前書き)

フェイト、はやて、ギンガのデッキのテーマの募集しています。

アカデミアに入学。

はあ……。

「どうしたんだ、東？」

「いや……何でも、無い。三沢。」

今、アカデミア入学式を終えてイエロー寮の三沢の部屋にいる。

あの後、合格の知らせが来てイエロー寮って事だった。

で、船に乗っている時に三沢に、

「君の使うカード、珍しいね。」

話かけられ、そのまま仲良くなったって事。

一応、言っておくが試験で使ったカードはレッドキング……力押しで終わらせたよ。

三沢にカードの事については、

「あまり、出回って無いカードだから。」

って、言って

「珍しいカードだから、あんまりその事は言わないでくれよ。」

と、言っておいた。

試験の時の、シンクロのあいつが目立ってくれたからこっちは目立っていなかったのに、三沢は覚えていたのさ。

ちなみに、ユーノもイエロー寮だ。

なんか、高町ユーノだったけど……。

にしても、

「三沢。」

「何だ？」

「あのシンクロ召喚を使う、七龍翼っていうの？……なんかスゲー女子にモテていたな。」

「まあ、あの容姿だとな……。」

ものスゴく、囲まれていたぞ。

いやけど……、

「まさか、恋人がいるって囲んでいる女子全員に大声で言うって・・・。」

しかも、美人だと。

「あれで、女子全員が諦めるとは思えないけどな。」

「しかも、試験日に告白されてそのままOKって。」

「本人は、いきなりでびっくりしたらしいがほぼ決定だと言っていたぞ。」

「まあ、これで他のモテないアカデミア男子全員が敵になったって事だな。」

「俺は、入っていないぞ。」

「三沢は、入っていない事は分かる。興味が、無さそうだし。」

「まあな。」

三沢は・・・まあ、セブンスターズで興味を持つだろうけど。

ああ、そうそう

「そういえばさ？」

「何だ？」

「あの高町ユーノって奴も、シンクロ召喚を使ってたのか？」

「ああ。確か、アーカナイト・マジシャンだったか・・・知っているのか？」

「いや・・・シンクロ召喚って融合で例えるなら、モンスターだけが必要っていう召喚方法だったけ？」

「翼の奴は、そう言っていたぞ。」

「そうか。」

って事は他のメンバーもシンクロか、未来の面倒なカードを使うのか。

まあ、負けるとは思えないけどな。

翼以外は・・・。

・・・そうだ。

「三沢、高町ユーノって奴にデュエルを誘おうと思うんだが来るか？」

「ああ、良いぞ。シンクロ召喚が、見れそうだしな。」
「よし。じゃあ、高町の部屋に行くか。」

高町ユーノの部屋の前。

ドアをノックして、

「おい、高町。俺は東堅治っていうんだが、デュエルしないか？」
シーン

静かだった。

「居ないのか？」

「そうらしいな。」

「もうしかして、あの高町の周りにいた女子といるのか？」

「そうかもしれないな。どうするんだ、探すのか？」

「女子寮だと、面倒だな・・・ここで待つか？」

「今日は、新入生入学歓迎のパーティーだから無理かもしれないぞ。」

「そうだな、また今度・・・っていた。」

「えっ？」

ユーノが、こっちへ来ていた。

「ええっと、君たち誰かな？」

「俺は、東堅治。」

「俺は、三沢大地。」

俺達は、自己紹介した。

「僕は、高町ユーノ。それで、君達は僕に何か用があるの？」

「簡単に言えば、デュエルしたくてさ。」

「俺は、シンクロ召喚が気になってな。」

嘘じゃ無いよ、実力が気になったただけだ。

「・・・良いよ。僕、今は暇だしね。」

今は・・・か。

「よし、じゃあ外でデュエルだ。」

「うん。」

で、イエロー寮の外で、
「デュエル。」
「」

アカデミアに入学。（後書き）

ええっと、リリカルメンバーのフェイト、はやて、ギンガのデッキ募集しています。

G Xの最初のデュエルの相手は・・・ユーノ。(前書き)

久しぶりのデュエルです。

フェイト、はやて、ギンガのデッキテーマの募集しています。

G Xの最初のデュエルの相手は・・・ユーノ。

では、

「先行は、僕がもらうよ。」

「ああ。」

「ドロー。僕は、魔法カード簡易融合を発動。ライフポイントを1000ポイント払い、レベル5以下の融合モンスター1体を融合召喚扱いとしてエクストラデッキから特殊召喚する。ただし、この効果で融合召喚したモンスターは、エンドフェイズ時に破壊されるけどね。レベル5の音楽家の帝王を、守備表示で融合召喚。」LP3000

音楽家の帝王 レベル5

ATK1750 DEF1500

「エンドフェイズ時に、破壊される融合モンスター・・・レベルは5。」

「ん？つて事は。」

「さらに僕は、チューナーモンスターアーケイン・ファイロを通常召喚。」

アーケイン・ファイロ レベル2

ATK1000 DEF400

「チューナーモンスター・・・。」

「早い登場だな・・・シンクロ召喚。」

「僕は、レベル5の音楽家の帝王にチューナーモンスターアーケイン・ファイロをチューニング。シンクロ召喚、アーカナイト・マジシャン。」

アーカナイト・マジシャン レベル7
ATK400 DEF1800

「早いな、本当に。」
遊星より強いかもしれんな。

「アーカナイト・マジシャンがシンクロ召喚に成功した時、このカードに魔力カウンターを2つ置く。このカードの攻撃力は、乗っている魔力カウンター1つにつき、1000ポイントアップする。よって、攻撃力は2400だ。」

アーカナイト・マジシャン ATK400 ↓ 2400

「1ターン目で、攻撃力2400だと！」

「そして、アーケイン・ファイロがシンクロ召喚に使用され墓地に送られた時、自分のデッキからバスター・モード1枚を、手札に加える事ができる。」

「バスター・モード？」

「罠カードみたいだが。（おいおい、本当に強いな。）」

「カードを2枚セットして、ターンエンド。」

「俺のターン、ドロー。このモンスターは、相手フィールド場にモンスターが存在し、自分フィールド場にモンスターが存在しない場合に特殊召喚できる。ドクロ怪獣レッドキングを攻撃表示で特殊召喚。」

ドクロ怪獣レッドキング レベル6
地属性 岩石族

ATK2200 DEF1500

「いきなり、レベル6モンスターの特殊召喚!？」

「これは、どちらが勝つかな？」

「このモンスターは、攻撃したターンのエンドフェイズ時に守備表示になるけどね。だけど、もう1つの効果を発動。1ターンの1度、相手フィールド場に存在するセットカード1枚を破壊する。そして破壊したカードが罠カードの場合500ポイントのダメージをあたえる。右側のカードを破壊する。」

レッドキングが、岩をセットカードに向かって投げた。けど、

「罠カードオープンバスター・モード。自分フィールド場に存在するシンクロモンスター1体をリリースして発動する。リリースしたシンクロモンスターのカード名が含まれるノバスターと名のついたモンスター1体を自分のデッキから攻撃表示で特殊召喚する。」

「リリース？」

「生け贄の事さ。」

「アーカナイト・マジシャンをリリースして、アーカナイト・マジシャンノバスターを攻撃表示で特殊召喚。」

アーカナイト・マジシャンノバスター レベル9

ATK900 DEF2300

「そして、ノバスターも同じで特殊召喚に成功した時、このカードに魔力カウンターを2つ置く。このカードに乗っている魔力カウンター1つにつきこのカードの攻撃力は1000ポイントアップする。」

アーカナイト・マジシャンノバスター

ATK900 ↓ 2900

「攻撃力2900・・・。」

「これでレッドキングの効果は不発だよ。」

「分かっているよ。」

しかし、本当に強いな・・・他のメンバーもこんな感じに強いのか？
まあ、前と違って効果が変わっているけどさ。

「手札から魔法カードドクロの威嚇を発動。このカードは、自分フィールド場にドクロ怪獣レッドキングが存在する場合発動できる。
相手フィールド場に存在する全てのモンスターの効果を無効にする。」

「何だって!？」

アーカナイト・マジシャンノバスター

ATK2900↓900

「これで、攻撃力が元の900ポイントに戻った。」

「レッドキングで、ノバスターを攻撃。」

レッドキングが岩石を投げた。

「カウンター罠攻撃の無力化を発動。相手モンスターの攻撃宣言時に発動する事ができる。相手モンスターの攻撃を無効にし、バトルフェイズを終了する。」

岩石が、異次元に吸い込まれた。

「ありや、選ぶ方を間違えたか。カードを2枚セットして、ターン終了だ。」

「僕のターン、ドロー。僕はノバスターを守備表示にして、モンスターをセット。カードを1枚セットして、ターン終了。」

まあ、セットモンスターがリバースモンスター辺りかな？

G Xの最初のデュエルの相手は・・・ユーノ。(後書き)

アイデア待ってます。

続きの堅治対ユーノ（前書き）

ええっと、はやてのデッキは決めました。
フェイト、ギンガは決まってるません。

続きの堅治対ユーノ

デュエルの状況

ユーノ LP 3000

カード効果を無効にしたアーカナイト・マジシャン/バスター（守備表示）

セットモンスター1体、

魔法&・畏カードゾーンに、1枚セット。

堅治 LP 4000

レッドキング（攻撃表示）

魔法&・畏カードゾーンに、2枚セット。

前からの続き。

「俺のターン、ドロー。俺はレッドキングの効果を発動、セットモンスターを破壊する。」

レッドキングが岩を投げた。

「カウンター畏天罰を発動。手札を1枚捨てて、効果モンスターの効果の発動を無効にし破壊する。レッドキングを破壊。」

「なら、こつちもカウンター畏ロック・ブロックを発動。自分フィールド場に存在する地属性モンスターを手札に戻す事で、畏カードの発動と効果を無効にし破壊する。レッドキングを手札に戻し天罰を破壊する。」

レッドキングが消えた。

けど、投げた岩は消えていない。

セットモンスターは執念深き老魔術師・・・危なかった！

「さらに、レッドキングを特殊召喚。そして、魔法カードドロクロの挑発を発動。相手モンスター1体を攻撃表示にしこのターンレッド

キングとバトルさせる。ノバスターを攻撃表示にして、バトル。」

「ぐっ！だけど、ノバスターの効果を発動。フィールド場に存在するこのカードが破壊された時、墓地のアーカナイト・マジシャンを特殊召喚する。」LP1700

「シンクロモンスターを、また特殊召喚した・・・。」

「カードを1枚セットして、ターン終了。」

「なんか、逆転してきそうだなあ。」

「僕のターン、ドロー。僕は魔法カード地割れを発動。レッドキングしか、存在しないからレッドキングを破壊。」

「げっ。」

レッドキングが地割れの中に落ちていった。

「クルセイダー・オブ・エンディミオンを召喚。バトル、クルセイダー・オブ・エンディミオンで直接攻撃。」

クルセイダー・オブ・エンディミオン レベル4

ATK1900 DEF1200

「（にやつ）罨カードリバイバル・ダメージを発動。自分が戦闘ダメージを受ける場合、1度だけ相手もダメージを受ける。うおっ！」LP2100

「うそ、うわあああ！」LPO

「二人共、見応え有ったぞ。」

「ああ、楽しいデュエルだった！」

「僕もだよ！」

「二人共、見たこと無いカードを使うよな。」

「僕のシンクロ召喚も珍しいけど、君のカードも珍しいね。」

「まあ、あんまり出回って無いからな。（嘘だけどね。）」

「俺も、デュエルがしたいが今からパーティーが始まるな。」

「じゃあ、行くか！」

「ああ！（うん！）」

その後、

「えっ？ユーノ君が負けっちゃったの？」

高町なのはが、言った。

「うん！見たことの無いカードだったけど、ロストログアっぽくはなかったよ。」

「でも、おかしくない？この世界で、シンクロモンスターに勝った人同じシンクロモンスターを使う翼君ぐらいだよ。」

フェイトは、どうやら翼とデュエルして勝てなかったようだ。

「それも、そうだね。」

ギンガは、同意した。

「そうやな・・・監視しとくか？」

関西弁をしゃべるタヌキ（笑）は、言った。

「誰が、タヌキ（笑）やねん！」

「誰も、言って無いよ。」

「あれ？・・・まあ、ええか。ユーノ君、監視を頼めるか？」

「うん、分かったよ。」

これで、堅治は面倒事に関わる事になった。

「ああ・・・何だか、リリカルに目をつけられたような気がする！」
堅治は、1人悟った。

続きの堅治対ユーノ（後書き）

フェイト、ギンガのデッキテーマ募集しています。

次は・・・テストか。（前書き）

ええつと、フエイトのデッキが決まりました。
残りは、ギンガのデッキです。
募集しています。

次は・・・テストか。

今は自室で試験のために勉強している。

「はあ・・・。」

ため息を吐いたら、

「「どうかしたの（か）？」」

一緒に勉強している三沢と、高町ユーノに言われた。
あのデエルの後、ユーノとは仲良くなった。

「明日は試験か、と考えてたんだ。」

「まあ、お前は実技は大丈夫だろうけど・・・。」

「筆記は・・・ねえ？」

だって、

「この通常モンスターのテキストを書きなさい・・・無理だろう！」
しかも、

「変に偏っているような・・・。」

「まあ・・・。」

「確かに、ほぼレアカードの事ばかりだな・・・。」

「ってか、説明長いカードは難しいだろ！」

「でも、大体合っていれば良いんだから、」

「それに、実技で取り返せばいいだろう？」

「・・・お前らは、ほぼ筆記で合格していると想っけどな。」

二人とも、頭良すぎだろうが！

何で、暗記出来るんだよ？

試験日、筆記試験で、

「（ええつと、この効果で・・・。）」

筆記が終わり、

「ふうー。」

「筆記、どうだった（の）？」

「多分、大丈夫だ。」

にしても、何で海馬社長しかほぼ持つて無い青眼の白龍が出てくるんだ？

それ、あなたの仕業か？なあ？

・・・そういえば、

「さっきの全員移動は、新しいカードを買いに行ったのか？」

「そうだろうな。俺は、デッキバランスを崩したく無いから買わないが高町と東は？」

「僕も、バランス崩したく無いから。」

「俺もだ。ってか、このカードに相性の良いカードはあんまり無いだろうし。」

それに、買い占められてるだろうし・・・クロノス先生に。

実技試験、

で俺の相手は・・・、
はあ？

「あんたが相手か？」

「はい。フェイト・テストロッサと言います。ユーノ君とは友達です。」

・・・まあ、良いか。

・・・確か、噂通りのデッキなら（にやっ）これで行くか。
では、

「デュエル」

遠くから実技試験、堅治を見ている者がいた。

??? side

「・・・見つけたぞ。」

にしてもまさか、あいつらもいるとはな・・・。

「まあ、特に問題では無いか。」

ここでは、邪魔が入らないだろう。

「ククッ。」

次は・・・テストか。(後書き)

短いかもしれませんが、次はデュエルです。
ギンガのデッキ募集しています。
最後に出てきたのは・・・。

アンチ雷族モンスター（前書き）

ええっと、ギンガのデッキテーマが決まりました。
募集は、一応終わります。
出てくる怪獣は・・・。

アンチ雷族モンスター

さて、堅治対フェイトです。

「先攻は、私がもらうわ、ドロー。」

『がんばって、フェイトちゃん!!』

男子には、人気あるなあ……。

完全にアウェイだなあ……はあ。

「私は、手札から永続魔法平和の使者を発動。」

「げっ!」

「そして、ライオウを攻撃表示で召喚。」

ライオウ レベル4

ATK1900 DEF800

「おいおい。(メタしてきているな)」

「カードを1枚セットしてターンエンド。」

「俺のターン、ドロー。透明怪獣ネロンガを召喚。」

透明怪獣ネロンガ レベル4

地属性 雷族

ATK1600 DEF1800

「レッドキングじゃ無い?」

あつ、知っているのか……。

「ネロンガの効果を発動。1ターンに1度、このモンスター以外の雷族モンスター1体を選びそのモンスターの攻撃力分、このモンスターの攻撃力をアップする。ライオウを選択するよ。」

ネロンガ

ATK1600↓3500

「攻撃力3500・・・でも、平和の使者の効果で攻撃1500以上のモンスターは攻撃できないよ。」

けど、

「さらにネロンの効果を発動。相手にこのモンスターの元々の攻撃力と攻撃力の差のダメージをあたえる。よって、1900ポイントのダメージをあたえるよ。」

「えっ、うそ！」

ネロンの角から雷撃が飛んでいった。

「きゃあああ！」LP2100

「お前、何してんだあ！」

男子うるさっ。

「この効果で、相手にダメージをあたえた時ネロンの攻撃力は元々の攻撃力に戻りこのターン攻撃できない。」

ネロン

ATK3500↓1600

「カードを2枚セットしてターンエンド。」

まあ、レッドキング出すって事で考えてたかもしれないけどこのデッキには意味無いよ。

「私のターン、ドロー。スタンバイフェイズ時に、平和の使者の効果で100ポイント払う。私は、チューナーモンスターエレキングヨを守備表示で召喚。」LP2000

エレキングヨ レベル2

ATK100 DEF0

「シンクロか・・・。」

レベル6のエレキか。

「レベル4のライオウに、レベル2のエレキングヨをチューニング。シンクロ召喚、エレキマイラ。」

エレキマイラ レベル6

ATK1400 DEF1200

「良いぞ、やつちまえ！」

だから、うるさっ！

「バトル、エレキマイラでネロンガに攻撃。」
オネストか。

「永続罫カードオープン透明化。このカードは、自分フィールド場に雷族モンスターが存在する場合発動する事ができる。相手モンスターの攻撃を2度無効にする。エレキマイラの攻撃を無効。」

「カウンター罫オープン魔宮の賄賂。相手の魔法・罫カードの発動を無効にし破壊する。」

「くっ。」

透明化が破壊された。

「そして、相手は1枚ドロウする。」

はいはい、ドロウっと。

「ダメージステップ時、オネストの効果を発動。光属性モンスターが、戦闘を行う場合手札のこのカードを墓地に送り、エンドフェイズ時まで戦闘を行う相手モンスターの攻撃力分アップする。」

エレキマイラ

ATK1400 ↓ 3000

「うお！」 LP2600

エレキマイラにネロンガが破壊された。

『良いぞ！』
うるさい！

「カードを1枚セットしてターンエンド。」

エレキマイラ

ATK3000 ↓ 1400

「俺のターン、ドロー。俺は、電気怪獣エレドータスを守備表示で召喚。」

電気怪獣エレドータス レベル4

水属性 雷族

ATK1000 DEF1900

「エレドータスの効果。1ターンに1度、相手フィールド場に存在する雷族モンスター1体の攻撃力を0にする。エレキマイラの攻撃力を0にする。」

エレキマイラ

ATK1400 ↓ 0

「エレキマイラが・・・。」

「カードを1枚セットしてターンエンドだ。」

そろそろ終わるか？

翼side

「あんなカード見たこと無いぞ？」
まさか？

翼は、気づき始めた。

???side

「フォーチュンカップの時のカードは、何だったんだ？」
強すぎだろう・・・。

???は、堅治のカードに興味があった。

アンチ雷族モンスター（後書き）

これで良いかなあ？

アントラーより・・・まじかな？

エレキング・・・被るか？（前書き）

続きます。

エレキング・・・被るか？

デュエルの状況

フェイトLP2000

攻撃力を0にしたエレキマイラ（攻撃表示）

魔法&・罾カードゾーンに、平和の使者、カードを1枚セツト。

堅治LP2600

エレドータス（守備表示）

魔法&・罾カードゾーンに、2枚セツト。

前からの続き、

「私のターン、ドロー。スタンバイフェイズ時に平和の使者の効果で100ポイント払う。私は、攻撃表示のエレキマイラを守備表示にしてエレキリンを召喚。」LP1900

エレキリン レベル4

ATK1200 DEF100

角が、電球みたいなキリンが出てきた。

「エレキリンは、直接攻撃できる。バトル、エレキリンで直接攻撃。」

エレキリンが、エレドータスを飛び越え突っ込んできた。

「罾カードオープン吸電。相手フィールド場に存在する雷族モンスター1体の攻撃を無効にし墓地のレベル4以下の雷族モンスターを効果を無効にして守備表示で特殊召喚する。」

「何ですって!」

エレキリンが、相手フィールド場に戻された。
「ネロンガを特殊召喚。」

ネロンガ

DEF1800

「くっ、ターンエンド。」

「俺のターン、ドロー。俺は、自分フィールド場に存在するモンスター2体を生け贄に捧げ宇宙怪獣エレキングを召喚。」

宇宙怪獣エレキング レベル7

水属性 雷族

ATK2000 DEF1000

「エレキング・・・同じエレキシリーズなの？」

「いや、違うよ。エレキングのモンスター効果を発動。1ターンに1度、墓地の雷族モンスターをゲームから除外することでそのモンスターの守備力分のダメージを与える。エレドータスを除外する。そして、このモンスターはこのターン攻撃できない。だけど、エレドータスの守備力は1900・・・終わりだ。」

エレキングの口から光線が出た。

「きゃああ！」LPO

『コラー！』

だから、うるせーよ外野共！

そして他の奴のデュエルを観ている時、

「なあ！東堅治ってお前の事か？」

「ん？ああ、そうだが・・・。」

おいおい、

「俺の名前は遊戯十代。お前、デュエル強いな。」

「ま、まあな。」

「ちよつと待て、十代。」

「「？」」

またか、

「俺の名前は七龍翼って言うんだ。よろしく。」

「ああ、十代に翼な。」

「なあ、お前の持ってるカードって、」

「そういえば、珍しいカードを使うな。」

「まあ、あまり出回って無いカードだから。」

「そうか。」

「ふーん。」

怪しまれてるなあ。

「つて、次は俺達じゃ無いか！」

「ああ・・・そうだな。」

「じゃあな、今度デュエルしようぜ。」

「ああ！」

「・・・。」

こつちの方、何か見ているな・・・。

まあ、まだ良いか。

丸藤翔は・・・トイレだな。

一方、

「ごめん、負けちゃった。」

フェイトが謝り、

「良いよ。でもまさか、違うカードを使う何て、」

ギンガが言い、

「まあ、ただ試験用に変えただけかもね。」

ユーノが言い、

「（あのデッキ、まるでフェイトちゃんのために作ったデッキのような・・・。）」

タヌキ（笑）は、疑った。

「だから、誰がタヌキ（笑）や！」
地の文にツツコンだ。

??? side

今晚辺りに会うか。

「ククッ。」

??? は、夜に会う事を決めた。

エレキング・・・被るか？（後書き）

まあ・・・全部バーンみたいでしたね。
やっと、あいつら出てくるか・・・。

お前らか・・・原因は。(前書き)

あいつらの登場です。

お前らか・・・原因は。

さてと、試験は十代が原作通りにフェザーマンで勝って、翼は高町なのはの堕天使&天使をジャンクデストロイヤーの効果で破壊して直接攻撃で勝った。

で、イエロー寮の個室で、何か影が伸びて、人の形になり、知っている奴になった。

「あんたはゴドウィン長官。いや・・・地縛神？」

「よく、気づきましたね・・・東堅治。」

おいおい、何でいるんだ？

時代的におかしいだろ。

「おい、何でここににいるんだ？」

「それは、あなたもでしょう。」

「俺は・・・まあ、修行中みたいな。」

「修行？」

「ああ、まだ使えないカード（邪神など）があるからな。だから、過去のここに来たんだ。ちょうどよく、ここには三幻魔っていうカードがあるからな。（実際はネタ切れ何だけど）」

「三幻魔・・・確か、私達と同じ邪神のですか？」

「ああ、実質それを復活させる事がここの理事長の考えたと思うが・・・ん？私達？」

目の前にいるのは、1人の筈だが？

「ああ、簡単に言えばこの体は私達地縛神が集まってできた体ですの。」

「じゃあ、長官では無いのか。」

「そういうことです。」

地縛神の集まってできた体・・・って事は、

「力はあまり残って無いのか？」

「ええ、そういうことです。」

まあ、本来は封印される筈なのに・・・、

「あれ？過去に何でいるんだ？」

「ああ、それはですね。私達地縛神は、本来封印される筈だったのですがなぜか全然違う世界に行ってしまったて、」

・・・まさか、

「そこでは魔法とかがある世界でして、デュエルモンスターズもあるのですが全然異なる世界で、」

「まさか、そこで復活しようとしていたら高町達に追われてしまったのか？」

「まあ、そういう事です。」

だから、リリカルメンバーがいるのか・・・。

「で、一体何か用があるのか？」

「ええ、と言ってもあなたのカードに興味があるのですが。」

「俺のカード？」

「ええ、あなたのカードは強力な効果ばかりなので、」

「まあな。」

「それに、あの七龍翼という男には借りがあるので。」

「借り・・・え、デュエルしたのか？どこで？」

「ええ、ナスカの地上絵でライディングデュエルをしましたね。ま

さか、シグナーの龍を持っているとは・・・。」

まあ、転生者だしね。

「そういえば、どうやってこの世界に戻って来たんだ？」

「時空管理局という組織の乗り物でね、まあ、壊れてしまいました
が。」

「ああ、そういう事。・・・地縛神は召喚したのか？」

「いえ、ダークシンクロだけですわ？」

「そうか・・・よし、決めた！」

「何をですか？」

「あんだ、地縛神使うな。」

「はあ？」

「変わりに、俺のカードを使い！」

「いや、何で？」

「地縛神は、いろいろ面倒だからだよ！使うのなら俺のカードを使った方が良くんだよ。」

「地縛神は、私達なのですが？」

「じゃあ、俺がデュエルで勝ったら地縛神を使わないでデュエルしろ。もし、負けたらあんだに干渉しないし、カードを好きなだけ持つて行け！（邪神とかは渡さないけど）」

「まあ、それなら。」

「よし、デュエルだ。」

で、今は森の中、

「じゃあ、ここでデュエルするか。」

「なぜ、移動を？」

「高町ユーノって奴が見張っているから。」

「そういう事ですか。」

では、やるかこのアイデア募集したカード、
「このスフィアデッキ（効果を変えた）で。」

お前らか・・・原因は。（後書き）

次は、デュエルです。

CO2さんから頂いたカードのスフィアのデッキです。
効果などは、少し凶悪にしたりしています。

シリーズで統一してくれていると書きやすいなあ。

アイデア募集の（少し変えた）スフィアデッキ（前書き）

アイデア募集したカードのスフィアデッキです。

CO2さんありがとうございました！

効果は、少し変えています。

アイデア募集の（少し変えた）スフィアデッキ

じゃあ、

「地縛神は、無しね。」

危ないし、目立つ。

「ええ、当たり前です。」

そりゃあ、そうだ。

では、

「「デュエル」」

「先攻は、私が貰いましょう。」

「良いよ。（どんなデッキだ？）」

「ドロー。私はシャインエンジェルを守備表示で召喚。」

シャインエンジェル レベル4

ATK1400 DEF800

「カードを2枚セットしてターンエンド。」

・・・天使族？

・・・まあ、良いか。

「俺のターン、ドロー。このモンスターは、手札又は墓地から特殊召喚する事ができる。チューナーモンスター 宇宙球体スフィアを守備表示で特殊召喚する。」

宇宙球体スフィア レベル1

光属性 サイキック族

ATK0 DEF0

丸い円盤みたいな物が出てきた。

「さらに、自分フィールド場にスフィアと名のつくモンスターが存

在する場合このモンスターは特殊召喚できる。合成獣ダランピアを攻撃表示で特殊召喚。」

合成獣ダランピア レベル5

地属性 岩石族

ATK1700 DEF1200

岩石でできた3本足の、蜘蛛みたいなのが出てきた。

「もう、シンクロ召喚ですか……。」

まあね。

「レベル5のダランピアにレベル1のスフィアをチューニング。シンクロ召喚、超合成獣ネオダランピア！」

超合成獣ネオダランピア レベル6

地属性 岩石族

ATK2500 DEF2100

「見た事が無いカードですね。」

「だろうな、ネオダランピアの効果を発動。このモンスターは、特殊召喚に成功した場合相手フィールド場に存在するカードを装備する事ができる。右のセットカードを選択する。」

セットカードは……次元幽閉か。

「バトル、ネオダランピアでシャインエンジェルを攻撃！」

セットカードは……使わないか。

ネオダランピアの手が伸びてシャインエンジェルを殴った。

「シャインエンジェルの効果を発動。このカードが戦闘によって破壊されて墓地に送られた時、攻撃力1500以下の光属性モンスターを攻撃表示で特殊召喚できる。太陽の神官を、攻撃表示で特殊召喚する。」

太陽の神官 レベル5

ATK1000 DEF2000

「ああ、そういうことか。」

「分かるですね。」

インティの為か。

「カードを2枚セットしてターンエンド。」

「私のターン、ドロ。」

「永続罠オープン、スフィアの妨害を発動。相手がカードをドロした時、墓地のスフィアと名のつくモンスターをデッキの1番上に戻す事で相手の手札の中を1枚見て選ぶ。相手は、選んだ手札のカードを墓地に送らなければならない。さあ、見せて。」

「くっ！」

「ええつと、その赤蟻アスカトルを選ぶよ。」

「なら、太陽の神官を守備表示にしてカードを1枚セットしてターンエンド。」

インティなんか誰が出させるか！

「俺のターン、ドロ。俺は、宇宙球体スフィアを守備表示で特殊召喚。さらに、手札からスフィアの悪巧みを発動。自分フィールド場にスフィアと名のつくモンスターが存在する場合、デッキからレベル5以上のモンスターカードを1枚相手に見せて手札に加える。ただし、このターンモンスターを通常召喚できないけどね。」

デッキからつと。

「俺は、彗星怪獣ガイガレードを手札に加える。」

「また見た事が無いカード・・・。」

「バトル、ネオダランピアで太陽の神官を攻撃。」

「リバーズカードオープン、月の書を発動。ネオダランピアを裏側守備表示にする。」

これで装備している次元幽閉は、墓地か・・・。

「ターンエンドだ。」

ちよつと強いなあ。

「私のターン、ドロー。私は、アポカテクイルを攻撃表示で召喚。」

アポカテクイル レベル4

光属性 雷族

ATK1800 DEF1200

「バトル、アポカテクイルで裏側守備表示のネオダランピアを攻撃。」

・・・また、オネストか？

「ダメージ計算時に、手札のオネストの効果を発動。自分フィールド場に存在する光属性モンスターが相手フィールド場に存在するモンスターと戦闘を行う場合、その相手モンスターの攻撃力分アップする。」

アポカテクイル

ATK1800 ↓ 4300

「くつ。」

ネオダランピアが破壊された。
オネスト出番が多いな。

「ターンエンド。」

やっぱり強いな。

アイデア募集の（少し変えた）スフィアデッキ（後書き）

難産です。

短いなあ・・・はあ。

合成獣。(前書き)

続きです。

これで、良いのかなあ？

合成獣。

デュエルの状況

ゴドウィン長官（地縛神）LP4000

太陽の神官（守備表示）

アポカテクイル（攻撃表示）

魔法&・畏カードゾーンに、カードを1枚セット。

堅治LP4000

宇宙球体スフィア（守備表示）

魔法&・畏カードゾーンに、スフィアの妨害、カードを1枚セット。

続き、

「俺のターン、ドロー。このモンスターは、自分フィールド場にあるスフィアと名のつくモンスターが存在する場合、自分フィールド場に存在するモンスターを1体を墓地に送り手札から特殊召喚できる。スフィアを墓地に送り、手札から彗星怪獣ガイガレードを攻撃表示で特殊召喚する。」

彗星怪獣ガイガレード レベル7

光属性 ドラゴン族

ATK2600 DEF2200

体が、白いモンスターが出てきた。

「攻撃力2600!？」

「さらに、ガイガレード効果を発動。ガイガレードの効果で墓地に送ったモンスターがスフィアと名のつくモンスターの場合墓地から

効果を無効にして特殊召喚できる。宇宙球体スフィアを守備表示で特殊召喚。」

「また、シンクロ召喚ですか。」

「そういう事。レベル7の彗星怪獣ガイガレードに、レベル1の宇宙球体スフィアをチューニング！シンクロ召喚、超合成獣ネオガイガレード！」

彗星怪獣ネオガイガレード レベル8

光属性 ドラゴン族

ATK3000 DEF2500

手が、鎌になったガイガレードが出てきた。

「攻撃力3000!？」

「バトル、ネオガイガレードでアポカテクイルを攻撃。そして、ネオガイガレードの効果を発動。このモンスターと、戦闘を行う相手モンスターの攻撃力を1000ポイントダウンさせる。」

「何!？」

アポカテクイル

ATK1800 ↓800

ネオガイガレードの鎌で、アポカテクイルは切り裂かれた。

「くっ!」LP1800

「俺は、カードを1枚セットしてターンエンドだ。」

「私のターン、ドロ。」

「墓地のスフィアをデッキの1番上に戻す事で、スフィアの妨害の効果使う。さあ、手札を見せてくれ。」

「くっ。」

「またか・・・赤蟻アスカトルを選ぶよ。」

インティなんて出させるかよ。

「・・・シャインエンジェルを守備表示で召喚、ターンエンド。」
そういえば、最初のターンから伏せているあのカードは何だ？

「俺のターン、ドロー。俺は、手札からチューナーモンスター宇宙
変異球体スフィアを攻撃表示で召喚。」

宇宙変異球体スフィア レベル1

光属性 サイキック族

ATK0 DEF0

「同じモンスター・・・いや、違うのか？」

「似ているけど、違うよ。宇宙変異球体スフィアは、シンクロ召喚
の素材にする場合は宇宙球体スフィアとして扱う。そして、このモ
ンスターは、墓地の合成獣と名のつくモンスターを代用にシンクロ
召喚できる。そして、他のシンクロ素材は、シンクロ召喚するシン
クロモンスターに記載された属性、種族として扱う。ただし、シン
クロ素材にした墓地のモンスターは、ゲームから除外されるけど。」

「何だと!？」

口調、変わってきているなあ。

「墓地に存在する炎属性となったレベル6ネオダランピアに、レベ
ル1のスフィアをチューニング!シンクロ召喚、溶岩合成獣グラレ
ーン!」

溶岩合成獣グラレーン レベル7

炎属性 岩石族

ATK2700 DEF2000

「さらに罨カードオープン、合成獣の暴走を発動。自分フィールド
場に合成獣と名のつくモンスターが2体以上存在する場合相手フイ
ールド場に存在する魔法、罨カードを全て破壊する。」

「何!？」

破壊されたのは・・・はあ？

「聖なるバリアーミラーフォース―って、最初から伏せていたのかよ。」

「あなたもでしょうが。」

「・・・まあな、ネオガイガレードを守備表示（DEF2500）にしてバトル、グラレーンでシャインエンジェルを攻撃。そして、グラレーンの効果でフィールド場に存在するグラレーン以外のモンスターが表示形式を全て変更する。」

「何！？」

シャインエンジェル

DEF800 ↓ ATK1400

太陽の神官

DEF2000 ↓ ATK1000

ネオガイガレード

DEF2500 ↓ ATK3000

グラレーンが、吐き出した炎がシャインエンジェルを焼きつくした。

「ぐっ。」 LP500

「ネオガイガレードで、太陽の神官を攻撃。」

「ぐああああ！？」 LP0

「約束は、守ってもらうよ。」

「ええ、分かっていますよ。」

そして、また後日にもう一度会う事にした。

そして、堅治達がイエロー寮に戻って数十分後、

「ここで、ロストロギア反応が合ったんだよね？」

フェイトが聞き、

「間違い無いよ。」

なのはが、答えた。

「でも、もういないね。」

ギンガが言い、

「多分、そう遠くには行って無いやろ。」

タヌキ（笑）は言った。

ブチッ

「誰がタヌキ（笑）やあああああ。」

『言って無いよおおおお。』

大声で叫んだ。

「うお！」

「どうしたの？」

イエロー寮で、ユーノに聞かれた。

「いや、なんか怒りの声が聞こえたような？」

「どういう事？」

「さあ？」

堅治は、タヌキ（笑）の怒りを感じとった。

「だから、誰がだあああああ！？」

合成獣。(後書き)

これで、良いかなあ？
・・・分からないなあ。

タイタンは眠っている。(前書き)

うんうんうんうん。

タイタンは眠っている。

後日。

ドスッ

「ぐおっ！」

ゴドウィン（地縛神）が、タイタンを眠らせた。

「・・・じゃあ頼む。」

「分かりましたよ。」

そう言つてゴドウィンは、天上院を担いで廃寮の奥に入つて行つた。

ん？

いきなり過ぎて分からない？

まあ、簡単に言えば、

「タイタンを助けたかった・・・それだけ。」

理由は、闇に取り込まれてセブンスターズになるのが少しかわいそうになった。

それだけ。

「だって、はっきり言えばタイタンって被害者でしょうが。」

クロノス先生に、雇われたとしても・・・ねえ。

まあ、ゴドウィン・・・地縛神だし大丈夫だろう。

闇に、取り込まれる事は無いだろうし。

理想は、セブンスターズにタイタンの代わりに入ってもらおうかなつて。

一応、カードは渡したよ。

白紙のカードを何枚か……。

理由を聞かれたけど、

「そのカードは、デュエルをしたらエネルギーが貯まっていって白紙じゃなくなっていくから」

って、言っただよ。

一応、本当だよ。

まあ、どんなカードかは作者又はアイデア募集のカードになると思うけどね。

まあ、闇に近いカードだろうけど。

一応、そこまで強いっていうのでは無いよ。

多分……。

……一応、見に行くか。

タイタンは……このままにして。

見に行くか。

ん？ビルが出てきて……フィールド魔法、摩天楼―スカイスケレイパー―か。

「E・HEROフレイム・ウィングマンで月影龍クイラに攻撃。」

「ぐあああああ!？」

ああ！ゴドウィンが十代に負けた。

……あれ？

七龍翼も……おいおい十代、翼のタッグかよ！

そりゃあ、1人のゴドウィンは負けるよ。
・・・さてと、

逃げるか、なんか黒い闇がでてきてるし。

ゴドウィンは・・・もう居ないし！

で、廃寮の近くで、

「白紙のカードは・・・少し色があるな。」

これは・・・効果モンスターか。

「このカードからかなりのパワーを感じますね。」

「おいおい、危ない効果にはなるなよ。」

「それは、エネルギーが貯まってから分かるでしょう？」

「・・・まあな。」

少し不安だ。

タイタンは・・・部屋に連れて帰るか。

数分後、

「また、ロストロギア反応・・・。」

ギンガが言い、

「でも、何も無いよ？」

フェイトが言い、

「おかしいね。」

なのはが言い、

「誰かが、複数持っているのか？反応の強さが全部バラバラや。」
タヌキ（笑）が言った。

「誰が・・・ふう、落ち着くんや自分。」

チツ、耐えやがった。

「舌打ち!？」

「誰もしてないよ?」

そしてタイタンは次の日、ゴドウィンのお話し・・・説得されて帰った。

タイタンは眠っている。（後書き）

ゴドウィンに、渡したカードは効果モンスターでアイデア募集します。

もちろん、怪獣で・・・まあまあ強さの奴で。

効果は、原作主人公（歴代の）の使うモンスターにとっては少しメタな効果で。

よろしくお願いします。頼みます、自分が作ると5D・sみたいな事になるので・・・。

制裁タッグデュエル（前書き）

デュエルは、無いです。

制裁タッグデュエル

さてと、あれからかなり経って、原作の迷宮兄弟が出る話です。

「なあ、三沢、高町。」

「なんだ？」

「何？」

「俺的には、タッグは十代と翼のコンビは勝てると思うが・・・もう1人の丸藤翔って奴はカイザーの弟だけど不安だな。」

「まあ、そうだな。」

「どういう事？」

高町ユ一ノは、知らんよな・・・ドベのオシリスレッドだからか？それとも、翼にしか興味が無いのか？

・・・どちらもか。

「見ていると、不安が多いのさ。」

「??？」

そうして、制裁タッグデュエルが始まった。

途中、

「確かに、不安があるね。」

「だろう。」

かなり、いや当たり前か。

足を引つ張りたく無いよな。

終わって、

「ギリギリだったなあ。」

「ああ。」

「うん。」

次は、

「十代と翼のコンビか・・・見物だな。」

「ああ。」

「うん。」

って、

「あれ？」

「翼も、E・HEROのデッキか？・・・いや。」

「アブソルートZero・・・。」

まあ、タッグだし合わせるわな。

「E・HEROジ・アースでダーク・ガーディアンを攻撃！」

「ぐああああああ！！」「LPO

「シンクロじゃ無くて、十代の知らないE・HEROか・・・。」

「融合の条件・・・緩かったね。」

「本当、それに十代の引きが加わったら・・・。」

考えるだけ恐ろしい。

まあ、魔法を封じたら良いのだけどね。

夜に、

「最近、デュエルして無いなあ。」

制裁タッグデュエル（後書き）

考えないと・・・。

寄生モンスター。(前書き)

久しぶりの投稿・・・短いです。

寄生モンスター。

さてと、

「で、三沢はオベリスブルー行くのか？」

今は、三沢がブルー寮に上がるかどうかのデュエルを行う事が決まった所だ。

「いや、十代と翼とお前に勝たない限りは上がらないつもりだ。」

「俺？」

「ああ、お前にはまだ本来のデッキが有るみたいだしな。」

「・・・まあな。」

まあ、本来のデッキってのはボス系統とかのモンスターなんだがな。

放課後の自身の個室で、

「さてと、俺はどうしようかな？」

「どうしよう？」

ゴドウィンが、聞いていた。

「まあ、こつちの事だ・・・そういや、カードの方は？」

ゴドウィンに渡した白紙のカード達、

「まだ、完全にはカードとしては使えませぬね。」

ゴドウィンが、少し茶色の色が着いたカードを見せた。

「名前は・・・高速怪獣デキサドルか。」

ダイナに出てきた怪獣か。

「効果は、書いて無いか・・・。」

後日の三沢のデュエルの後、

「なぜ？こうなる・・・。」

三沢が、俺の事を未来のサンダーに言っただけでデュエルする事になった。

「まあ、良いか。」

「ふん！俺は、二度と負けん！」

「じゃあ、」

「デュエル」

「先攻は俺がもらう。ドロー、俺は宇宙寄生獣サイクロメトラを攻撃表示で召喚。」

レベル1 宇宙寄生獣サイクロメトラ

地属性 爬虫類族

ATK500 DEF500

観客、目をそらすな。

「舐めているのか！」

「いや、全然舐めて無いよ。サイクロメトラの効果を発動。このモンスターが召喚、特殊召喚に成功した場合デッキ、手札から他のサイクロメトラを攻撃表示で特殊召喚する。」

「なんだと!？」

合計 デッキから2体のサイクロメトラを特殊召喚した為サイクロメトラは3体

「カードを2枚セットしてターンエンド。」

さて、勝てるかなこの寄生獣達に・・・。

まあ、ヘタしたら俺も負けるけどね。

寄生モンスター！。（後書き）

次の投稿は、遅くなります。

寄生・・・地味に恐いな。(前書き)

遅くなりました。

寄生・・・地味に恐いな。

さてと、

この寄生モンスターに勝てるかな？

「俺のターン、ドロー。俺は、Vータイガー・ジェットを攻撃表示で召喚。」

レベル4 Vータイガー・ジェット

ATK1600 DEF1800

あれ、そのデツキだっけ？

「さらに、俺は永續魔法前線基地を発動。1ターンに1度、自分のメインフェイズ時に手札からレベル4以下のユニオンモンスターを特殊召喚する。俺は、手札からユニオンモンスターWーウイング・カタパルトを特殊召喚する。」

レベル4 Wーウイング・カタパルト

ATK1300 DEF1500

「そして、俺は2体のモンスターをゲームから除外してVWータイガー・カタパルトを特殊召喚。」

レベル6 VWータイガー・カタパルト

ATK2000 DEF2100

「さらに、手札から魔法カード大嵐を発動。フィールド場に存在する魔法、罠カードを全て破壊する。」

「あ、破壊されたなあ。でも、

「破壊された、罨カード遺伝子操作の効果を発動。」

「何!？」

「このカードが、セットされた状態で破壊され墓地に送られた時自分フィールド場に存在するモンスターを選択する。相手フィールド場に、存在するモンスターの種族は全て選択した種族になる。俺は、サイクロメトラを選択してタイガー・カタパルトを爬虫類族にする。」

ちよつと、タイガー・カタパルトがトガケっぽくなった。

「ふん、それがどうした。バトル、タイガー・カタパルトでサイクロメトラを攻撃。」

にやあ。

「この瞬間、サイクロメトラの効果を発動。相手モンスターと戦闘する場合、代わりに相手モンスターに装備する事ができる。タイガー・カタパルトにサイクロメトラを装備する。」

「何!？」

サイクロメトラが、タイガー・カタパルトの口の中に飛び込んだ。

「うわ……。」

まあ、引くわな……。

「くつ、カードを2枚セットしてターンエンド。」

「サイクロメトラの効果を発動、このモンスターが、モンスターに装備したターンのエンドフェイズ時にこのモンスターと装備したモンスターを墓地に送り、相手にこの効果で墓地に送った装備したモンスターの攻撃力分のダメージを与える。」

「何だと、ぐわあああ!？」LP2000

タイガー・カタパルトが、爆発した。

「うつ……。」

……まあ、分かるよ。

「俺のターン、ドロー。前のターン、召喚、特殊召喚されたサイクロメトラは自分のスタンバイフェイズ時に破壊される。」

サイクロメトラが、砂になって消えていった。

「俺は、再生怪獣グロッシーナを攻撃表示で召喚。」

レベル4 再生怪獣グロッシーナ

地属性 岩石族

ATK1500 DEF1800

「グロッシーナが召喚、特殊召喚された場合墓地に存在する宇宙寄生獣サイクロメトラをこのモンスターに装備する。」

「何、それをしてら・・・まさか!？」
にやあ。

「俺は、ターンエンド。そして、サイクロメトラの効果で1500ポイントのダメージを受けてもらっ。」
グロッシーナが、爆発した。

「ぐああああ!？」LP500
「・・・。」

引くよな、自分も分かる・・・。

「くっ、俺のターン、ドロー。」

「大嵐の時に、墓地に送られたもう1つの罠カードレベル・ツインシヨットを墓地から発動。」

「何、墓地からだと!？」

「ああ。この罠カードは、相手ターンに墓地から発動できる。自分の墓地に存在するこのカードとモンスターを2体をゲームから除外する事で除外したモンスターのレベルの合計×200ポイントのダメージを与える。サイクロメトラとグロッシーナを除外して1000ポイントのダメージを受けてもらっ。」

「俺が・・・うわあああ!？」LP0

で、

「堅治。」

「何だ、三沢？」

「サイクロメトラってモンスターの効果が強力だな。」

「いや、あのモンスターの装備する効果は機械族モンスターには発動できないんだ。」

「そうか、万状目が大嵐で遺伝子操作を破壊しなかったら・・・。」

「いや、遺伝子操作にはもう1つの効果が有って攻撃宣言した相手モンスター1体の種族をエンドフェイズ時まで攻撃対象にしたモンスターと同じ種族にするんだ。」

「恐ろしいね・・・。」

ユーノが、言った。

まあ、このモンスターの効果は機械族モンスターには発動できないのが問題だけだね。

種族を変えれば良いけど。

寄生・・・地味に恐いな。(後書き)

まあ、これで・・・。

代表決定戦？（前書き）

省略だあ。

代表決定戦？

さてと、

今は、かなり飛ばして、

「アカデミア代表決定の三沢、十代、翼、俺のデュエルになった。」

今は関係無い事だが、前の万状目のデュエルの後に万状目が翼に、デュエルを申し込み負けたらしい。

で、なぜ俺も代表決定に出ることになったのは、

「クロノス先生・・・俺を選ぶなよ。」

いや、万状目に勝ったしレッド寮から十代と翼が出るからって俺を引き合いに出すなよ・・・。

「三沢は十代と、俺は翼の辺りになるかな？」

まあ、翼の方が主人公の様な位置だから当たり前か。

（実は、翼はこのGXの世界の主人公である。）

・・・何だ、さっきの電波は？

（ちなみに、堅治は悪役の位置だ。）

・・・まあ、良いか。

そういや、

「なあ、高町？」

「何、東？」

「高町の知り合いに、フエイト・Ｔ・ハラオワンだったか？あの辺の女子って最近は休んでいるが大丈夫なのか？」

「来週には、アカデミアに戻って来れるって。」

「そうか。」

「それが、どうしたの？」

「いや、ただ気になっただけさ。．．．そっぴゃ、噂で高町って高町なのはって奴と付き合ってたんだろ？」

「はあああああああ！？」

大声で高町ユーノは、叫んだ。

「大声出し過ぎだ！！」

「いや、何でそうなるの！？」

「えっ、男子ではそうなってるぞ。仲良く話しているから、アカデミア男子でユーノの事を嫉妬している奴が多いんだぞ？」

「そうなの！？」

「ああ、ほぼ殺意がある気がするぞ．．．。ああ、後翼の奴もだっただけなあ。」

そっぴゃ、翼の彼女も噂では強いって言われてるなあ。

まあ、俺に女運は無いから関係は無いから良いけどな．．．。

（後、悪役の位置だしね。）

で、

「ゴドウィン。」

「何ですか？」

「高速怪獣デキサドルのカードは、効果は出てきたか？」

「いえ、後もう少して出て来ると思いますが……。」

「そうか……他のカードは？」

「まあ、罨カードと魔法カードですね。デキサドル限定の……。」
「ふん。」

で、

「やっぱり、三沢と十代では十代の勝ちか……。」

まあ、原作？通りか。

「でも、翼。」

「何だ？」

「彼女とキスしていたな。」

「ああ、それが？」

「……恥ずかしく無いのか？」

「好きな奴とキスするんだ。何が、はずかしいんだ？」

『きゃあああああ！！』

女子、うるさっ！

「翼さん。」ポツ。

おい、お前の彼女が赤面しているぞ。

……まあ、

「そろそろ、」

「ああ、このデュエルは楽しみにしていたんだ。」

「まあ、そうだろうな。」

転生者同士だから・・・かな？
では、

「デュエル」

『東、翼の野郎を潰せ!!』

男子は、珍しく味方かよ。

代表決定戦？（後書き）

まあ、ある意味翼は主人公補正のキャラです。

主人公対もう1人の主人公。(前書き)

とうとう、デュエル？

主人公対もう1人の主人公。

さてと、

「先攻は、俺だ。」

「分かった。」

今回は、メタで負けます。

え？

なぜ、負けるのかって？

そりゃあ、だって、

俺は、主人公じゃあ無いから。

どちらかと、というと思役だから。

「ドロー、俺は、魔法カードおろかなる埋葬を発動。デッキからダンディライオンを墓地に送る。そして、墓地に送られたダンディライオンの効果で自分フィールド場に綿毛トークンを2体を特殊召喚。」

あれ？

これって・・・。

「そして、デブリドラゴンを召喚。デブリドラゴンの効果を発動、自分の墓地からダンディライオンを特殊召喚。レベル3のダンディライオンとレベル1の綿毛トークン1体にレベル4のデブリドラゴンをチューニング！」

ガチデッキかよ！？

「シンクロ召喚、スターダスト・ドラゴン！！」

レベル8 スターダスト・ドラゴン

ATK2500 DEF2000

『きれい・・・。』

アカデミア全員が思った。

本当だよ。

ソリットビジョンだと・・・。

「ダンディライオンが、シンクロ素材となり墓地に送られたので綿毛トークンを2体特殊召喚。カードを2枚セットしてターンエンドだ。」

また、面倒な。

「俺のターン、ドロ。俺はカードを1枚セットしてフィールド魔法アンバランス・ゾーンを発動。」

周りが、黒い歪んだ世界になった。

「何だ、このフィールド魔法は？」

まあ、俺もガチデツキだ。

「フィールド魔法アンバランス・ゾーンの効果を発動。1ターンに1度、自分の手札のカードを全て捨てその捨てた数ドロする。4枚捨てて4枚ドロ。」

「なんだと!？」

「さらに、手札から魔法カードセメタリー・モンスタードロを発動。じぶんの墓地に存在する怪獣と名のつくモンスターの数ドロができる。俺の墓地に存在する怪獣の数は、4体の怪獣が存在するよって4枚ドロする。」

合計、手札は7枚。

「お前、すごいぜ!！」

「はあ!?俺は、お前にとってはズルい効果ばっかなんだぞ。」

「それでも、すごいと思うぜ。」

何だ、この主人公野郎。

まあ、良いか。

・・・心が痛いけど。

「手札から魔法カードモンスター・セメタリーを発動。自分の墓地に存在する怪獣と名のつくモンスターの数デツキの上からカードを

墓地に送る。墓地に存在する怪獣は、4体よって4枚を墓地に送る。

」

墓地の合計、10枚。

「何をやるんだ？」

「残念だが、アンバランス・ゾーンの効果で次のターンまでモンスターを召喚、特殊召喚、反転召喚、セットする事はできない。」
だが、

「俺は、カードを2枚セットしてターンエンド。そして、アンバランス・ゾーンの効果でこのターンカード効果で、ドローした数×200ポイントのダメージを受ける。くつ。」LP2400
まだか・・・。

「俺のターン、ドロー。・・・バトル、スターダスト・ドラゴンで直接攻撃!!」

どうかな？

「罠カードオープンアンバランス・バリアを発動。」

スターダスト・ドラゴンの攻撃が、いきなり現れた壁に阻まれた。

「何だ!？」

「このカードはフィールド魔法アンバランス・ゾーンが存在する場合に発動できる。このターン、攻撃力が守備力より上のモンスターは攻撃する事はできない。」

「くつ、ターンエンド。」

まだかな？

「俺のターン、ドロー。」

・・・違うか。

「俺は、カードを1枚セットして。アンバランス・ゾーンの効果で4枚墓地に送って4枚ドロー。」

「また、手札交換？」

「事故か？」

そうだよ！

悪いか？

「俺は、伏せていた魔法カードダークマターを発動。フィールド魔法アンバランス・ゾーンが存在する場合フィールド場に存在するモンスターを全てゲームから除外する。」

「何！？」

スターダスト・ドラゴンと綿毛トークンが闇に吸い込まれていった。「そして、除外した全てのモンスターのレベルだけ自分は200ポイント回復する。スターダスト・ドラゴンのレベル8よって1600ポイント回復する。」LP4000

「ライフを回復したか。」

「そして、ターンエンド。で、アンバランス・ゾーンの効果で800ポイントダメージを受ける。」LP3200

さあ、

悪夢はこれからだ。

主人公対もう1人の主人公。(後書き)

どうなるかは、自分も分からない。
本当に・・・。

アンバランス・ゾーン。
(前書き)

久しぶりに・・・。

アンバランス・ゾーン。

デュエルの状況

七龍翼LP4000

魔法&農カードゾーンに、2枚セット。

東堅治LP3200

魔法&農カードゾーンに、フィールド魔法アンバランス・ゾーン、カードを3枚セット。

で、

「俺のターン、ドロー。俺は、魔法カードD・D・Rを発動。手札のカード1枚を墓地に送って、ゲームから除外されているスターダスト・ドラゴンに装備させ特殊召喚。」

レベル8 スターダスト・ドラゴン

ATK2500 DEF2000

「またかよ!？」

引きが強い・・・主人公だからか？

「バトル、スターダスト・ドラゴンで直接攻撃!！」

「農カードオープンリバイバル・ダメージ。自分が、戦闘ダメージを受ける場合1度だけ相手もダメージを受ける。ぐお!？」LP700

「何!？ぐわああ!？」LP1500

『よっしゃあ、そのまま翼を潰せえ!！』

うるさい・・・翼、男子にどれだけ甘い空間を見せてんだ？

「くっ、俺はモンスターをセットしてターンエンドだ。」

「俺のターン、ドロー。来たか、俺は墓地の怪獣と名のつくモンスターを全てゲームから除外して、」

「そこから、」

『キヤアアアアア！！』

人の悲鳴みたいな声がした。

「うわ！？」

翼が、耳を塞いだ。

『何だ、あれは！？』

フィールド場の闇の中から、

「究極帝王メンシュタイトを特殊召喚する。」

レベル10 究極帝王メンシュタイト

闇属性 悪魔族

ATK4000 DEF4000

「これが、お前の切り札か？」

「ああ。」

このデッキの。

「このモンスターは、フィールド魔法アンバランス・ゾーンが存在する場合、墓地の怪獣と名のつくモンスターを全て除外した場合特殊召喚できる。メンシュタイトのモンスター効果を発動。1ターンに1度、相手に1000ポイントのダメージを与える。」

「何！？ぐああああ！？」LP500

「翼さん！？」

翼の彼女？が立ち上がった。

『良いぞ！！』

だから、男子はうるさい！

「バトル、究極帝王メンシュタイトでスターダスト・ドラゴンを攻撃！！」

メンシュタイトが、角から光線を出した。

「罨カードオープン和睦の使者。」

だが、光線は阻まれた。

「くっ、ターンエンドだ。」

「俺のターン、ドロー。俺は、罨カードリミット・リバーズを発動。」

「・・・D・D・Rの時か？」

「そうだ、そしてリミット・リバーズの効果で救世龍セイヴァー・ドラゴンを特殊召喚。」

おいおい、それって。

「さらに、スターダスト・シャオロンを召喚。」

マジか？

「レベル8のスターダスト・ドラゴンとレベル1のスターダスト・シャオロンにレベル1の救世龍セイヴァー・ドラゴンチューニング！シンクロ召喚、セイヴァー・スター・ドラゴン！！」

レベル10 セイヴァー・スター・ドラゴン

ATK3800 DEF3000

「引きが強くないか？」

「そうか？」

無自覚かよ！？

「そして、セイヴァー・スター・ドラゴンの効果を発動。究極帝王メンシュタイトの効果を無効化する。」

くっ、メンシュタイトはモンスター効果に対応できない。

「そして、装備魔法巨大化を発動。セイヴァー・スター・ドラゴンに装備する。」

セイヴァー・スター・ドラゴン

ATK3800 ↓ 7600

バトルで、終わらせるのか。

「バトル、セイヴァー・スター・ドラゴンで究極帝王メンシユタイ
トを攻撃!!」

セイヴァー・スター・ドラゴンが、メンシユタイに突撃した。

『キヤアアアアア!!』

メンシユタイが、貫かれ悲鳴を上げて破壊された。

「うおおおお!!?」 L P O

で、

「良いデュエルだった。」

「ああ。久しぶりに負けた。」

「なあ、お前って俺と同じ?」

「それは、秘密だ。」

「そうか・・・これから、よろしくな!!」

「ああ!!」

メチャクチャ好青年だった。

で、

「三沢、俺の分も頼むぜ。」

「ああ。」

ユーノが、言った。

「負けちゃったね。」

「まあな、だけど後悔は無い。」

「そう。」

まあ、有るとすれば、

俺は、悪役のポジションって事と、

墓地の罨カード、アンバランス・バリアのもう1つの効果なんだがな。

相手モンスターの攻撃宣言時に、墓地から除外する事で攻撃を無効にして1枚ドローする事ができる。墓地からの、この効果にチェインする事はできない。

「まあ、良いか。」

シリアスの話では、負けないけど。

アンバランス・ゾーン。(後書き)

こんな事になりました。

あの後。(前書き)

まあ、理由です。

あの後。

で、

最終的には、翼と十代のデュエルとなった。

さてと、

「俺は、外の空気を吸ってくる。」

「この後のデュエルを、観ないのか？」

「そうだよ、この後のデュエルは見物なんだよ？」

そうなんだが、

「ちよつと気持ち悪いんだ。すまん。」

そして、外に行った。

「・・・。」

それを、ユーノはじっと見ていた。

で、外へ来たが、

俺は、究極帝王メンシュタイトを見た。

「フィールド魔法アンバランス・ゾーンが存在する場合、墓地に存在する怪獣と名のつくモンスターをゲームから除外する事で特殊召喚する。」

そして、カード効果を読んだ。

「1ターンに1度、相手に1000ポイントのダメージを与える。

魔法、罨カードの効果を受け付けない。」

で、

「そして、最後の効果は1ターンに1度だけ手札、デッキ、ゲームから除外されている『暗殺怪獣グラール』を1体を攻撃表示で特殊召喚できる。」

レベル8 暗殺怪獣グラール

闇属性 爬虫類族

ATK3000 DEF3000

で、

「暗殺怪獣グラールの効果は、究極帝王メンシュタイトの効果でのみ特殊召喚できる。このカードは、魔法、罨カードの効果の対象にならない。このカードが存在する場合、相手はモンスター効果を発動できない。」

グラールを、出したら・・・多分勝っていた。

「まあ、良いか。」

翼の実力は見れた。

実力は、

「完全に、俺の負けだ。」

普通、セイヴァー・スター・ドラゴンとか出てくると思うか？

怪獣じゃなきゃ俺は、酷い負け方だった筈だ。

「だが、普通ラスボス専用モンスターがなぜ俺とのデュエルで出てくるんだ？」

・・・俺が悪役の立ち位置を、
「知っていたのか？」

いや、

「偶然なのか、それとも、」

世界の修正力が、潰し合おうとしているのか？

まあ、

「まだ、俺は動かない。」

まあ、

「最悪のラスボスモンスターの3体は、もう出来ているが・・・。」
確実に目立つ。

だって、

「大きさが、でかすぎるからな。」

そして、

「効果が、えげつない・・・。」

・・・、

「パラドックスとかとの、デュエルなら命を賭けるから絶対使っけ
どな。」

まあ、

「闇のデュエルとかのデュエルは、まだ時期では無い。」

だけど、

「少し面倒な事が有る。・・・魔法少女ってかあの時空管理局だったか？」

二次創作では、

「よくいろんな理由で干渉してくるが、」

まあ、

「現実そこまで酷く無い・・・よな？」

いや、本当に、

「防衛手段は、俺には無いぞ。」

でも、

「ゼットンとかのモンスターは、アンチノミーのデュエルで少し実

体化していたな。」

まあ、

「完全に、実体化しないだろう。」

翼は、

「なんか、普通に実体化とか出来そうだなあ。」

あれ？

「翼とか、精霊連れているのか？」

持っているよな？

で、

「三幻魔の時に、十代の代わりにデュエルをするだろう。」

まあ、

「ゴドウィン？が相手とかで出そうか。」

無理矢理に出してでも。

「そのままカードも返してもらうかな？」

でも、

「このまま、時空管理局が居ると面倒だなあ。」

どうにか出来ないか・・・。

『ウオオオオオオ！！』

「ん？デュエルが、終わったか。」

さてと、

「戻るか。」

で、堅治を見ていた、

「今、彼は時空管理局と……。」

クロノが、言った。

「言ったね……。」

フェイトが、言った。

「監視は、続行だね。」

なのはは、言った。

「しかも、彼の言っているモンスターの効果だとわざと翼君とのデュエルで負けたって。」

ギンガが、言った。

「今までのデュエルも、手加減していたって事やな。」
……が、言った。

「……って、誰や!？」

……は、大声で叫んだ。

『誰も、言ってる無いよ(ぞ)!?』

あの後。(後書き)

こんな事になりました。

ボロボロだよ。(前書き)

デュエルは、無いです。

ボロボロかよ。

で、

「ゴドウィン、頼むぞ。」

「ええ、こちらも翼に借りを返さないといけませんからね。」

そして、ゴドウィンは翼に会いに、
って、

「待て、ゴドウィン！」

「・・・何ですか？」

「この時代では、ミラーフォースは禁止カードだぞ！」

「・・・そうですが、ではミラーフォースは抜いてデュエルします。」

「
そして、ゴドウィンは消えた。
で、

「危なかった。」

この世界の禁止、制限カードって現実とは違うって事を忘れてたよ。

で、

一応、言うが今はセブンスターズ編だ。

前は、サンダーと翼の学園対抗デュエルで翼がジャンクデッキで勝った。

最近、三沢が居なくなったから、

「多分、タニヤのコロッセオを作るアルバイトに参加している筈だ。

」
で、

「大徳寺先生に、地縛神を見せたら簡単にセブンスターズに入れてくれたけど。」

その時は、

「大徳寺先生のキャラ、怖かったなあ。」

全然、にやあにやあって言わなかった。

で、

そういえば、

「確か、高速怪獣デキサドルの効果は自分のデッキの鳥獣族モンスターを2体除外する事で特殊召喚できる。相手に直接攻撃できる。相手の魔法、罠カードの効果を受け付けない。・・・だったか？」

レベル8 高速怪獣デキサドル

地属性 鳥獣族

ATK2500 DEF2500

「まあ、他の魔法と罠もデキサドルのサポートカードだからなあ。」
でも、

「ゼネキンダール人ってカードが無かったけど、」
普通は、有る筈なんだが・・・。

「ゴドウィンが、持っていたからか？」

まあ、

「多分、主人公補正で負けるな。」

主人公的に、

で、

「どうやら、負けたようだな。」

ボロボロで、ゴドウィンが帰ってきた。

「はあはあ・・・まさか、赤き龍が味方するとは・・・。」
えっ、

「えっ、赤き龍が出たの？」

「ええ、シグナーの光も出してました。」

うわ、

「勝てる気がしないなあ。」

でも、

「最後に、理事長が三幻魔のカードを使って暴れるからその時にリベンジするか？」

「しますよ！！」

リベンジ決定。

で、

「翼君がデュエルで勝ったけど・・・。」

フェイトが言い、

「逃げられたね。」

ギンガが言い、

「翼君とは1回お話しをしないと。」

なのはが言い、

「（あのデキサドルってモンスター、名前に怪獣って入っていたんやけど・・・。）」

狸汁は、気づき始めた。

「誰が、調理済みやあああああ!？」

「はやて・・・。」

フェイトが温かい目で見ていた。

「何や、フェイトちゃん？」

「1度、病院に行った方が・・・。」

なのはも温かい目で見ていた。

「なのはちゃん? って、ギンガも? ウッ、ウチはまともやあああああ
ああ!」

ざまあみろ。

ボロボロかよ。(後書き)

まだ、介入しない。

総合PV数10万突破記念?番外編 出来れば頼みます。(前書き)

今回は、

総合PV数10万突破記念？番外編 出来れば頼みます。

「また、ここか……。」

前に来た、白い部屋。
で、

「なんの用だ、亀？」

目の前の亀に言った。

「まあ、簡単に言えば、」

「言えば？」

おいおい、

「まさか、また時代を移動するのか？」

「違う。」

「えっ、違うのか？」

「当たり前だ、こんな伏線を残し過ぎた時代を移動したら確実にパラドックスが出てくるぞ。」

「それは嫌だ。で、用は何だ？」

「実は、」

「実は？」

「総合PV数が10万を突破したんだ。」

「おお！？」

「びっくりするだろう？」

「まあ、読んでくれる人が居るって事に。」

「それは、考えたく無かった事だから言っただけ！！」

「で、その記念で呼んだのか？」

「ああ、それと、」

「それと？」

「コラボの募集を、」

「するなああああ！！」

亀を蹴飛ばした。

ギーン

「くっ、硬い……。」

堅治は足を抑えた。

「ふっ、甲羅の部分を蹴れば痛くなるのは当たり前だ。」

いつの間にか、亀7はすぐ横に居た。

「……ノーダメージか？」

「ああ、一応だが。」

「足痛っ……。コラボの募集ってのは？」

堅治は、足を抑えながら言った。

「まあ、出来たらコラボしたいなあって希望さ。」

「希望？」

「ああ、この怪獣オリカに勝てるような奴がどんな奴かって気になっっているんだ。」

「前に、この小説の翼に俺は負けたぞ。」

「本気を出したか？」

「出したら、面倒事のオンパレードだろうが。」

「まあ、武力行使するのが居るからな。」

「それに翼は、」

「元々は、この『小説を読もう』に出てきたイケメン主人公の集合したのが七龍翼の正体。」

「だろうと思った。」

「名前や設定が、どっかの小説と似てるだろう？」

「ああ、多過ぎるぐらいに。」

「他のいろいろな設定も、似たような物だろう？」

「読んでいる人には、盗作しているって思われるぞ。」

「ああ、それも書いていて思ったが、」

「が？」

「自分でも、盗作なのか分からないんだ。」

「はあ？」

「いや、他の小説も似たような名前とか使われているから。」

「だが、パクリで有るんじゃない？」

「この小説の主人公は？」

「・・・俺だよな、一応。」

「ああ、似てる所は有るが主人公はお前だ。イケメン主人公では無いぞ。」

「・・・アンチか？」

「それも、書いていて分からないんだ」

「はあ？」

「いや、元々この小説は怪獣オリカを使ってデュエルしてもらう小説にしようと思ったけど、」

「けど？」

「他の小説を、読んでいると何かイケメン主人公にイライラしてくるんだ。」

「嫉妬かよ！」

「ああ、そうだが・・・悪いか？」

「おい、少しキレてないか？」

「気のせいだ。」

「いや、完全にキレているぞ。」

「で、イケメン主人公にイライラしてお前にはそれとは別の事をしてもらおう、と思っているんだ。」

「別の事が、悪役の位置か？」

「まあ、悪役の位置かも分からないんだけどな。」

「まあ、どっちかっていうと暗躍だよな。」

「そういう事だ。」

で、

「確か、コラボの募集だったよな？」

「まあ、期待はしてないぞ。」

「この小説は、読むとなると趣味が別れるからな。」

「で、募集は？」

「するぞ。」

「まあ、どうせ俺はこの世界じゃなくて相手側に飛ばして勝手にあつちで処理してくれば良いと思っているんだろう？」

「ああ、この小説は短いからな。」

「お前が・・・書けないか。」

「ああ、全部短い話だし、」

「怪獣オリカの効果も、」

「強力だからな、特にあの切り札の、」

「怪獣バスターズに、出てきたラスボス2体にガイアのゾグだろ？」

「特に、2体の効果は最悪だからな。」

「まあ、後悔はしてないぞ。」

「自重が、全然無いな。」

で、

「総合PV数が、10万を突破しました。」

『読んでくださりありがとうございます!!』

「そして、コラボですが、」

「俺を、そちらの世界のキャラとデュエルさせてください。」

「ちなみに、こちら側での小説にはそのデュエルをする事は報告します。小説にはしません。」

「簡単に言えば、そちらで俺を使ってください。」

「すいません、小説にすると確実に短くなるので・・・。」

「本当に、勝手過ぎですができればお願いします。」

『お願いします、そしてすいません。』

総合PV数10万突破記念？番外編 出来れば頼みます。（後書き）

お願いします、そしてすみません。

もし、コラボ出来ればと思っていますが気の迷いでも有るので気にしないでください。

闇に染まる光。(前書き)

今回は、デュエルです。

闇に染まる光。

さてと、

三沢の奴は、タニヤのコロッセオを造るアルバイトをしていてそのまま鍵を賭けたデュエルをしてそのまま負けて骨抜きにされた。

本人は、

「一目惚れした。」
らしい。

ちなみに、タニヤのペット？の虎には気づかないでタニヤの事だけ想ってアルバイトしていたらしい。

今は、

「三沢？」

「・・・タニヤ。」

「全然、気づかないね。」

ユーノが言った。

「流石に、そろそろ戻ってこないと、」

忘れられるぞ、他の原作キャラ・・・確実に決まってる事だけだね。
・・・ユーノもだけど。

それから、かなり経って、
「あれが、ウリアだな。」

「ですね。」

ゴドウィンが同意した。

外の方では赤い龍？が居た。

「じゃあ、そろそろだな。」

「ええ、今度は、」

もちろん、

「俺もやるぞ。」

まあ、

「顔は隠すぞ。で、負けたらすぐに逃げるからな。」

「分かってますが・・・デュエルする前から負けの事を考えるのはどうかと思いますか？」

「しょうがないだろ。こっちは、複雑な関係で状態なんだから。」
で、

「デュエルマスターズのイエスマンの衣装に着替えてつと。」

イエスマンつてのは、デュエルマスターズのガルドって組織の2番目に強い完全決闘をする奴だ。

「・・・今更ですが、その服はどこから持って来たのですか？」

「秘密だ。」

実は、亀7からのプレゼントだけどね。

（あのキャラ好きなんだよ。）

電波かな？

「じゃあ、行くぞ。」

「ええ。」

で、

「会いに来ましたよ、七龍翼。」

「お前は、ゴドウィンー!!」

おっ、驚いているな。

まあ、いきなり出てきて三幻魔のカードを奪ったらな。

「お前ら、誰だ!？」

十代が叫んだ。

「初めまして、皆さん。私の名前は、ゴドウィンと申します。」

ゴドウィンが、礼をして挨拶した。

「ゴドウィン、その金ぴかの服の奴は誰だ？」

俺か。

つてか、デュエルマスターズを観た事はないのか。

「彼の名前は、イエスマン。簡単に言えば、私の協力者です。」

「Yes。」

変声機を使用中。送り主は亀7。

「七龍翼。私は、あなたとデュエルをしないといけませんからね。復活の邪魔になるのでね。」

「良いぜ、デュエルは受ける。今度こそ、決着をつけてやるからな。」

「ふふ、我が神の力を見せてあげましょう。で、イエスマンの相手はあなたです。」

ゴドウィンは、指を指した。

「えっ、私が？」

なぜか、一緒に居たりリカルメンバーの1人の白い魔王です。

「ええ、あなた達も邪魔になりますからね。組織的に。」

管理局が、邪魔だろうね。

「では、イエスマン頼みますよ。」

「Yes。」

まあ、ゴドウィンの地縛神の生け贄は大丈夫か。

三幻魔のエネルギーを奪うらしいし。

では、

「私が、勝つたら一緒に来てもらいます。」

絶対、

「No。」

だ。

そういや、翼は連れていかれたらしいな。

ゴドウィンが、盗み聞きじゃ逆にボコボコされたりしいけど。

実体化したモンスターで・・・。

まあ、良いか。

じゃあ、

ガシャン

金ぴかのデュエルディスクを起動させて。これも、送り主は亀7。では、

「デュエル!!」

ショーの始まりかな?

「先攻は私だ。これより、完全決闘を開始する。ドロ、カードを2枚セットしてターンエンド。」

「モンスターをセットしないの?・・・私のターン、ドロ。」

「この瞬間、永続畏光は闇を発動。」

フィールド場の周りが、闇に囲まれていく。

「何、この黒いもや?」

「このカードが、フィールド場に存在する限りデュエル中に使用されるお互いの光属性モンスターは闇属性モンスターになり、天使族モンスターは悪魔族モンスターになる。」

「それって、」

フェイトが言い、

「高町にとつて天敵のカードか・・・。」

三沢が言った。

そう。

噂の光属性中心の天使族モンスターの為のカードだ。

「・・・私は、シャインエンジェルを攻撃表示で召喚、カードを2枚セットして。バトル、シャインエンジェルで直接攻撃!!」

レベル4 シャインエンジェル

ATK1400 DEF800

シャインエンジェルが、翼の羽を飛ばしてきた。
だけど、

「・・・。」LP5400

ノーダメージで無口です。

「何で、ライフが回復しているの!?!」

驚いているな。

「永続畏光は闇の効果。このカードが、フィールド場に存在する限

りお互いの闇属性又は悪魔族モンスターから受ける戦闘ダメージは、そのままライフポイントを回復させる効果になる。」

「そつ、それじゃあ、」

ギンガが言い、

「高町君の攻撃は通らない……。」

サンダーが言った。

「私は、ターンエンド。」

諦めて無いのは、大嵐、ハリケーン、サイクロンぐらいを待っているのか？

まあ、良いけど。

「私のターン、ドロー。私は、相手フィールド場に存在するレベル4のモンスターのシャインエンジェルを生け贄に異次元超人エースキラーを特殊召喚。」

レベル6 異次元超人エースキラー

地属性 機械族

ATK2100 DEF1800

「相手フィールド場のモンスターを生け贄に！？」

「このモンスターは、相手フィールド場に存在するレベル4のモンスターを生け贄に特殊召喚する。そして、このモンスターがフィールド場に表側表示で存在する場合、私は召喚、特殊召喚できない。カードを1枚セットして、ターンエンド。」

「攻撃しないだど？」

カイザーが言った。

「攻撃しないの？」

「そのリバーズカードは、攻撃に反応して発動させるカード。」
ギクッ

・・・分かりやすい。

まあ、攻撃できないだけなんだけどね。

相手フィールド場にモンスターが存在しないから。
まあ、完全決闘できるかな？

闇に染まる光。(後書き)

鉄さんからのアイデア募集したカードのエースキラーです。
効果は、少しだけ変えています。

イエスマン対魔王。（前書き）

三幻魔編の終わり。

イエスマン対魔王。

デュエルの状況

高町なのは LP4000

魔法&・畏カードゾーンに2枚セット。

イエスマン（パーフェクトデュエル中） LP5400

モンスターゾーン、エースキラー（攻撃表示）

魔法&・畏カードゾーンに、永続畏光は闇を発動、カードを2枚セット。

で、白い魔王のターン、

「私のターン、ドロー。私は、魔法カード地割れを発動。エースキラーを破壊するよ。」

どうかな？

「対処する、永続畏魔の封印を発動。」
ピシッ

「えっ？」

地割れのカードが石化した。

「なんで地割れが!？」

天上院が言った。

「魔の封印の効果は、お互いの魔法カードの効果は無効化される。そして、発動した場合は破壊される。」

「魔法カードが封じられた!？」

十代が言った。

「くつ、モンスターをセットしてターンエンド。」
魔法封じと。

「私のターン、ドロ。バトル、エースキラーでセットモンスターを攻撃!!」

エースキラーが、セットモンスターに飛びかかった。

「リバースカードオープン、次元幽閉。エースキラーを除外するよ。」

甘い、

「対処する、エースキラーの効果を発動。このモンスターは、手札に戻す事ができる。」

「へっ?」

エースキラーが、フィールド場から消えた。

「次元幽閉は不発、」

ギンガが言い。

「だなあ。」

隼人が言った。

「そして、私は1枚ドロする。私は、ターンエンド。」

「私のターン、ドロ。・・・私は、モンスターをセットしてターンエンド。」

エースキラーの生け贄要員は作らなかったか。
だが、

「私のターン、ドロ。私は、手札から罠カード異次元人の妨害工作を発動。」

「手札から罠カード!??」

「このカードは、手札の異次元ヤプールを相手に見せる事で手札から発動できる。相手フィールド場に存在するモンスターを全て表側守備表示にする。このターン、モンスター効果は発動できない。」

「それじゃあ!??」

翔が言い、

「セットモンスターが!??」

高町なのはが言った。

セットモンスターは、コーリング・ノヴァとマシユマロンか・・・。
「そして、1枚ドロ―する。相手フィールド場に存在するコーリング・ノヴァを生け贄にエースキラーを特殊召喚。ターンエンド。」

「私のターン、ドロ―。来た！！私は、チューナーモンスターカオスエンドマスターを召喚。」

レベル3 カオスエンドマスター

ATK1500 DEF1000

「レベルの合計は6・・・。」

なんか、嫌な予感がするのだが。

「レベル3のマシユマロンにレベル3のカオスエンドマスターをチューニング！！シンクロ召喚、氷結界の龍ブリュナク！！」

また、ガチかよ！？

レベル6 氷結界の龍ブリュナク

ATK2300 DEF1400

「ブリュナクの効果を発動。手札のカードを1枚、墓地に捨てて永続罨光は闇を手札に戻してもらっよ。」

「よし、これなら、」

サンダーが言い、

「天使族が使える！！」

だが、

「対処する、カウンター罨異次元からの洗脳を発動。相手フィールド場に存在するモンスターの効果の発動を無効にして、その効果モンスターのコントロールを得る。」

「こっちも、カウンター罨、」

ピーピー

「エラー!？」

「カウンター罠、異次元からの洗脳の発動にはチェーンできない。」

「そんな!？」

ブリューナクが、こちらのフィールド場に来た。

「・・・カードを、1枚セットしてターンエンド。」

そろそろ、終わらせるか。

「私のターン、ドロー。私は、ブリューナクで高町なのはを攻撃!
!」

ブリューナクが、氷を吐き出した。

「きゃあああああ!？」LP1700

「なのは!？」

「そして、手札の、」

「ぐわああああああああ!？」

おい、ゴドウィン?

ゴドウィンの方を見ると、

「赤き龍・・・。」

ゴドウィンが、赤き龍・・・赤く光るセイヴァー・スター・ドラゴンに止めを受けていた。

そして、

「ぐわああああああああ!？」

ゴドウィンが、消えていった。

パサッ

そこに、高速怪獣デキサドルのカードが落ちた。

「・・・。」

俺は、デュエルを中止しカードを拾った。

「まだ、デュエルは・・・終わって無いよ・・・。」
バタッ

「なのは!？」

高町が倒れ、他のメンバーが駆け寄った。
「・・・。」

テレポートして寮に戻った。テレポートは、この衣装の機能。

で、

「分かっていたとはいえ、
やはり、負けるのか・・・。」

「高速怪獣デキサドル・・・。
このカードは封印するか。」

「今は、使えないから。」
さて、

「次は、光の結社か・・・。」
まあ、

「暗躍するか。」

イエスマン対魔王。（後書き）

ゴドウィンの退場です。

正確には、ゴドウィンをコピーした地縛神は封印され未来に帰りました。

2年生です。
(前書き)

説明みたいな。

2年生です。

さてと、

「これからは、どうしようかな?」

切り札を出したいけど、

「強力、凶悪、鬼畜、最悪なんだよなあ。」

どうしよう?

イエスマンは、超獣デッキ、カオスヘッダーデッキの予定だしなあ。

まあ、危ない時には絶対使うけど。

ああ、一応カオスヘッダーデッキと言ってもSinデッキと大して変わらないような効果だけ。

例を出したら、

相手モンスターに、カオスヘッダーを装備させてコントロールを奪って攻撃力を上げてそのモンスターを墓地に送ったらそのモンスターをコピーさせたカオスモンスターを特殊召喚するって効果なんだけ。

まあ、コピーしたモンスターはオリジナルのモンスターを墓地に送った時にデッキから白紙のカードが生まれて出てきてコピーのカードになるって事。

「まあ、Sinモンスターと違ってオリジナルより強いんだけど。」
もちろん、怪獣も居るよ。

で、

今は、

「2年生だ。」

まあ、イエローだけだね。

だが、問題はリリカル達だ。

恐らく、イエスマンを探しているのだろう。

まあ、俺なんだけど。

で、

どうしようかな？

白の結社……。

破滅の光ねえ。

正直、絡んだら面倒だなあ。

絡みたいけど、

「洗脳……。」

あれはなあ。

対処する方法が無いぞ。

自力で解くって事は、無理だな。

「あれは、原作キャラだからできた事だろ。」
リリカルも、無理だろ。

まあ、洗脳するとは思えないけど。

管理局が、出てくるぞ。

絶対に。

さて、

「まずは、エド・フェニックスかな？」

でも、

どう絡もうかな？

いや、

「この際、イエローの影の薄さを利用して傍観するか？」

だから、

「イエローで居るのにねえ。（にやつ）」

で、

今は、サンダーがブルー寮への昇格デュエルしている。

まあ、相手のブルー生はプレイングが少し変な気がするけど。

まあ、翼、リリカルメンバーも思っているみたいだけど。

でも、

「この時代では、しょうがないような気がするなあ。」

俺達と違ってカードの性能は、全然違うからレベルが低いのはしょうがないと思う。

大体、この時代のカードだけでデッキを作ってみろよ。

確実に負けるぞ。

レアカードなんて、当てるのも買うのも苦労するぞ。

製造しているのが、数えられるぐらいしか無いぞ。

買うのも、本来そんなに強く無いのにヘタしたら家を買えるぞ。

まあ、逆に本来強いカードが安い時もあったけど。

だから、俺は1枚もオリカ以外のカードを使って無いのだから。

強欲の壺でも使って無いぞ。

あのドロークカードを。

入れてるだろ？

他の転生者、憑依者は。

俺は、入れ無いぞ。

怪獣のオリカを使っているのだから。

絶対に。

で、

「なあ、高町、三沢。」

「なんだい？」

「俺達、イエローって影薄いよな。」

「いきなり何だ!？」

「三沢は、この意味が分かるだろう?」

「・・・。」

「三沢?」

「高町、お前も毎日会っている筈なのに久しぶり(なの)って言われるだろ。」

「それは・・・。(今、なんかなのって?)」
イエローは悲しいな。

まあ、

「イエローには、そう目立って強い奴が居ないからな。」

「いや、」

「僕達、」

「結構、強いぞ。」

2人、一緒に言った。

「そうか?」

「お前もだろ!」

「そうかな?」

「いや、強いだろ。」

「まだ、使って無いカードが有るんでしょ？」

「まあな。．．．でも、目立つかは分かんぞ。」

「．．．。」

なんか、本当に悲しくなってきた。

ちくしょう。

2年生です。(後書き)

まあ、これからどう絡ませようか。

カレー。(前書き)

デュエル無し。

カレー。

今は、

「何で居るんだ・・・斎王琢磨？」

いや、十代の奴が居なくなっただから、

三沢に、頼まれて探していたら会ったんだが、

「さあ。それは運命では？」

嘘つけ。

確実に、俺をターゲットにしているだろう。

まあ、

「俺は、デュエルはしないぞ。」

ピクッ

俺は、デュエル馬鹿では無いぞ。

「じゃあな。」

「ちょっと待ってください！！」

何だ？

「・・・何か用か？」

「貴方が、持っているカードに私は運命を感じているのですよ。」

涙を流すな！！

にしても、

有ったか？

タロット的なカードなんて、

「タロットみたいなモンスターは無いぞ。」

絶対に、

「いえ、貴方には天使が見えるのですよ。」

・・・ゾグか？

いや、

あれの正体は悪魔だ。

見た目的に。

まあ、

「多分、無理だろうな。」

「・・・何故ですか？」

おい、ちよつと顔が怖いぞ。

でも、

カードを入れている四次元ポケット？からゾグを出して、
そのまま、ゾグを斎王に渡した。

「これですか・・・クッ!？」

斎王は、手を抑えた。

パサッ

ゾグのカードを地面に落ちた。

バチバチ

なんか、拒絶されてるぞ。

まあ、

「こいつは、同族嫌悪なんだ。」

効果的に。

「まあ、諦めてくれ。」

「グッ・・・。」

そして、ゾグを拾ってイエロー寮に戻った。

自室で

「まさか接触してくるとはなあ。」

予想はできていたが、

しかし、

「ゾグの事を知っているとは、」

レベル12 破滅根源天使ゾグ第一形態

ATK10000 DEF10000

光属性 天使族

「まあ、チートだ。」

でも、

条件が、

「自分のライフが1000ポイント以下の場合、自分フィールド場に存在するモンスターを全て破壊して通常召喚する。この場合、1体は破壊しなければならない。そして、相手のライフポイントはこのモンスターの攻撃力分回復される・・・。」

「此方が、悪魔の第二形態。」

レベル13 破滅根源天使ゾグ第二形態

闇属性 天使族

ATK15000 DEF15000

「ゾグが、フィールド場から離れた場合特殊召喚される。」
でも、

「デュエルマスタースか!？」
本当に。

でも、

弱点は、

「第一形態は、機械族モンスターとの戦闘を行う場合戦闘は行われず破壊される。」
で、

「第二形態は、光属性戦士族モンスターと1ターンに3度戦闘を行なった場合破壊される。」

まあ、

一言で言えば、

「カイザーと相性が悪いな。」

属性的に、

でも、

「召喚するのは、何処からでもOKなんだよ。」

手札、墓地、デッキ、除外されていても。

「まあ、大きいから納得できるけど。」

まあ、

「出す時は無いだろうな。」

まあ、

「分かんけど。」

で、数日後、

「樺山先生。」

目の前で、変装していたイエロー寮の寮長の樺山先生に言った。

「何ですか、東君？」

「カレー美味しかったです!!」

「ああ、ありがとう。」

いや、本当に美味い。

そういや、

「樺山先生の実家は、カレー屋？ですよ。」

「ええ、そうですよ。」

修学旅行の時に行こう。

確か、近くの筈だ。

でも、

「先生、イエローって影が薄いですよね？」

「そうですね。」

慣れたように言わないでくれ!!

ちなみに、カレーが食いたかったから樺山先生を尾行していました。

そして、リリカルメンバーは、
「美味しいね。このカレー。」
なのはが言った。

「本当。」

フェイトが言った。

「おかわりつと。」

ギンガはおかわり・・・3回目。
「うちも。」

タヌキカレーを食っているはやては言った。

「タヌキカレーってなんやあああああああ!？」

「静かに食べよう、はやてちゃん。」

なのはは、慣れた様子で注意した。

「・・・ごめんなあ。」

諦めているはやて。

『（涙目、可愛い!!）』

レッド寮、リリカルファンクラブの男子は悶絶中。

ユーノはなのはにア〜ンして食べさせられていたりして、
「ブルブル……。」
男子の殺気に耐えていた。

で、

「美味しいですね。」

「ああ。」

甘い空間を翼は作っていた。

……周りに殺気が有るけど。

で、

十代は、

島の反対側辺りで、

「腹減ったあああああああ!」
叫んでいました。

カレー。(後書き)

デュエルは、いつだろう？

短い修学旅行。(前書き)

デュエルは無いです。

短い修学旅行。

最近、白の結社つてのが増えた。

イエローも、俺、三沢、ユーノ以外の強者が出て行った。

で、

「白の結社か。」

もう、動き出したか・・・。

「負けたら、洗脳だからなあ。」

まあ、

「ジエネックスじゃあ、」

暴れてやるよ。

切り札とか使って、

「ケケツ。」

おっと、

「癖の笑い声が出たか。」

まあ、

「この程度なら聞こえんだろう。」

で、

「さてと、修学旅行だが、」

自由行動だあああああああ！！

まあ、

ほぼ全員が、白の結社で斎王に着いて行ったんだが、でも、ラッキー！！

「この童実野町に、樺山先生の実家のカレー屋だった筈だ。」

よし、

「探そうっと。」

「僕も、一緒に行くよ。」

ユーノが言った。

「ああ。（見張りか？）よし、三沢も行かないか？」

「行くぞー！！」

おい、十代達に放っておかれて怒るな。

まあ、

分かるけど。

で、見つけた。

けど、

「意外と、有名だな。」

「そうだね。」

目の前には、長蛇の列ができていた。

「まあ、大丈夫だろう。」

「ああ。」

「そうだね。」

で、

「美味い。」

「そうだな。」

「本当だね。」

カレー食っています。

あれ？

「そういや、高町？」

「何？」

「お前の親戚関係の女子達は？」

リリカル見ないぞ。

「さあ。翼達と一緒にじゃないの？」

ああ、

「翼の彼女と一緒ににか？」

「じゃないの。」

ん？

「あれ？ユーノ、なんか機嫌悪いな。」

「気のせいじゃない？」

ん？

三沢が、アイコンタクトで『その話題ダメ』か。

「・・・そうだな。」

まあ、大変だな。

俺には、恋愛フラグ自体が無いけどな。

・・・翼の折れればいいのに。

無理だろうけど。

で、

少し観光していて、

あれ？

「なあ、三沢。」

「何だ？」

「翼の彼女の名前って、何て名前だっけ？」

二つ名は、「戦の巫」で、

「百合野」

「椿。」

そうそう、百合野椿だ。

「確か、六武衆使いだっとな。」

「ああ、翼が渡したカードも有るらしいぞ。」

「シンクロモンスターも。」

ユーノが言った。

そうか、

「最近、女子でワンターキルしてるあの『戦の巫』か？」

「ああ。」

「よくワンターキルやってるね。」

まあ、他の二次創作でもそうだな。

つてか、六武衆ってこの時代のカードだっけ？

・・・まあ、気にしたらいけないか。

さて、

「もうアカデミアに帰るのか。」

え？

時間が経つのが早い？

イエローだから、十代達とは関係無いよ。
まあ、此処じゃあデュエルはできないな。
このオリ力達では、

「次は、ジェネックスか。」

切り札を出せるかな？

短い修学旅行。（後書き）

まあ、まだデュエルじゃあ無いです。

個人的に、六武衆って展開力がすごいなあ。

紫炎が、3体同時に出てくる。（実話です。）

そういえば、

何で、大嵐が制限？

永続罫がああああああ！？

これじゃあ、（自分の）罫とかの中心デッキとかフィールド魔法を使う人には辛いぞ。

ハリケーンの禁止。

光の護封剣とかの使い回しかな？

サイクロン・・・もう罫を破壊するなああああああ！！

フォーミュラとライブリアンは、まあ納得。

自分のデッキって、王宮のお触れに弱いなあ。

ジェネックス、1日目。
(前書き)

短いデュエルです。

ジェネックス、1日目。

なんか、

三沢が、ホワイトの方へ向かっていた。

だが、

「三沢？」

ビクッ

「な、何だ、堅治？」

「お前、ホワイト寮に行こうとしているだろう。」

「・・・。」

はあ。

「あのなあ、いくら構ってもらえないからってホワイト寮に行った
ら、」

「何だ？」

「俺達、イエローの影がもっと薄くなるぞ。」

いや、本当に、

「だが、」

「だがな、弱いから見向きにされていないんじゃないぞ。」

「どういう事だ？」

それは、

「わざと、焦らして自分から来るように仕向けているんだろう。今
の、お前みたいに。」

「・・・。」

まあ、恐らくだな。

「まあ、影が薄くなりたいのなら行けば良いんじゃないのか。」
そして、俺はイエロー寮に戻って行った。

で、

自室で、

「三沢が、消えるのは後何日だろう？」

確か、何とか博士と一緒にアカデミアを出るのだろう。

「まあ、イエロー寮の影が薄くなるのが嫌なんだ。」
そういえば、

「あいつが、裸でアカデミアを走るんだっけ？」

TFの藤原に認められた男だっけ？

あれ？

「この世界に、TFキャラ居たっけ？」

まあ、

「ジェネックスで分かるか。」

だけど、

「ペガサスが来るんじゃないか？」

ラーのコピーカードを、持った男を追って。

「OCGじゃあ、三幻神だけが使えないのだったけなあ。」

酷い劣化だったなあ。

まあ、

「原作が、スゴ過ぎだからな。」

しょうがないか。

で、

「ジエネックスが始まったが、
誰を狙おうかな？」

ノルマは、1日に1つだっけ。

まあ、

「ホワイトにするかな。」
全く、

「元は、ブルー寮だけど、」

強さは、他の寮の強者の混合で強い。
しかも、

「斎王が、変に強化したからな。」
いろいろと。

で、

イエロー寮の近くで、

「デュエルしないか？」

ホワイトに言った。

「・・・分かった。」

なんか、嫌な顔をされたんだが、
斎王、何か言いやがったな！！

「デュエル」

「先攻は俺だ。ドロー、俺は、モンスターをセツト。カードを2枚
伏せてターンエンドだ。」

伏せカードばっかだな。

まあ、良いか。

「俺のターン、ドロー。」

「罫カード、はたき落とし。そのカードを、墓地に送ってもらうぞ。」

「分かった。」

「だけど、

「メインフェイズ1に、墓地の魔法カード予期せぬ幸福を発動。」

「なっ！？今のカードか？」

「ああ。まあ、手札からも発動できるがな。このカードを、ゲーム
から除外する事でお互いにデッキから2枚をドロウする。このター
ンは、モンスターを召喚、特殊召喚できない。」

お互いに、デッキからカードをドロウした。
さて、

「魔法カード、予期せぬ不幸を発動。お互いにライフを半分に
つて、うおおおおおおお！？」LP2000

「何！？ぐわああああああ！？」LP2000

何か、吸い込まれるイメージが来た。

まあ、痛く無いけど。

「カードを2枚セットしてターンエンド。」

「俺のターン、ドロー。俺は、魔法カードサイクロン発動。その右
側の伏せカードを破壊する。」

どうかな？

「罾カード、モンスター・ショットを発動。自分のデッキの上から、
3枚めくり相手はモンスターカードを1枚を選択してそのモンス
ターのレベル×300ポイントのダメージを受けてもらうぞ。」

「何！？」

めくったカードは、

「1枚目、罾カード、2枚目、魔法カード、」

あれ？

「3枚目、モンスターカード・・・宇宙恐竜ゼットン！？」

「レベル10のモンスターだと！？」

ゴオオオオオオ

相手に、火の玉が落ちた。

「ぎゃあああああああああ！？」LP0

ま、まあ、

「と、取り敢えずメダルを、」

「そうだな、はいよ。」

メダルを2枚、渡された。

うん？

「もう1人倒したのかよ！」

「ああ。レッドの1年だ。」

早いつてか、

「あのデツキで、」

「火炎地獄が、よく来たのさ。」

うわっ、

「バーンって、嫌われるのに。」

俺、サイクロメトラ使った時にいろいろ面倒だったぞ。

「まあ、勝ちたいじゃん。」

「分かるけど。」

「じゃあな。」

そうして、ホワイト・・・元ホワイトのイエロー男子は行ってしまった。

そっぴや、

「あいつは、リリカルファンの1人だったわけ？」

カレーを食っていた時に見たぞ。

で、

『うおおおおおおお!!』

「何でええええええええええ!？」

ユ一ノは、30人近くの男子に追いかけて回されてた。

『きゃあああああああ!？』

ついでに、高町達女子はこの倍はある。

ジェネックス、1日目。
(後書き)

まあ、短いです。
ってか、眠い。

1日目、夕方まで（前書き）

まあ、短いです。

1日目、夕方まで。

で、

次は、誰にしようかなあ。

今のメダルの枚数は3枚だ。

まあ、リリカルは人気があるからすぐ集まるだろうけど。

男子は、嫉妬と女子のメダルだろう。

まあ、ユーノ頑張れ！！

で、

ホワイトを見つけた。

多分、ブルーだったけ？

あいつも、リリカルファンだったけ？

では、

「デュエルしないか？」

「・・・良いだろう。」

また、嫌な顔かよ！？

でも、

デュエルだ。

「「デュエル」」

「先攻は俺だ。俺は、ゴブリン突撃部隊を召喚。カードを2枚セツ

トしてターンエンドだ。」

レベル4 ゴブリン突撃部隊

ATK2300 DEF0

まあ、普通か？

「俺のターン、ドロー。俺は、魔法カード予期せぬ不幸を発動。お互いのライフポイントを半分にする。うおおおおおおおー！」

LP2000

「何！？ぐわあああああー！？」LP2000

また、このカードかよ。

最近、レベルの低い怪獣が居ないのだが・・・。

まあ、今は目の前に集中つと。

「さらに、カードを1枚セットしてつと。お互いのフィールド場に存在するセットされているカードを墓地に送って、」

「何！？」

相手は炸裂装甲か。

まあ、

「油獣ペスターを攻撃表示で通常召喚。」

レベル4 油獣ペスター

水属性 爬虫類族

ATK1600 DEF1600

コウモリとヒトデが、合体した様なのが出てきた。

「通常召喚・・・なら、罨カード落とし穴を発動。」

ペスターが、落とし穴に落ちかける、
けど、

ドガン

「ぐわあああああー！？」LP0

爆発しました。

「って、こつちもおおおおおお!!」LP1000
爆風が、くつ。

「なっ、何でダメージが?」

「油獣ペスターが、カード効果で破壊される場合、自分は1000ポイントのダメージを受けて、相手に2000ポイントのダメージを与える。」

「そっ、それじゃあ、」

「ああ、落とし穴が仇になっ たな。」

「・・・メダルだ。」

「ああ。」

1枚・・・。

まあ、

そんなに、まだ時間が経って無いからな。

で、

「さて、なんか早く終わるなあ。」

まあ、俺のオリカが強いのは分かるが、
「攻撃か防御のデッキかなんだよなあ。」

どっちもどっちだよなあ。

まあ、バーンデッキだけど。
にしても、

「予期せぬ不幸・・・どうしよう?」

強力だが、

「ホワイトには、別に良いか。」

でも、

「全部で1500枚だっけ?」

メダル。

「今、4枚。」

今は、

午後の2時、

「後、1人ホワイト探すか。」

で、

「3時間も、探して見つけれないって。」

あいつら、

「すぐ、逃げやがって!」

まあ、

バーンは嫌だよなあ。

だが、

「夜は、」

イエスマンで動いてやろっと。

で、

「アーカナイト・マジシャンでプレイヤーに直接攻撃!!」

「くそおおおおおお!!」LP0

ユーノがデュエルをしていた。

相手のメダルが1枚落ちた。

「こ、これで10人目だ。」

「次は、俺だああああ!!」

「くそ!!」

実は、全員癖の有るデッキを使っている。

例えば、

「ヴィジャ盤の効果を発動!!」

や、

「魔法カード、魔女狩りを発動!!」

まあ、メタなカードを入れているって事。

でも、

あまり、デュエルの上手い奴は居ないので、

「ぐわあああああ!!」LP0

メダルが1枚落ちた。

ユーノの体力と精神力が持ったら勝てます。

1日目、夕方まで。（後書き）

最近、レベルの低い怪獣が居ない。
まあ、考えるか。

出演、怪獣。

レベル4 油獣ペスター

水属性 爬虫類族

ATK1600 DEF1600

このモンスターは、お互いのフィールド場のセットカードを1枚ずつ、墓地に送って通常召喚する。

このモンスターが、カード効果で破壊される場合、このカードのプレイヤーに1000ポイントのダメージを与え、相手プレイヤーに2000ポイントのダメージを与える。

カオスは、S i nのパクリ。
(前書き)

やり過ぎです。

カオスは、Sinのパクリ。

で、

夜の9時に、

「着替えてつと。」

もちろん、イエスマンの衣装。

では、

「行くか。」

で、

「カオスリドリアスで、プレイヤーに直接攻撃!!」

「ぐわあああああ！？」LP0
カタッ

ホワイトの男子の懷から、メダルが2つ落ちた。
そして拾って、

テレポーション

「きつ、消えた！？」

で、

「ふむ。」

カオス怪獣は、最低攻撃力が大体2500ぐらいだからなあ。
Sinのパクリだなあ。

デメリットが全然無いけど。

コピーされた怪獣は、入れて無いぞ。

入っているのは、全部カオス怪獣だけだ。

「今のメダルは、合計6枚か。」

そっういや、プロとかも来ているのかな？

まあ、良いけど。

では、

「デュエル」

相手はブルーの男子。

「俺の先攻だ。ドロー、俺はモンスターを裏側守備表示で召喚。カードを2枚セットしてターンエンド。」

まあ、終わるかな？

「私のターン、ドロー。私は、カオスヘッダーを攻撃表示で召喚。」

レベル1 カオスヘッダー

光属性 悪魔族

ATK0 DEF0

「攻撃力が0だと!？」

終わせるぞ。

「魔法カード、カオス・インパクトを発動。カオスヘッダー以外のカードを全て破壊する。このターン、カオスヘッダーは攻撃できない」

い。」

「何だと!？」

破壊されたのは、モンスターのクリッター、罾カードの天罰、奈落の落とし穴。

「破壊されたクリッターの効果で、手札にクリボーを加える。」
甘いぞ。

「私は、カオスリドリアス、カオスゴルメデ、カオスバグを特殊召喚。」

レベル7 カオスリドリアス

闇属性 鳥獣族

ATK3000 DEF2500

レベル8 カオスゴルメデ

闇属性 岩石族

ATK3500 DEF3000

レベル7 カオスバグ

闇属性 機械族

ATK2500 DEF2000

「どっ、どういう事だ!？」

焦るよな。

「カオスヘッダーが、フィールド場に存在する時にこのモンスター達は特殊召喚できる。」

ちなみに、デッキからでもOKだ。

カオスヘッダーが、破壊されない限りは最強に近い。

「プレイヤーに、3体で直接攻撃!！」

「ぎゃああああああああ!？」

ドガン

カタッ
メダルが3つ落ちてきた。
で、拾って、
テレポーテーション

で、デュエル後、

「ここで、ロストギア反応が有った筈やで。」
はやてが言った。

目の前には、クレーターができていた。

「多分、あのイエスマンって人だね。」

ギンガが言い、

「だろうね。」

フェイトが言い。

「今度は、絶対負けない!!」

なのはが決意した。

「・・・あれ？」

「どうしたの、はやて？」

フェイトが聞いてきた。

「いや、何でも無い。（真面目に名前を呼ばれたような？）」

まあ、ちよつと主人公の状態が今おかしいので。

一方、堅治は、
「攻撃力が高いモンスターで、相手を潰すのは気分が良い!!」
ケケッ。

メダルの合計は、9枚。

カオスは、Sinのパクリ。（後書き）

後悔は、有りません。

カオスヘッダーが、破壊されたらカオス怪獣は破壊されます。

それ以外に、弱点有りません。

そして、

コラボしたい！！

この際、遊戯王を書いている逆お気に入りユーザーの方にメッセージボックスを使ってメッセージを送ろうかな。

いや、本当に。

不満。(前書き)

デュエル無し。

不満。

で、

あのイエスマンのカオスデッキを使ってから、アカデミアでは、イエスマンとのデュエルを禁止され、見つけた場合は、教職員に連絡するようになった。

で、自室で、

「まあ、クレーターが出来ていたからしょうがないか……。」
クレーターは、カオス・インパクトのカードを使った時に出来ただけ。

「でも、メダルは9枚か……。」
全部のメダルのは数は、1500枚……。

1日1回は、デュエルしないといけないからなあ。

まあ、

「まず、デュエルの相手は……。」

まともに、強いのは？

「居ないな。」

いや、怪獣を使っている俺が言うのはおかしいが、
「本当に弱い。」

だってなあ。

「伏せカードは無い、モンスターの攻撃力が平均1500ぐらいの
通常モンスター、リクルーターの効果を使っていない……。」

考えたらキリが無い、

「レベルが低い……。」

これじゃあ、シンクロを使ったりするのがバカとしか思えない。

まあ、人の事は言えないな。

でも、

「禁止、制限が緩い。」

まあ、俺は怪獣しか使わないから関係が無いけど。
どれだけ緩いかは、

「調べてくれ。」

遊戯王のホームページに当時の……。

いや、

「それよりも、少し緩い。」

……。

頭痛を起こしそうだ……。

(こっちは、イライラもするけど。)

電波か……。

ん？

「何で、二次ファンの遊戯王小説のモブキャラはあんなに強い？」

いや、こっちも前のデュエルのモブキャラも強いが、
(あれは、ただレベルを話の都合的に上げたんだ。)
らしい。

で、

2週間後、

「メダルは、26枚か・・・。」
はあ。

消化不良＝満足できないぜ。

かな？

不満（後書き）

ここでは、シングルでレベル4以下の攻撃力が高いのは2000、3000円ぐらいからです。

理由は、ビートが多いからかな？

夜。
(前書き)

まあ、少しだけ怪獣が出ます。

夜。

自室で、

「次は、どうしようかなあ。」

今のメダルの26枚・・・。

「ペガサスが、そろそろ来るよなあ。」
「ってか、」

「ラーのコピーカードが、もう来てるな。」

だって、

「こいつが反応している。」

手に持っている、黒く光っているカードを見た。

「太陽獣バンデラス・・・バンデラス系宇宙の太陽の化身。」

レベル10 太陽獣バンデラス

炎属性 幻神獣族

ATK? DEF?

まあ、同じ存在だからな。

いや、こっちの方が上か？

ラーは、人の考えから生まれたけど、
バンデラスは、太陽自身だから。

まあ、どっちも人が考えた存在だけど・・・。

「さて、どうしようかな。」

ラーのコピーカードを持っている奴と、デュエルしたらペガサスに

このカードの事の説明をしないとイケないからなあ。

「一応、違法か・・・。」

でも、あの会長だとデュエルしたらOKしそうな感じが。

「まあ、動かないでしょう。」

だから、デュエルは夜からだ。

で、夜。

「俺は、分体ギアクーダトークン2体でプレイヤーに直接攻撃!!」
LP2500

レベル4 分体ギアクーダトークン
地属性 雷族

ATK1800 DEF1800

「くそおおおおおお!!」LP0
カタッ

メダルが、3枚飛んで来た。
拾ってつと。

「ありがとうございます!!」
プロに礼を言った。

で、

「まさか、プロが居たとは、」
ジヤイアントウィルスの効果が鬱陶しい。
でも、

「早く、まともなデュエル描写を書け!!」
（分かってるって!!）
はあ、

「29枚か・・・」
まあ、

「ギアクーダって、かなり強いな。」
（略）CO2さんのアイデア募集した怪獣。
生け贄要員のトークンが整うし。

「コラボも、決定したみたいだし。」
いや、本当にありがとうございます。
本当に嬉しいです!!

確か、

あつちの主人公は、完全なオリカ使いでユベルの妹？が居るのだったけ？

まあ、

「まだ、先らしいけど。」

自室で、

「早く、寝ようっと。」

あの後、人が見つからなかった。

まあ、

「夜の１１時に、散歩して居た人はあのプロデュエリストだけだったけど。」

夜道で、デュエルを申し込みました。

そして、眠った。

で、亀7は、

「手駒が欲しいな。」

調度良いのは・・・。

居た！！

「ライディンググロイドのディアブロー！」

ディアブロを捕まえさせようかな。

いや、

「処分されるのにしようか？」

まあ、

「デュエルを考えないとなあ。」

夜。（後書き）

どうも、亀7です。

（略）CO2さんに、一応コラボが決まりました。
後、調度良いアイデアの怪獣を出しました。

レベル8 吸電怪獣ギアクーダ

地属性 雷族

ATK2600 DEF2400

分体ギアクーダトークンが出せます。

ありがとうございます！！

さて、手駒をどう捕まえようかな？

番外編 出演怪獣、アイデア怪獣。説明（増えたら、ここに全て書きますので

説明。

番外編 出演怪獣、アイデア怪獣。説明（増えたら、ここに全て書きますので

これは、アイデア募集で来た怪獣か、出演済みの怪獣の紹介です。
ウルトラマンの名前は、目印です。
一応、GXからです。

ウルトラQ

風船怪獣バルンガ

誘拐怪人ケムール人

隕石怪獣ガラモン

初代ウルトラマン

地底怪獣テレスドン

宇宙恐竜ゼットン

古代怪獣ゴモラ

ドクロ怪獣レッドキング、出演済。

透明怪獣ネロンガ、出演済。

油獣ペスター、出演済。

宇宙忍者バルタン星人

亡霊怪獣シーボーズ

メガトン怪獣スカイドン

怪獣酋長ジェロニモン

深海怪獣グビラ

襟巻き怪獣ジラース

四次元怪獣ブルトン

宇宙忍者バルタン星人二代目

凶悪宇宙人ザラブ星人

変身怪獣ザラガス

怪奇植物グリーンモンス、出演済。

ミイラ怪人ミイラ人間

ミイラ怪獣ドドンゴ

彗星怪獣ドラコ

地底怪獣再生テレスドン

彗星怪獣再生ドラコ

吸血植物ケロニア

三面怪人ダダ

海獣ゲスラ

脳波怪獣ギャング

ウルトラセブン

放電怪獣エレキング、出演済。

宇宙ロボットキングジョーは複数のアイデア。

軍艦ロボットアイアンロックス

再生怪獣ギエロン星獣

双頭怪獣パンドン

戦車怪獣恐竜戦車

分身宇宙人ガッツ星人

幼獣エレキング

ウルトラマンジャック

ヘドロ怪獣ザザン

地底怪獣デットン

電気怪獣エレドータス、出演済。

古代怪獣キングザウルス三世

宇宙大怪獣ベムスター

台風怪獣バリケーン

巨大魚怪獣ムルチ

光怪獣プリズ魔、出演済。

宇宙忍者バルタン星人Jr.

ロボット怪獣ビルガモ

魔神怪獣コダイゴン

発泡怪人グロテス星人

人魂怪獣フェミゴン

怠け怪獣ヤメタランス

竜巻怪獣シーモンス

津波怪獣シーゴラス

暗殺宇宙人ナツクル星人

用心棒怪獣ブラックキング

凶暴怪獣アーストロン、出演済。

始祖怪鳥テロチルス

古代怪獣ツインテール、出演済。

地底怪獣グドン、出演済。

爆弾怪獣ゴーストロン

蜃気楼怪獣バラゴン、出演済。

ウルトラマンエース

異次元超人エースキラ、出演済。

異次元人ヤプール、一応出演済。

クノイチ超獣ユニタング

サボテン超獣サボテンダー

ミサイル超獣ベロクロン

二次元超獣ガマス

牛神超獣カウラ

大鳩超獣ブラックピジョン

異次元超獣マザリユース

マグマ超人マザロン人

古代怪獣カメレキング

天女超獣アブラサール

満月超獣ルナチクス

地獄星人ヒツポリト星人

ガス超獣ガスゲゴン

一角超獣バキシム

怪魚超獣ガラン

蛾超獣ドラゴリー

鉄人ロボットエースロボット

ミサイル超獣ベロクロン?世

最強超獣ジャンボキング

ウルトラマンタロウ

宇宙大怪獣アストロモンス

液体怪獣コスモリキッド

再生怪獣ライブキング

閻魔怪獣エンマーゴ

火山怪獣バードン

百足怪獣ムカデンダー

宇宙怪獣改造ベムスター

ミサイル超獣改造ベロクロン?世

サボテン超獣改造サボテンダー

泥棒怪獣ドロボン

グランドキングは複数のアイデア。

暴君怪獣タイラントは複数のアイデア。

月光怪獣改造エレキング

宇宙怪獣ゴルゴザウルス？世、出演済。

冬眠怪獣ゲラン、出演済。

ウルトラマンレオ

サーベル暴君マグマ星人、双子怪獣ブラックギラス、レッドギラスは複数のアイデア、出演済。

ブラック司令

全ての円盤生物

宇宙昆虫サタンビートル

暗黒星人ババルウ星人

ウルトラマン80

硫酸怪獣ホー

戦闘円盤ロボフォー

ウルトラマングレート。全てアイデアは来ています。

ウルトラマンパスワード

宇宙忍者サイコバルタン星人

宇宙忍者バルタン星人

青色発泡怪獣アボラス

赤色火焰怪獣バニラ

宇宙恐竜ゼットン

彗星怪獣ドラコ

灼熱怪獣ザンボラー

ウルトラセブン 1994

太陽獣バンデラス、説明で出演済。

鉄鋼ロボット大鉄塊

ウルトラマンゼアス

Sカプセル怪獣ダークラー以外。

ウルトラマンティガ

超古代怪獣ゴルザ、超古代竜メルバは複数のアイデア、まとめて出演済。

ゾンビ怪獣シーリザー

バリヤー怪獣ガギ

巨大機械人形ゴブニュ（ヴァハ、ギガ、オグマ）

魔神エノメナ

恐竜兵器ウエポナイザー

異形進化怪獣メタモルガ

異形進化怪獣エボリユウ

宇宙魔神チャリジャ

超古代尖兵怪獣ゾイガー

超古代怨霊翼獣シビトゾイガー

邪神ガタノゾーア

遮光器土偶魔神ドグーフ

闇の戦士達

邪神デモンゾーア

イーヴィルティガ

岩石怪獣ガクマ α

岩石怪獣ガクマ β

変形怪獣ガゾート

変形怪獣ガゾート？

炎魔戦士キリエロイド

炎魔戦士キリエロイド？

ウルトラマンダイナ

宇宙球体スフィアと合成獣、CO₂さんのコラボでも出演済。

バロック怪獣ブンダー

彗星怪獣ガイガレード、出演済。

人造ウルトラマンテラノイド

超合成獣人ゼルガノイド

暗黒惑星グランスファイア

再生怪獣グロッシーナ、出演済。

宇宙寄生獣サイクロメトラ、出演済。

高速怪獣デキサドル、説明で出演済。

変異昆虫シルドロン

ハイパークローン怪獣ネオザルス

超古代怪獣ゴルザ？

電腦魔神デスフェイサー

宇宙格闘士グレゴール人

特殊戦闘用メカニックモンスターコガラオン

宇宙超獣トロンガー

ゴミ塊物ユメノカタマリ、出演済。

ウルトラマンガイア

破滅魔神ブリッツブロッツ、ゼブブ、超巨大単極子生物モキアン

巨大異形獣サタンビゾー

全ての自然コントロールマシン

全ての金属生命体

根源破滅天使ゾグ、説明で出演済。

最強合体獣キングオブモンス

巨大顎海獣スキューラ

骨翼超獣バジリス

超空間波動怪獣メザード達

光熱魔石レザイト

反物質怪獣アンチマター

絶対生物ゲシエノク

宇宙戦闘獣コツヴ、宇宙雷獣パズズはアイデアが複数。

宇宙戦闘獣超コツヴ、宇宙雷獣超パズズはアイデアが複数。

時空怪獣エアロヴァイパー

根源破滅海神ガグゾム

地帝大怪獣ミズノエノリュウ

巨獣ゾーリム

ウルトラマンネオス

暗殺怪獣グラール、説明で出演済。

究極帝王メンシュタイト、出演済。

ウルトラマンナイス

ウルトラマンコスモス

カオスヘッダー、出演済。

カオスリドリ阿斯、出演済。

カオスゴルメデ、出演済。

カオスバグ、出演済。

邪悪宇宙生命体ワロガ

遊星守護神パラストン

侵略変形メカヘルズキング

対カオスヘッダー残滅兵器ヘルズキング改

青銅魔神ゲシュート

カオステールダス

カオスネルドラント

カオスドルバ

カオスジェルガ

カオスエリガル

カオスデルゴラン

精神寄生獣カオスジラーク

カオスネルドラント？

カオスエリガル？

カオスクレーバーゴン

カオスは、お蔵入りです。

ウルトラマンネクサス

S B | ガルベロス

S B | ペドレオン

S B | ノスフェル

S B | バクバズン

S B | ラフレイア

S B | ゴルゴレム

S B | パンピラ

S B | グランテア

S B | リザリアス

S B | メガフラシ

S B | ペドレオン・クローズ

S B | クトウル

S B | イズマエル

ビーストヒューマン

ウルトラマンマックス

幻影宇宙人シャーマー星人

溶岩怪獣グランゴン

冷凍怪獣ラゴラス

進化怪獣ラゴラスエヴォ

挑発星人モエタランガ

宇宙化猫ミケ、タマ、クロ

超音速怪獣ヘイレン、出演済。

機械獣サテライトバーサーク

機械獣スカウトバーサーク

機械獣ギガバーサーク

伝説怪龍ナツノメリュウ

凶獣ルガノーガー

星獣ケプルス

装甲怪獣レッドキング

放電竜エレキング

夢幻神獣魔デウス、ネタに困って出した為、お蔵入りです。

ウルトラマンメビウス

暗黒四天王、暗黒宇宙大皇帝エンペラ星人

究極超獣Uキラーザウルス

究極超獣Uキラーザウルス・ネオ

宇宙鳥獣ガロウラー

要塞ロボットミサイルキング

宇宙量子怪獣ディガルーガ

宇宙三面魔像ジャシュライン

宇宙有翼獣アリゲラ

宇宙凶険怪獣ケルビム

無双鉄神インペライザー

魔神怪獣コダイゴンジアザー

宇宙斬鉄怪獣ディノゾール

宇宙斬鉄怪獣ディノゾールリバーズ

宇宙礫岩怪獣グロマイト

リムエレキング

暗黒魔鎧装アーマードダークネス

巨大魚怪獣ゾアムルチ

円盤生物ロベルガー

ウルトラマンゼロは、全てアイデアは来ています。

映画

妖怪怪獣ダストパン

影法師

大怪獣バトル

ファイヤーゴルザ

EXゼットン

一角超獣バキシمام

異次元超人カブトザキラー

EXタイラント

EXタイラント・デスホーン

EXエレキング

究極生命体レイブラット星人

EXゴモラ

EXレッドキング

怪獣バスターズ

ラスボス、裏ラスボスは、東堅治の理不尽な切り札。

まだ、途中です。

番外編 出演怪獣、アイデア怪獣。説明（増えたら、ここに全て書きますので

多いけど、途中です。

恐怖、カオスの能力。
(前書き)

カオスの暴走です。

恐怖、カオスの能力。

で、

白い部屋、

「またか、亀7?」

目の前のかい亀に言った。

「今度は、手駒が欲しいからディアブロを捕まえてきてくれ。」

おいおい、

手駒ね。

欲しいけど・・・。

「で、D・ホイールは?」

持っていないぞ。

「後ろ。」

「うん?」

振り返って見ると、

「・・・これは?」

D・ホイール・・・?

「D・ホイール。」

・・・何で、

「プラシドのT-666なんだよ!?!しかも、金ぴかだし!?!」
合体しなければいけないのか!?

「いや、良いのが有ったから、」

「いや、合体するのか!?!」

「合体しなくて良いから。」

できるのかよ!?!

「あれ、前のはどこに行った?」

「いや、それを改造した。」

「おiiiiiiiiiiii!?!」

良いのか?

それで、

「まあ、イエスマンの金ぴかの甲冑を着てやってくれ。」

「目立つな、おい。」

悪い意味で……。

ってか、

「デッキは？」

あいつら、DNA移植手術で光属性に変えてからのA・ボムを出してくるぞ。

しかも、バトルロワイヤル……。

「デッキは、カオスデッキだ。」

うわーお。

「勝てるのかな？」

「まあ、ゴリ押しで何とかなるだろう。」

って、

「何か、また吸い込まれるような。」

まさか、

「そういう事。」

って、ブラックホールが来たあああああ！？

「じゃあ、できるだけ捕まえてこいよ。」

おiiiiiiiiiii！？

東は、ブラックホールに吸い込まれた。

で、イエスマンの金ぴかの甲冑を着て、
レーンを爆走中、

「年齢は元の25に戻っているな。」
さてと、

「手駒はどこだ。」

『死ネ!!』

うおつと。

後ろから、A・ボムが出てきた。
避ける!!

レベル2 A・ボム

ATK400 DEF300

つて、

「10体も居る・・・。」

後ろには、約10体のディアブロとA・ボムが居た。
多いな、おい!!

しかも、DNA移植手術が発動済か!!
じゃあ、

カードを5枚引いて、

「ドロー。私は、カオスヘッダーを召喚。」

レベル1 カオスヘッダー

光属性 悪魔族

ATK 0 DEF 0

「さらに、デッキからカオスリドリアス2体、カオスバグ2体を特殊召喚する。」

レベル7 カオスリドリアス

闇属性 鳥獣族

ATK 3000 DEF 2500

レベル7 カオスカオスバグ

闇属性 機械族

ATK 2500 DEF 2000

『何！？』

全員、同じリアクション。

「バトル、カオスリドリアス1体目でA・ボムを、2体目でプレイヤーに直接攻撃！！」

『カウンター罠、攻撃の無力化。』

別のディアブロが、止めに入った。

だが、

バリン

『何！？』

攻撃の無力化が破壊された。

「カオスリドリアスの効果。このモンスターが、フィールド場に存在する場合、自分のターンのバトルフェイズ中に発動される相手の魔法、罠カードは発動と効果は無効化され破壊される。そして、相手に500ポイントのダメージをあたえる。2体が居るから1000ポイントのダメージだ。」

『何、グウウウー！！』LP 3000

そして、1体目がA・ボムに光弾を吐いた。

『グオオオオオオオ！?』LP1400

「2体目で攻撃!!」

『戦闘によって、破壊され墓地に送られたA・ボムノ効果・・・ゲームカラ除外サレテイルダト!?』

ケケッ。

「カオスバグの効果、このモンスターがフィールド場に存在する場合、相手の機械族モンスターはデュエル中効果は無効化される。墓地に送られる場合ゲームから除外され、私はその機械族モンスターの攻撃力分のライフを回復する。2体が居るから800ポイント回復する。」LP4800

『何!?』

そして、2体目が光弾を吐いた。

『グワアアアアアア!?』LP0

ライフが0になったディアブロは、闇に消えた。

回収したのか?

でも、

「カオスバグ1体目で、もう1体のA・ボムを。2体目でプレイヤーに直接攻撃!!」

カオスバグが踏み潰しに行った。

『グワアアアアアア!?』LP4000↓1900↓0

「フフ。」LP4800↓5600

そして、2体目のディアブロも闇に消えた。

「カードを2枚セットしてターンエンド。」

まだ、手札は3枚だ。

ケケッ。

で、

「合計30体だ。」LP28000
もの凄い楽だ。

当たり前だけど・・・。

「これで終わりだ。じゃあな。」

そして、加速させてD・ホイールと一緒に消えた。

自室で、
「何か、眠い。」
D・ホイールは、異空間の中に入れた。
つてか、入った。
呼んだら来るらしい。
まあ、寝よう。
お休み。

恐怖、カオスの能力。（後書き）

まあ、弱点はカオスヘッダーの破壊で巻き添えで破壊されます。まあ、戦闘でも破壊できますがね。

カオスヘッダー自体の効果で防ぎますが・・・。

急展開。
(前書き)

多いな。

急展開。

で、アカデミア校長室で

「ほう、カオスというカードを使うイエスマンというのが居るのデス力？」

白髪のペガサス会長が言った。

「ええ。今は、確認されていませんが……。」

それに、鯨島校長が応えた。

「ふむ。私は、シンクロモンスターのカードが存在する事は翼ボーイと会って知っていますが……。」

どうやら、ラーのコピーカードとデュエルしたのは翼らしい。

「しかも、ダメージの実体化とは……。」

「一応、参加者には金色の甲冑を着た男とのデュエルはさせないように通告しましたが……。」

「それを守ってくれるかは分かりませんネ。」

「ええ。それに、光の結社の方も、」

「噂は聞いています。」

「考え物です……。」

で、自室で、

「眠たい・・・。」

最近、リリカルを見ないな。

ヴィヴィオに会いにでも行っているのか？

「いや 年齡的に親でも無いのか？」

高2だし。

（それは、平行世界って事で納得してくれ。）

ああ。

無理が有るのか？

（あいつら、中学卒業後にミッドチルダに行ってすぐ仕事してそれから年齡以外は原作通りに進んだらしい。）

期間が短くて無理過ぎじゃないか？

中学卒業後って・・・。

（言っな！！）

後、何でテレパシー？みたいなので会話？しているんだ？

（まあ、ノリだ。）

おい。

で、

リリカルは、

「マスター・ヒュペリオンで、」

高町なのは、

「裁きの龍で、」

フェイト・T・ハラオワン、

「マシンナーズ・フォートレスで、」

八神はやて、

「E・HEROアナザー・ネオスで、」

ギンガ・ナカジマ、

「墓守りの大神官で、」

高町ユーノ、

『プレイヤーに直接攻撃!!』

それぞれの切り札が攻撃した。

もちろん、

『ぎゃあああああああああ!?!』 L P O

勝てる奴は居ませんでした。

ちなみに、デッキは八神はやて以外は一新したらしい。
本人曰く、

「だって、充分強いやん。」
らしい。

で、

翼は、

「No.39 希望皇ホープで攻撃!!」

もちろん、

「くそおおおおお!!」LP0

勝てる奴は居ません。

なぜ、翼がエクシーズを持っているかは転生させた神の贈り物。
ちなみに、

百合野椿の方は、アルカナフォースのインチキ運命力に負けたらしい。

まあ、洗脳はできなかったらしい。

翼との愛で・・・。

（リア充が・・・。）

なんでも、洗脳されるデュエルの前の休日のデートにR18タグを付けなければいけない事が有った事も関係有るらしい・・・。

（・・・殺。）

で、東は、

「かなり強くしたな。」

（まあ、環境トップとかだしな。）

それぞれのデュエルを観ていました。

で、

「クツ、あの者の運命が見えない！！」

何度も、タロットで東の未来を見ていました。

ただ、カードが白紙にしか見えなかった・・・。

で、

「なのはさん達はどこだろうね？ティアナ。」

私服のスバル・ナカジマに、

「そうね。」

ティアナ・ランスター。

参加者用のメダルは、管理局が作った精巧な偽物。

ジェネックスの参加者、
イレギュラーも含め、
約2000人。

急展開。
(後書き)

まあ、こうしないとおかしい部分が出てくるので・・・。

生命の消失。(前書き)

今回は、

生命の消失。

で、亀7は、

さてと、ディアブロ20体は精霊世界に送った。

残りの、10体は誰かのコピーにしよう。

まあ、詳しくは活動報告のディアブロの利用。に書かれています。

で、東は、

「まあ、ディアブロの介入で少し変わるか。」

え？

何が？

まあ、いろいろ。

じゃあ、相手を探さないと昼だし。

で、

「見つけた。」

けど、

「良いのか？」

ティアナ・ランスター、スバル・ナカジマって……。
仕事とかどうした？

いや、本当に……。

まあ、イエスマンが問題だからか？

……しょうがない。

「なあ、あんたらデュエルしないか？」

俺は、後ろから声をかけた。

『え！？』

おい、びつくりするなよ。

つてか、ティアナ？は睨み過ぎ……。

「あのう、貴方の名前は？」

スバルが聞いてきた。

「ああ、俺はアカデミアのイエロー寮の2年の東堅治。」

「あたしは、スバル・ナカジマ。で、こっちが親友のティアナ・ランスター。」

「どうも……。 （ちよつと！？スバル、この人って。） 」

ティアナは、スバルに念話した。

「（え？何、ティア。）」

「（・・・なんでも無いわ。）」

ティアナは、スバルが東の事を注意人物という事を覚えて無いな、
と思いつのを止めた。

「そうかい、じゃあ、そろそろデュエルしよう。」

「え？でも、貴方は1人で、」

ティアナは、疑問を感じた。

「いや、変則デュエルで良いんだ。」

負けてもね・・・。

「いや、でもそれって、」

「ティア、良いじゃないOKしてくれたんだから。」

「・・・分かったわよ。」

諦めた、つてか慣れているのか？

まあ、

「じゃあ、俺が先攻で。」

「ええ。」

「はい。」

おお、ティアナは睨んでるなあ。

まあ、良いけど。

で、近くでリリカル達は、

「何で、スバル達が！？」

ギンガが、驚いていた。

「なんでも、休暇をとって遊びに来たって。」

フェイトが応えた。

「どうしよう、スバルのデッキって私の前のデッキ……。」

ギンガは、頭を抱えた。

スバルがああデッキを使えるか……。

では、

『デュエル』

順番は、俺↓スバル↓ティアナ。

LPは4000です。

最初のターンは攻撃できない。

で、

「ドロー。俺は、永続魔法生命の消失を発動。」

絵柄がでかい大樹のカードが出てきた。

「カードを1枚セットして。俺は、古代怪獣ツインテールを召喚。」

レベル3 古代怪獣ツインテール

地属性 爬虫類族

ATK1500 DEF1500

なんか、エビ？みたいなのが出てきた。

これは、深淵さんのアイデアで効果は少し強化しました。

「美味しそう。」

「え！？」

スバルの一言に俺、ティアナが驚いた。
で、

「とつ、取り敢えず、古代怪獣ツインテールの効果で地底怪獣グドンをデッキから1枚手札に加える。」

そして、

「生命の消失の効果を発動。モンスターが召喚された場合、このカードのプレイヤー以外のプレイヤーは、そのモンスターのレベルだけデッキから墓地に送る。古代怪獣ツインテールのレベルは3、よって3枚墓地に送ってくれ。」

「え！？」

まあ、デッキ破壊は驚くよな。

「うっ、サイバー・ドラゴンがあゝ。」

「デッキ破壊……。」

スバルは、サイバーかよ！？

……で、ティアナは言わないか、

当たり前だけど・・・。

さてと、

「ターンエンド。」

次はスバル。

「あたしのターン、ドロー。あたしは、サイバー・ドラゴン・ツヴァイを召喚。」

レベル4 サイバー・ドラゴン・ツヴァイ
ATK1500 DEF1000

「生命の消失の効果で、4枚墓地に送ってくれ。」

オーバーロード・フュージョンが危険だ。

「・・・。」

どっちも、言わないのかよ!?

「カードを2枚セットしてターンエンド。」

次は、ティアナ。

なんか、嫌な予感が・・・。

「私のターン、ドロー。私は、魔法カード火炎地獄を発動。相手に1000ポイント与え、自分は500ポイントのダメージを受ける。うっ。」LP3500

やっぱり、バーンかよ。
でも、

「永続罠オープン、モンスター・ドレインを発動。自分フィールド場に、存在する怪獣と名のつくモンスターを墓地に送りその攻撃力分回復する。古代怪獣ツインテールを墓地へ。くううううううう!？」LP4500

「もう1枚の火炎地獄を発動。うっ。」LP3000
まだ、有ったのかよ!?
って、

「ぐおおおおおおお!？」LP3500

防ぎきれない……。

「モンスターを1体、カードを1枚セットしてターンエンド。」

だが、

「エンドフェイズ時に、生命の消失の効果を発動。」

「えー!？」

「まだ、有るの!？」

有るよ。

「自分フィールド場に存在する怪獣と名のつくモンスターが墓地に送られたターンのエンドフェイズ時に、そのモンスターのレベルの数だけをデッキから墓地に送ってもらう。この効果も俺以外のプレイヤーだけだ。さあ、もう3枚墓地に送ってくれ。」

「……。」

無言でデッキから墓地に送った。

テンション低いなあ。

合計10枚墓地に送った。

どうなるかな？

生命の消失。（後書き）

デッキ破壊です。

グドン、ツインテールは、深淵さんのアイデアです。

出演、怪獣。

レベル3 古代怪獣ツインテール

地属性 爬虫類族

ATK1500 DEF1500

このモンスターを召喚・特殊召喚した場合、デッキから地底怪獣グドンを手札に加える。

変則デュエル。(前書き)

まあ、こうなりました。

変則デュエル。

デュエルの状況

東 LP 3500

フィールド場のモンスターは0

魔法&・罾カードゾーンに、永続魔法生命の消失、永続罾モンスター・ドレイン。

スバル LP 4000

フィールド場に、サイバー・ドラゴン・ツヴァイが攻撃表示。

魔法&・罾カードゾーンに、2枚セット。

ティアナ LP 3000

フィールド場に、モンスター1体セット。

魔法&・罾カードゾーンに、1枚セット。

で、

「俺のターン、ドロー。俺は、地底怪獣グドンを攻撃表示で召喚。」

レベル4 地底怪獣グドン

地属性 恐竜族

ATK1900 DEF1900

手がムチになっている怪獣が現れた。

「さらに、永続魔法生命の消失の効果で4枚墓地に送ってもらおう。
だが、

「召喚した時に、罨カード落とし穴を発動。」

「ちよつと、スバル!？」

スバルが発動させた。

そして、グドンは落とし穴に落ち、

「永続罨モンスター・ドレインの効果でグドンを墓地に送る。」

P4900

グドンは、落とし穴に落ちずそのまま消えた。

「あつ、忘れてた。」

「スバル。」

おお、恐いね。

「ゴメン、ティア。」

まあ、良いけど。

「まあ、取り敢えず4枚墓地に送ってくれ。」

「。。。。」

無言。。。。

空気が重い。。。。

「で、俺はカードを1枚セットしてターンエンド。そして、怪獣が
墓地に送られたから生命の消失の効果で4枚墓地に送ってくれ。」

「。。。。」

で、一方、

「珍しく、デッキ破壊だね。」

フェイトが言った。

「そうやな。（しかも、守り中心やし。）」
はやてが言った。

で、スバルのターン。

「あたしのターン、ドロー。・・・。」

悩んでるのか？

「バトル、サイバー・ドラゴン・ツヴァイでプレイヤーに直接攻撃
！！」

なんか、レーザーを吐いてきた。

伏せカードが気になるな。

でも、

「罠カード、リバイバル・ダメージを発動。自分が受ける戦闘ダメージは1度だけ相手も受ける。ぐおおおおおおお！？」LP

3400

そして、

「え！？ちよつ、きゃあああああああ！？」LP2500

伏せカードを使わないって事は、攻撃反応タイプか……。
「……モンスターを1体セットしてターンエンド。」
生命の消失が使えないな……。

で、ティアナのターン、

「私のターン、ドロー。私は、魔法カード火炎地獄を発動。くっ！
！」LP2500

3枚目かよ！？

「うおおおおおおお！？」LP2400

「そして、ファイヤー・トルーパーを攻撃表示で召喚。」

レベル1 ファイヤー・トルーパー

ATK1000 DEF1000

「効果は、使わないわ。」
でも、

「永続魔法生命の消失の効果で1枚墓地に送ってくれ。」
「……。」

無言だが、

なんか、変な気がする、
なぜだ？

「バトル、ファイヤー・トルーパーでプレイヤーに直接攻撃！！」
なら、

「墓地に存在するリバイバル・ダメージの効果を発動。」

「え！？」

まあ、使用するのは始めてか……。

「ゲームから除外する事で、もう1度自分が受ける戦闘ダメージを
相手も受ける。うおおおおおおお！！」LP1400

「また！？つて、きゃあああああああ！？」LP1500

「ティア！？」

まただよ。

まあ、今まで使用して無いけど……。

「カードを1枚セットしてターンエンド。」

で、俺のターン。

「俺のターン、ドロー。俺は、凶暴怪獣アーストロンを召喚。」

レベル4 凶暴怪獣アーストロン

地属性 恐竜族

ATK2000 DEF1500

「させない。カウンター罠、神の警告を発動。ライフポイントを、2000ポイント払ってアーストロンの召喚を無効にして破壊するよ。」LP500

スバルが発動させた。

「何!?!」

最初から、伏せていたカードだと!?!

ああ。

さつきは、落とし穴を使ったのか……。

そして、アーストロンが破壊された。

「……ターンエンドだ。」

で、スバルのターン。

「あたしのターン、ドロー……。バトル、サイバー・ドラゴン・ツヴァイでプレイヤーに直接攻撃!!!」

まあ、負けるか……。

「ダメージ計算時に、速攻魔法リミッター解除を発動。サイバー・ドラゴン・ツヴァイの攻撃力を倍にするよ。」

「何!?!」

ダメ押しかよ!?!

サイバー・ドラゴン・ツヴァイ

ATK1500↓3000

「うおおおおおおお!？」LP0

で、

「はい、メダルね。」

持っていた29枚のメダルを渡した。

「え!?!いや、あの、」

スバルが何か言おうとしたけど、

「じゃあな。」

俺は帰った。

で、

「ティア、どうしよう?。」

「なのはさん達に渡しときましよう。」
という事になった。

で、自室で、

「あいつら、念話していないか?。」

なんか、途中からまとまっていたな。

「まあ、オリカを使う自分が言うのはおかしいか。」

・・・おつ、

「お客様か。」

ディアブロ頼むぞ。

で、
「ここは、
アカデミアなのか？」

変則デュエル。(後書き)

ゲストです。

ストーリー連動？番外編 コラボ・・・不安だあああああああ！！（前書

まあ、コラボです。

相手は、龍牙さんです。

ストーリー連動？番外編 コラボ・・・不安だあああああああ！！

で、

天風総麻。

龍牙さんの『龍の転生者と魔物達の転生記』シリーズの主人公。
レッド寮の1年生。

十代達原作メンバーと同学年。

「で、まあコラボだな。今回は・・・。」

まあ、憑依されたタイタンとのデュエルの途中で連れて来た。

「・・・良いのか？」

まあ、作り手の力で精神だけだが。

ちなみに、体はこっちで作ったコピー。

「・・・お前は何だ？」

作り手。

「・・・そうかよ。」

東は、いろいろ諦めた。

こっちは、時間を止めてつと。

さて、ディアブロに持たせたデッキは・・・。

で、

どういう事だ？

俺は、タイタンとデュエルをしていた筈・・・。

「天風総麻ダナ。」

ディアブロが天風に声をかけた。

「お前は、ディアブロ！？」

何で、この世界に！？

ここは、GXの世界。

しかも、オレが居た時代では無い。

さつき、ジエネックスの参加者のメダルを持った生徒が居たからだ。
しかも、居ない筈のスバル、ティアナが居た・・・。

「ココハ、才前ノ知っている世界では無い。」

ディアブロの声が機械声で無くなった。

「・・・どういう事だ！！」

「それは、」

ディアブロがデュエルディスクを構えた。

「良いだろう。デュエルだ！！」

で、

「性格は、こつで良いのか？」
多分な。

で、

『デュエル』

「先攻は私だ。ドロー、私はA・O・J D・D・チェツカーを召喚。」

レベル4 A・O・J D・D・チェツカー

闇属性 機械族

ATK1700 DEF1200

「やはりか・・・。」

だが、なぜディアブロがここに？

「A・O・J D・D・チェツカーの効果で、お互いに光属性モンスターを特殊召喚できない。カードを2枚セットしてターンエンド。」

「恐らく、あの伏せカードはDNA移植手術・・・。」

だが、

「オレのターン、ドロー。オレは、魔法カードハリケーンを発動。フィールド場に存在する魔法、罠カードを手札に戻す。」

「ちっ。」

ディアブロのセットカードが空に舞い上がった。そして消えた。

「オレは、骸騎士ヴェリアムを召喚。」

レベル4 骸騎士ヴェリアム

闇属性 悪魔族

ATK1600 DEF1200

「だが、そのモンスターでは、D・D・チェッカーを破壊できない。」

ああ。

だが、

「永続魔法、強者の苦痛を発動。相手フィールド場に存在するモンスターの攻撃力はそのモンスターのレベル分攻撃力が下がる。これで、攻撃できる。」

「何!？」

A・O・J D・D・チェッカー

ATK1700↓1300

「骸騎士ヴェリアムで、D・D・チェッカーを攻撃!!」

「くつ。」LP3700

D・D・チェッカーが、破壊された。

「カードを1枚伏せてターンエンドだ。」

「私のターン、ドロー。私は、A・ジエネクス・ドウルダーグを攻撃表示で召喚。」

レベル4 A・ジエネクス・ドウルダーグ

闇属性 機械族

ATK1800 DEF200

「だが、強者の苦痛の効果で攻撃力は1400になる。」

A・ジエネクス・ドウルダグ

ATK1800↓1400

「魔法カード、地砕きを発動。骸騎士ヴェリアムを破壊する。」
ヴェリアムが、粉々に吹っ飛んだ。

「だが、骸騎士ヴェリアムの効果を発動。自分フィールド場にある、闇属性モンスターが破壊された時1枚ドローする。」

天風は、カードをドローした。

「だが、場はがら空きだ。ドウルダグでプレイヤーに直接攻撃！」
「！」

ドウルダグの右手から、波動弾を出した。

「ぐあああああ！?（攻撃が実体化している!?!）」LP2600

「フフ、カードを2枚セットしてターンエンドだ。」
だが、

「エンドフェイズ時に永続罠、神の恵みを発動。」

その罠カードは、

「回復か。」

「ああ、そうさ。オレのターン、ドロー。そして、神の恵みの効果でライフポイントを500ポイント回復する。」LP3100

で、

「神の恵みは、面倒だな。」

まあ、毎ターンな。

「にしても、普通のデッキじゃないか。このデッキって？」

まあ、怪獣は一応入れているから。

「どいつだ？」

それは・・・。

「オレは、冥闘士バラムを攻撃表示で召喚。」

レベル4 冥闘士バラム

闇属性 悪魔族

ATK1600 DEF1200

「バトル、冥闘士バラムでドウルダークを攻撃!!」

「罠カード、くず鉄のかかしを発動!!」

「なっ!？」

そのカードは、不動遊星のカード。

そして、かかしがバラムの攻撃を防いだ。

「くず鉄のかかしは、発動した後セットしなす。」

「・・・お前は、イリアステルなのか？」

なぜ、くず鉄のかかしを？

「ええ。」

元イリアステルですがね。

「・・・カードを、1枚伏せてターンエンドだ。」

「私のターン、ドロー。私は、手札から魔法カード地割れを発動。冥闘士バラムを破壊する。」

「くそっ!!」

「・・・そして、ドウルダグでプレイヤーに直接攻撃!!」

ドウルダグの右手から、黒い波動弾が飛んできた。

「うおおおおおお!!」LP1700
ぐっ。

痛みが・・・。

「・・・ターンエンドだ。」

で、

「これは・・・。」

ディアブロが、勝つのかも。

「良いのか？」

まあ、送られた設定では防御カードがほぼ無いな。

「ディアブロは、完全にガチか。」

まあ、あのターンで勝負がついていたかもな。

「有ったのか、モンスターが？」

まあ、強者の苦痛で攻撃力が下がって無かったら。

で、

「エンドフェイズ時に速効魔法サイクロンを発動。セットカードのくず鉄のかかしを破壊する。」

「何!？」

伏せていたくず鉄のかかしが、風で舞い上がり破壊された。

「オレのターン、ドロー。そして、神の恵みの効果でライフポイントを回復する。」LP2200

「鬱陶しい。」ギリッ

ディアブロは、歯軋りをした。

「・・・お前は、本当にイリアステルなのか？」

「元イリアステルだ。今は違う。」

「そうか・・・。オレは、」

で、

「わざと、発動しなかったのか？」

あのカードは、さっき手札から伏せたカード……。手札から発動できた筈……。

で、

「オレは、お前がイリアステルのディアブロにしては人間らしくったからおかしいと思ったのさ。」

「……。」

「だから、違う。お前は、イリアステルとは違う誰かにオレとデュエルしろ、と命令されてオレをこの世界に連れて来たんだ。」

ちなみに、サイクロンはびっくりして手札に有るのを忘れてただけだ。

で、

「・・・これは、遊星じゃないのか？」

ああ、やっぱり。

思う？

「おい！！」

にしても、ディアブロの場にはまだ1枚だけ伏せカードが有るがな・

・。

「DNAでは、無いのか？」

いや、どうやら別のカードだ。

で、

「オレは、エリマキリザードを特殊召喚。このモンスターは、相手フィールド場にのみモンスターが存在する場合に手札から特殊召喚できる。」

レベル1 エリマキリザード

炎属性 爬虫類族

ATK500 DEF300

小さい襟巻きトカゲが、出てきた。

「そして、永續罫リビンゲットの呼び声を発動。冥闘士バラムを特殊召喚する。」

「何をする気だ！？」

「2体を生け贄に、」

『ギヤオオオオオオオオオオ!!』

「龍皇ジークフリードを召喚!!」

レベル8 龍皇ジークフリード

炎属性 ドラゴン族

ATK3000 DEF2100

「攻撃力3000・・・。」

「魔法カード、オリオンパワーを発動。そして、龍皇ジークフリードで、ドウルダーグを攻撃!!」

ジークフリードが火を吹き、ドウルダーグを焼きつくした。

「ぎゃあああああああ!？」LP2100

ダメージが、強過ぎてディアブロが少し焼けた。

「おいおい。」

互角って、

「まだ、シンクロもしてないだろう。」

しかも、オリオンパワーは100ポイントに付き1枚デッキから墓

地に送るカード……。

だが、制限で最高10枚までだが、

「多いな……。」

ん？うわっ。

「何だ？」

で、

「そして、オリオンパワーの効果で10枚デッキからカードを墓地に送ってもらう。」

「くっ。」

ディアブロは、墓地にカードを10枚送った。

「ターンエンドだ。」

「……私のターン、ドロー。私は、」

だが、

『そこまでです。デュエルを止めて下さい!!』

拡声器を使ったのか分からないが、声を出したりリリカルメンバーが居た。

で、

「時間は、止めて無いのか？」

いや、あの龍皇ジークフリードが召喚されてから動き出した。

「何でだ？」

多分、これ以上は危険って事だろう。

あれ、完全にロストロギアに入るだろうし。

「そんなに？」

まあ、Xレアだし。

「まだ、上が有るのじゃないか？」

まあ、バトルスピリッツは時間を止めてやるからじゃないの？

「おい、せつかくのコラボを・・・。」

取り敢えず回収する。

で、

「うわっ、コスプレ？」

『違う！！』

リリカルメンバーが吠えた。

だが、

シュン

「えっ!？」

スバルが言い。

「消えた？」

ティアナが言い。

「転移魔法・・・いや、そんな早さじゃ無かった。」

ユーノが言った。

「取り敢えず、皆探して!!」

『はい!!』

で、

あれ？

ここは？

「何をしているのだ、まだお前のターンだぞ。」

目の前には操られたタイタン。

さっきのは？

で、

戻したぞ。

「まあ、良いのか？」

まあ、ディアブロの強さの為に頼んだデュエルだし。

「おい！？」

さて、精霊世界の方が問題だ。

「どういう事だ？」

あのカード達の精霊世界が、生まれかけている。

「バトルスピリッツの？」

まあ、こっちで使ったし。

「一応、こっちの怪獣の居る精霊世界にはディアブロを飛ばしたよな？」

ああ、精霊世界に捕まえた20体のディアブロを飛ばした。

「バトルスピリッツの精霊世界は？」

龍牙さんが使ってくれ。

この精霊世界は、そっちの世界に送っておきます。

「まあ、細かい設定はそっちの世界で作って下さい。」

こっちは、もう無理です。

そして、

「コラボは、ありがとうございます！！」

正直、送ってもらった設定を活かせてません。

「まあ、少ないな。出せたのは・・・。」

まあ、これがこっちの技量の低さです。

「俺だと、もの凄く早くデュエルが終わるから。」

ふざけたオリカの多さで・・・。

で、

「ロストロギアの反応がありません。」

リリカルメンバーは、せっかくのイエスマンの事を知っている可能性の有る2人を見失った事に残念がって居た。

そついや、あっちの小説には一般人のリリカルメンバーが居たな。まあ、関係が無いけど・・・。

ストーリー連動？番外編 コラボ・・・不安だあああああああ！！（後書

まあ、長いのは無理です。

自分の技量の低さ・・・。

精霊世界については、そっちで処理して下さい。

無茶ぶりです。

コラボの裏話 (前書き)

これが・・・。

コラボの裏話。

で、

「なあ。」

何だ、東？

「あのコラボデュエルで、ディアブロが最後に伏せていたカードは何だったんだ？」

・・・。

「まさか、」

・・・リビングデットの呼び声だ。

「・・・蘇生させる予定のカードは？」

・・・オリオンパワーで、墓地に送られたA・O・J コズミック・クローザー。

レベル8 A・O・J コズミック・クローザー

闇属性 機械族

ATK2400 DEF1200

「そして、手札に有ったカードは？」

・・・ダイナに出てきた、ゴミ塊物ユメノカタマリ。

レベル8 ゴミ塊物ユメノカタマリ

闇属性 機械族

ATK1000 DEF0

「効果は？」

自分フィールド場に、存在するレベル6以上の機械族モンスターの

1体を生け贄に通常召喚できる。

攻撃力は、墓地の機械族モンスター1体×500ポイントアップする。

このモンスターとの、相手が受ける戦闘ダメージは500ポイントになる。

「墓地には・・・いや、聞くのは止める。」
頼む・・・。

・・・すいません、龍牙さん。
これ以上は、無理です。

「・・・取り敢えず、俺はコラボで行ってくる。」

そう言つて、東は黒いロープの服を着て、
黒い仮面を着けた。

ああ、C02さんの遊戯王の小説です。
そうして、東は消えて行った。

で、

「デュエルして来たぞ。」

早っ！？

「こつちよりは、全然長いデュエルだ！！」
「だろうな。」

「ものすごくチートドロだったぞ。」

まあ、分かるけど。

後、口調は変えたよな？

「ああ。慣れないけど・・・。」

で、強さは？

「・・・A - ぐらい？」

東が、ランクC+だよな。

「まあ、怪獣を使わない場合だけだな。」

原作主人公がA Aぐらい。

「こつちは、まあ少し原作より強くなってるな。」
「いろいろな。」

一方、

「ねえ、翼君？」

高町なのはが、翼に声をかけた。

「・・・何だ？」

翼は、リリカルに少し敵意有り。

「この辺で、レッド寮の人を見なかった？」

「そいつが、どうしたんだ？」

「見た事の無い赤い龍のモンスターを使ってたの。」

「・・・それが、どうした？」

「その人とデュエルしている人は、実際のダメージを受けていたの。」

「

「何！？」

これは、事実。

龍皇ジークフリードの攻撃で、ディアブロはダメージを受けた。

リリカルメンバーは、それを見て天風総麻がダメージを起こしたと思った。

で、

あつ。

「どうした？」

なんか、面倒な事に・・・。

「何がだ？」

・・・気にするな。

「おい、変な事になっているのか？」

まあ、下手したらな。

「おいおい・・・。」

まあ、またコラボが無い限りは大丈夫だろう。

「・・・。」

で、

ウルトラマンの怪獣の精霊世界。

『ゴギヤアアアアアアアアー!!』

そこは、ウルトラマンのシリーズだけ有る弱肉強食の世界だった。
だが、ディアブロは、

『はい、そこ。お前は、別のウルトラマンの世界だから元の世界に
戻れ!!』

『ゴギヤ。』

怪獣達を、まとめていました。

コラボの裏話 (後書き)

長いデュエルは、無理。

今日の終わり。そして、新たな手駒！？（前書き）

実は、『急展開。』から日付が変わって無い。

今日の終わり。そして、新たな手駒！？

さてと、今は午後。

「今日は、コラボが2つも有ったなあ。」

まあ、勝負がついたって事にはあまりならんけど。

「龍牙さんは、引き分け。CO2さんは、スフィアデッキで敗北。」
・・・よし。

昼飯に、購買に行つてこようっと。

「そついや、」

始めて行くな。

で、場所は、

「これが、ドロopan・・・。」

購買に来ています。

いや、

「一回も、来た事が無いからしょうがないけど。」
ここには、縁が無いし。」

まあ、試しに、

「200DPで、1つと。」

「はいよ。」

トメさんに、レジでDPを払った。

「あれ、君ってここは始めて？」

「ああ、はい。イエローの2年の東堅治です。生徒の顔を、覚えて
いるのですか？」

「見た事の無い顔だったからねえ。」

まあ、1回も会った事無いし。

「で、カードパックが・・・。」

「あそこだよ。」

トメさんの、指差した方向を見た。

「えっと・・・。」

カードパックが・・・1000DP!?

高っ!?

・・・間違いでは、無いかな?

ドローパンの10倍は、高いぞ。

・・・まあ、俺はオリカを使ってるから関係無いけど。
にしても、

「1回のデュエルで、平均150DPだから、」

え?

安い?

いや、普通はこのくらいだ。

「6回以上は、勝たないといけないのか・・・。」

まあ、

「デュエルアカデミアなら、デュエルすれば良いか。」
負けても、40DPぐらい貰えるし。

レッドが、150DP。

イエローが、200DP。

ブルーが、300DP。

まあ、良いか。

俺は、

「すいません、ゴミ箱のカードを貰って良いですか？」
ゴミ箱の中の捨てられたカードを。

「ええ、それなら。捨てられるより良いし。」

じゃあ、貰おうつと。

そして、

ポケットに、カードを積めた。

「つてか、多いな。トメさん、ナイロン袋貰えますか？」

「ああ、はい。」

で、

「なあ、東？」

「いきなり、何だ？」

イエローに戻る途中に、翼に声をかけられた。
「ってか、

「久しぶりか？」

「そういや、そうだな。」

「忘れられていたか・・・。」

「で、何か用か？」

「いや、赤い龍のモンスターを使ってたレッドの奴を知らないか？」
「コラボ？」

「いや、レッドって翼がよく知っているんじゃないか？」

「何でも、高町達を探しているらしい。」
「・・・。」

「何か、有ったのか？」

「いや、何でもそのレッド寮の生徒の使ってた赤い龍のモンスター
とのデュエルで実際のダメージが有ったらしいんだ。」

「・・・レッド・デーモンズ・ドラゴン？」

「いや、違うらしい。」

「なら、分からん。ってか、それ以外に赤い龍のモンスターって遊
戯王に居たか？」

「分からないが、お前は知っているんじゃないか？」

「まあ、あんまり怪獣では居ないから。」

「いや、赤い龍のモンスターは居ないぞ。」

「そうか・・・。じゃあ、俺は探すけど、」

「デュエルするなよ。」

「ああ、じゃあな。」

そして、翼は探しに行った。

で、

さて、どうしようかな？

「このカードは・・・。」

怪獣にするか？

「いや。・・・ってか、問題起きてるじゃないか!？」

いきなり、現れた亀7に言った。

まあ、ストーリーに連動するって事。

「おいおい、良いのか？」

まあ、またコラボしたら確実に不味いけど

「・・・。」

で、その捨てられたカードは怪獣にするぞ。

「・・・どうやって？」

怪獣として、転生させる。

「まあ、使わないより良いのかもな。」

ちなみに、捨てられたカードには、

「儀式モンスターのサクリファイス、通常モンスターのツインテール、通常モンスターのキーマイス・・・など。」

魔法は、永続魔法エクトプラズマー、永続魔法エレメントの泉など。罨が、通常罨援軍、通常罨悪魔の手鏡など。

「まあ、転生したら凶悪になるな。」

モンスターは、怪獣。

魔法、罨は、オリカ。

「そういえば、ダークネスの駒のトゥルーマンって、」

まあ、カード達の怨念に近いな。

「・・・手駒に？」

できたら。

「おいおい。」

そういや、ドローパンは？

「・・・。」

ビリッ

モグモグ

ドローパンを東は、食べた。

中味は？

「・・・テリヤキバーガー？」

当たりだ。

「そうなのか？」

ゲテモノは、昆虫パンシリーズ、爬虫類パンシリーズとかだしな。

「よっしゃあああああああああ！！」

当たらなくて良かった！！

で

新しい手駒が居るぞ。

「トゥルーマン？」

い
や、

「僕達だよ。」

後ろを向いたら、

そこには、魔法少女のマスコット？

そして、**悪魔**？

[illegible]

かなりの数の、インキュベーターが居た。

「契約だからね。」

今日の終わり。そして、新たな手駒！？（後書き）

まあ、こつこつ事です。

QBって、インキュベーターって名前だっけ？（前書き）

まあ、理由です。

QBって、インキュベーターって名前だっけ？

で、

「いやいや、何でQBが！？」

まあ、一応本物だ。

殺されたQB達だ。

「・・・殺された？」

「まあ、簡単に言えば、」

転生者とかに殺されたQB達だ。

「いきなり、シリアス！？」

まあ、そんな空気は嫌いだけど。

ちなみに、契約って言っても、

「一方的な脅しだったけど。」

まあな。

「・・・どんな？」

「協力しないと、全員にマイナスな感情だけを持たせて無限ループの転生させるって。」

「うわっ・・・。」

「しかも、絶対に死ぬ。」

「えっ。何、その地獄・・・。」

まあ、死ぬってのは転生者、憑依者に殺される事だけど・・・。
ちなみに、それがどういう事が分からないって言ったQB達は、

「すぐに、無限ループに入れられた。」

「おいしいiiiiiiiiiiiiiiii!？」

まあ、すぐ外したけど・・・。

『・・・それでも、充分だけど。』

まあ、こつちも転生者がまさか直接魂に攻撃する奴が居るとは・・・。

「魂？」

まあ、2度と輪廻転生に入れなくなる事だ。

しかも、永遠の苦しみを味わう。

「おいおい。」

まあ、すぐ助けたけど。

手駒が、手に入ったから良いけど。

『・・・僕達は、異次元人やプール人とか性格に問題が有る奴を見張っているって。』

「まあ、分かるけど。」

あいつら、絶対に原作の精霊世界に干渉するからな。

ちなみに、ディアブロはそいつらを止める為に捕まえたのも有る。

「まあ、大丈夫なのか？」

まあ、凶悪なガチデッキが怪獣デッキ使わせるから。

『僕達の一部が、遊戯王とのクロスオーバーの作品で死んだのも居るからデュエルはできるよ。』

まあ、その時のQB達は禁止とか守って無いから負けても自業自得だったけど。

「おいおい・・・。」

で、QBが居なくなつて、

「なあ、何であいつらを手駒にしたんだ？」

まあ、あまりにも殺され過ぎだからな。

自業自得だけだな。

「感情が無い？」

まあ、あいつらのアンチ理由はクロノと変わらんかもな。
頭が、固いし。

一応、感情も持たせたけど。

「・・・同情か？」

さあな。

ただ、いろんなフラグを作っただけかもな。

「おいおい。」

で、

『君達の見張りで来たよ。』

「・・・誰だ？」

と、QB達はいろいろ動いていた。

ちなみに、封印されている怪獣の方もQB達が居る。

で、

「ユーノとキャラが、被らないか？」

まあ、大丈夫だろう。

変身魔法は、ここでは意味が無いし。

「まあな。」

次の手駒は、誰にしよう？

「まだ、欲しいのかよ！？」

まあ、王道のリリカルのマテリアルとか。

「。。。。」

そついや、QBもコラボに参加できるな。

「あいつらも参加するのかよ！？」

QBって、インキュベーターって名前だっけ？（後書き）

コラボは、まだできますよ。

ディアブロ、QBだけど……。。

暴走。 (前書き)

まあ、読まない方が今回は良いです。

暴走。

で、あれからかなり経って、

（東、切り札を使って良いぞ！！）

いきなり、何でだ？

（切り札の力が、漏れ始めているから危険なんだ！！）

精靈世界にも？

（あつちは、怪獣達が凶暴化しているからな！！）
どのくらい？

どのくらい？

（星の半分が、消えて無くなる！！）

おいしい！？

（あの２体は、出したら宇宙が消えるからゾグを使い！！）
ゾグって、

ゾグって、

（ヘルカイザーが居るらしいから！！）

丁度良いのか？

（ああ、早くイエスマンになって行け！！）

で、

精霊世界は、

ディアブロ達とQB達が、切り札の力をいろんなモンスターを出して抑えていた。

『訳が分からないよ!?!』

何で、

『カオスソルジャー――開闢の使者――が近付くだけで粉々にされるんだよ!?!』

根源破滅天使ゾグ第二形態のすぐ近くには、粉々にされた、

混沌帝龍――終焉の使者――、F・G・D、古代の機械究極巨人、邪神ドレッド・ルト、邪神アバター、邪神イレイザー、キメラテック・オーバー・ドラゴン、サイバー・エンド・ドラゴン、Sinトウルス・ドラゴン、マシンナース・フォース、混沌幻魔アミタイル、地縛神、裁きの龍、超魔導師――ブラック・パラディン、堕天使、大天使、氷結界の龍 トリシューラ、氷結界の龍 ブリュナーク、氷結界の龍 グングニール、究極竜騎士、青眼の究極竜、マスター・オブ・OZ、アルカナフォースEX―THE DARK RULER、シューティング・スター・ドラゴン、シューティング・クエーサー・ドラゴン、スカーレット・ノヴァ・ドラゴン、三幻神、時戒神、機皇神マシニクル[∞]、究極時戒神セフィロン、蛇神ゲーなどが居た。

『出しても、すぐ破壊されるよ!?!』

「今は、レインボー・ネオスが抑えてる。」

ディアブロが応えた。

光属性戦士族モンスターだけは、近付かなければ破壊されるのが遅かった。

だが、

『カオスソルジャー——開闢の使者——みたいに、近付いたら破壊されるから距離を保って!!』
そう、ゾグは近づく者で光属性戦士族は効果で破壊。
それ以外は、全て波動弾の戦闘で破壊されていた。

で、

「根源破滅天使ゾグ第二形態で、鎧黒竜—サイバー・ダーク・ドラ
ゴンを攻撃!!」LP300

レベル13 根源破滅天使ゾグ第二形態

闇属性 天使族

ATK15000 DEF15000

「ぐわああああああああああああああ!!??」
PO

で、

『あれ？』

「ゾグの姿が戻っている。」

ゾグは、第一形態になって空高く飛んで行った。

「『見た目は、綺麗なのに……。』」

残っているのは、

破壊されたモンスター達の屍……

「どんだけ、無茶苦茶なんだ？」

『あれでも、まだ上の存在が居るらしいよ。』

「『……。』」

で、リリカルメンバーは、
「ここで、今までと全然レベル違う反応が有ったらしいよ。」
そこは、クレーターというよりは大穴が空いていた。

で、自室で、

一応、ヘルカイザーから記憶と傷は消しておいた。

「当たり前だあああああああああ！！」

ってか、

「何で、あんなモンスターになっただけ？」

しょうがないだろうが、こっちも予想外だったんだから。

蛇神ゲートの破壊は、予想外過ぎただけ……。

「居たの、攻撃力が∞のゲートが！？」

ああ、連続波動弾を受けて破壊された。

「ってか、何で有るの！？」

まあ、どこにも行き場所が無かったらしいから。

「おい！」

まだ、あの2体は動いていないから、

「……確か、エネルギーが足りないのか？」

まあ、あれは絶対に無理だから。

「ふざけた存在だ……。」

暴走。
(後書き)

まだ、あの2体は動けない。

後処理。 (前書き)

まあ、切り札2体の説明？

後処理。

で、

精霊世界のゾグが存在する世界の中心、
つてか、天空の聖域みたいな場所、

「にしても、どうなっているんだ？」

ディアブロが言った。

「僕達も、分からないよ……。」

QB（数が不明）は、頭を耳？で抱えた。

何で、こんな無茶苦茶な事になるんだ？

と、思っている。

それは、

「神が、なぜこんなに簡単に負けるんだ！？」

ゾグの力で、その辺一帯が荒れ地になっている。

そして、怪獣以外のモンスター達の粉々になった後の姿が有った。
ちなみに、怪獣達はゾグが現れる前に別の世界に逃げた。

「おかしいだろ！？」

「何で、攻撃力が本来上の存在の∞の蛇神ゲーが秒数単位で負けるの！？」

「いや、確かにモンスター達はオリジナルでは無くて大半がコピーカードだが、」

（ああ、その事だが、）

「「亀7、どういう事だ？」」

（怪獣達は、大体が法則とか常識に反した奴ばかりだからあまり遊戯王のモンスターで勝てる奴は居ないぞ。）

『いや、まあ確かに生まれ方がおかしいのは居るけどさ。』

「遊戯王のモンスターも、同じだろう!？」

（一応、邪神ガタノゾーアは3000万年前に居た奴だぞ。）

『「古っ!？」』

（まあ、遊戯王の生まれたモンスターで古いのは恐竜が人が生まれた時に現れたモンスターばっかだからな。怪獣は、根本的に人が生まれる前から居た存在が多いから。後、QBも生まれはかなり古い筈だろうが。）

「・・・一応、データに有るダークネスって奴は？」

（まあ、あれもこの世界で1番?古い闇だが星を食べる普通の怪獣に物理的に勝てると思えんな。）

『「無理ゲー・・・。」』

（その一言。）

『・・・あれ?』

「どうした、QB?」

『いや、さっき、あまり遊戯王のモンスターで勝てる奴は居ないぞ、って言っただけ。』

「ん?居るには、居るのか?」

（まあ、光属性戦士族にはな。ウルトラマンのストーリー的に・・・。）

あの2体は、耐性が有ると思うが・・・。

『だから、カオスソルジャー——開闢の使者——やレインボー・ネオスは破壊されるのが戦闘では無くて効果で破壊されていたの?』

（まあ、ウルトラマンでは無いから足止めぐらいにしかならんが・・・。）

全ての精霊世界の隅に存在する世界の1つ、

宇宙の果て

ここには、

怪獣バスターズでのラスボス、

超進化怪獣ギラ・ナーガが存在する。

ここは、ギラ・ナーガの為だけに隔離された世界。

身長 不明

体重 不明

かつて、宇宙の全てを破壊したという怪獣。

巨大な骨の体は硬く、一度吠えると全宇宙が震える。

ゲーム、怪獣バスターズのデータから抜粋。

レベル？ 超進化怪獣ギラ・ナーガ

？属性 ドラゴン族

ATK ∞ DEF ∞

今は、眠っている。

次の破壊のエネルギーを溜める為。

この世界に、ディアブロ、QBは居ない。
何故ならば、

『ピポピポ。』

宇宙恐竜ゼットン変異種などの、
変異した怪獣が居る為、
近づけ無い。

そして、もう1つの世界、

空間の歪み

ここには、

裏ラスボスの、

究極人工生命体ゼヴオスの為に存在する隔離された世界。

ここは、ギラ・ナーガと違い他の怪獣は居ない。

身長 不明

体重 不明

未来から現れた、正体不明の生命体。

絶対的な力で、

全てを、無へ還してしまう。

ゲーム、怪獣バスターズのデータから抜粋。

レベル？ 究極人工生命体ゼヴオス

？属性 機械族

ATK ∞ DEF ∞

今は、生命活動を停止している。
そう、今は……。

この世界では、近づく者は別の何処かの世界に跳ばされる為、
有るのは、足場ぐらいの岩か、屍か……。
跳ばされる世界は、過去か、未来か、
それとも……。

で、自室で、

「途中で、何かシリアスになつてゐるぞ!!」
まあ、あの2体はいろいろ問題があるから……。

「いや、でも大丈夫なのか？」

まあ、刺激しなければな。

「ヤプールとかは……何も出来ないか。」

他に面倒な、レイブラット、皇帝陛下、ベリアル、メフィラス、は見張っているからな。

「残りは、力の強さに無理か。」

まあ、あそこは環境に問題が有るからな。

「破壊された精霊世界の復興は？」

まあ、自然コントロールマシンの深緑がやってくれている。あそこも、隔離された世界で自然とかが多いからな。

「なら、大丈夫か。」

で、それから月日が経って、

「三沢、服を着ろおおおおおおおおお！！」

まあ、その後に三沢はアカデミアを去りました。久しぶりだが、出番がこれですまん……。

後処理。
(後書き)

本当に、無理ゲーだからな。
あの2体は・・・。

**暴走の理由。
(前書き)**

まあ、会議？

暴走の理由。

で、三沢を送った後に、
今更だが、

自室で全員が集まって、

「にしても、何で力が溢れたんだ？」

東の問いに、

『分からないよ。』

「分かん。」

QB、ディアブロが応えた。

（・・・コラボか？）

「龍皇ジークフリードか？」

ディアブロが言った。

『確か、バトルスピリッツってカードゲームのスピリットだね。』

コラボの時に、居なかったQBが言った。

「ああ、それが遊戯王のカードになった話さ。」

ディアブロが応えた。

（もしかして、単なる暴走？）

「『『さあ？』』」

（時空管理局は？）

「何で、今それが？」

東が聞いた。

（いや、管理局が変な実験をしたのかもって。）

「変な実験？」

今度は、ディアブロが聞いた。

（精霊世界に行くのを、見つけたか。）

『でも、それだと怪獣に殺られるよ。』

QBが言った。

「それに、それだと私達が気づける筈だ。」

ディアブロが言った。

（いや、ジェネックスの参加者に管理局の関係者が500人ぐらい集まっているんだ。）

「おい、初耳だぞ!？」

東が言った。

（まあ、イエスマンを捕まえる為の奴と裏の関係者が極少数だが居るな。）

「裏って、どういう事だ？」

ディアブロが言った。

（まあ、腐ってる奴等って事。）

「『人の事が言えるか?』」

（言えない。）

『でも、何で今更?』

（まあ、こういう大会なら紛れられるだろうって事だろう。あつちは、組織だからな。後、怪獣達は危険だしな。）

「『分かる。』」

（だが、問題は暴走だ。あの世界は、遊戯王の精霊世界とは隔離しているからあつちのモンスターは関係が無いだろうし。）

「入って来ても、」

『ボコボコにされるよ。』

ディアブロ、QBが言った。

（まあ、元々この世界のモンスターでは無いからな。怪獣は・・・。）

「世界の修正力か？」

東が言った。

（シンクロ、エクシーズ、ディアブロ、QBは、本来は存在しないしな。流石に、やり過ぎたって事かもな・・・。）

「『。。。』」

で、

（このままだと、ウルトラマンは出せ無いな。処理が、追いつかない。）

「おい、出てくるのが楽しみにしている人が居るだろうが!？」

『でも、僕達の一部はウルトラマンの世界にも居るからあまり会いたくは無いなあ。』

（自業自得の部分は？）

『有ります。』

まあ、やっている事に問題が多いからな。

だから、ボコボコにされるのじゃないのか？」

『。。。』

QBが、項垂れた。

つてか、黒いオーラが出た。

（東、声が出てるぞ。）

「あつ、すまん。」

『良いよ。。。どうせ、僕らは淫獣やらユーノのパチモンなんだし。。。』

（感情が豊かになったな。）
「『誰のせいだ！！』」

で、QBを慰めてから、

（取り敢えず、この話は保留にするぞ。）

「ああ。」

「分かった。」

『情報が少ないしね。』

で、亀7は、

「この際、別の平行世界に逃げるか？」

別の遊戯王の世界に……。
いや、

「伏線、フラグが多い。」

残し過ぎは、ダメだ。

「……ん？」

この世界は……。

「レベルが高いな……。」

遊戯王DM、GX、5D's、ZEA Lが混在した世界……。

「しかも、全員がガチデッキを使うのか……。」

……これは、GX卒業後に行くのか考えよう。

今は、

「あまり、続きを書かれない3期目を考えないと……。」

本当に、書く人が居ないな。

途中で終わるのが、多いし。

まあ、かなり絡み辛いからな。

「この後のストーリーは。」

暴走の理由。（後書き）

まあ、考えないとなあ。
本当に・・・。

ソグの修正です。
(前書き)

まあ、修正です。

ゾグの修正です。

で、亀7は、

まあ、押さえつけた。

え？

何がって、ゾグの攻撃力を4000にしたんだ。

まあ、第二形態が5000だけど・・・。

しかも、効果が、

まあ、その、

アイデアと混ぜたのにしました。

本当に、アイデアのあれは半分ゲームでは無くなるような・・・。

いや、まあ、

蛇神ゲーには、まあ勝ちますね。

別の効果で・・・。

で、自室で、

「おい、本当にこの効果で良いのか？」

その場には、居ない亀7に文句を言った。

「いや、居るだろうが。」

地の文に突っ込むな！！

「今更！？」

メタ発言は、止める！！

「・・・。じゃあ、本当にこれなのか？」

東は、2枚のゾグのカードを見た。

「いや、これだと・・・良いのか？」

本当に、このロツクな効果で？

まあ、良いよな？

攻撃力は、壊れて無いし。

アイデア募集のと全然変わらんけど・・・。

（良いんだって、言ってるだろうが！！！）

亀、

（あん？）

・・・電波か。

（よろしい。）

でも、これだとモンスターが・・・。

（・・・分かるけど、外でデュエルしろ！！！）

はい・・・。

で、

「なあ。あんた、俺とデュエルしないか？」

東は、中年の男にデュエルを申し込んだ。

「え？ええ、良いですよ。」

「デュエル」

「私の先攻です。ドロー、私は、魔法カード融合を発動します。手札の沼地の魔神王とE・HEROオーシャンを融合させて、E・HEROアブソルートZeroを融合召喚します。」
属性HEROかよ！？

レベル8 アブソルートZero

水属性 戦士族

ATK2500 DEF2000

「カードを1枚セットして、ターンエンド。」

この人、時空管理局の人じゃないか？

まあ、

「良いけど、俺のターン、ドロー。俺は、フィールド魔法トビシの大群を発動。」

空が暗くなった。

「ん？何のフィールド魔法・・・虫！？」

そう、暗くなったのは、

「フィールド魔法、トビシの大群の効果で自分フィールド場に破滅魔虫トビシを自分フィールド場に手札、デッキから可能な限り特殊召喚する。デッキから2体、手札から1体を特殊召喚する。」
トビシの大群が、空を覆ったのさ。

レベル3 破滅魔虫ドビシ

闇属性 昆虫族

ATK1000 DEF1000

「・・・生け贄ですか？」

「いや、生け贄はできない。」

融合は、できるけど。

でも、

「破壊はできる。自分フィールド場に存在する、カードを全て破壊して、」

自分フィールド場のカードが光に包まれて、

「手札から、根源破滅天使ゾグ第一形態を通常召喚！！」

空から、光輝く天使が降臨した。

レベル10 根源破滅天使ゾグ第一形態

光属性 天使族

ATK4000 DEF4000

「綺麗だ・・・。」

中身は、悪魔だけだね。

「・・・ゾグ第一形態の効果で、お互いのフィールド場に存在する光属性以外のモンスターカードを全て破壊する。」

「なっ！？」

アブソルートZeroが、粉々にされた。

でも、効果で、

「だが、アブソルートZeroの効果で相手フィールド場に存在するモンスターを全て破壊する。」

ゾグ第一形態が氷だした。
第一形態が・・・。
だから、

「第一形態から、第二形態に変わる。」

ゾグから、黒い霧が出てきた。
そして、姿が見えなくなり、
黒い霧の中から、

「根源破滅天使ゾグ第二形態を、デッキから特殊召喚!!」

悪魔が、出てきた。

レベル12 根源破滅天使ゾグ第二形態
闇属性 天使族
ATK5000 DEF5000

「なっ!?!何ですか、そのモンスターは!?!」

「いや、さっきの天使。」

「・・・はあ?」

事実だ。

そして、

「バトル、ゾグ第二形態でプレイヤーに直接攻撃!!」

口から、波動球を出した。

伏せカードは?

「罨カード・・・発動できない!?!」

それは、

「相手は、魔法、罨カードを発動ができない。」

「なっ、ぐあああああああああ!?!」LP0

で、自室で、

「逃げて来たぞ。」

まあ、記憶は消しておくけど。
後、デバイスの記録能力も。

「これで、良いのか？」

まあ、前よりは良いだろう。

「前の暴走はな。」

・・・もしかして、これが前の力が溢れた原因か？

「おいおい・・・。」

ソグの修正です。(後書き)

これで、まともかな？

デュエルが、少ない・・・。
(前書き)

デュエル無し。

デュエルが、少ない・・・。

で、また亀？、

・・・にしても、どうする？

この後、

（こんなに、イレギュラーの人数・・・時空管理局の局員の人数。
どうやら、危険人物のイエスマンを捕まえる為と、

（怪獣のカードの保管か？・・・。）
いや、

（下手したら、裏で出回って売られるか？）

・・・無理だ

あれは、オリカ。

存在する筈の無いカード。

それに、あの世界では遊戯王のカードはそんなに価値は無いし、ただのカードでも有る。

（まあ、危険でも一応有るからロストロギアとして保管する必要は有るけど・・・。）

だが、

（こんなに、動きが少ないのは変だな・・・。）
もっと、動くような？

所詮、カードとして甘く見ているのか？
いや、

（ゴドウィン？が・・・地縛神の復活の為に、いろいろ問題を起こ

したりしてるから本来はもつと積極的に動く筈だ。」

・・・ゴドウィンが、死んだ？って事で安心しているのか？
まあ、それだと動きが少ないのは納得できるな。
じゃあ、イエスマンが出てこないと・・・。
リリカルって、

（3年になる前に、アカデミアを出ていくんじゃないか？）
いや、あいつらは年齢的にはアカデミアで居る事で高校生活を満喫
している事になるんじゃない？

・・・有り得そうだな。
結構、上の人間がリリカルに知り合いが多いし。
いや、それだと、

（あの局員の数がおかしいな。）

・・・まさか、あれって他の上の人間を誤魔化す為の職権乱用？
・・・いや、流石にそれは無いよな？

・・・リリカルって、甘やかされてなかったか？
確か、高ランク魔導師はかなり優遇されていて低ランク魔導師との
待遇が問題が有ったな。

（・・・あいつら、本当に職権乱用？）

いや、それが出来るのは・・・。

（確か、三提督だったか？）

ジェイル・・・JS事件の影響で、リリカルメンバーが表で良い評
価を得ていた。

そして、今の時空管理局ではほぼ実権を持っているのが、

（三提督とかの、リリカルと友好な関係の奴等ばっかだな。）
で、リリカルメンバーが真面目に仕事をしているって事であの局員
はほぼカモフラージュって事でリリカルと友好な関係の人間に、内
部のライバルへの弱みを握らせない為に居るのか？

情報が少ないが、

（その考えでいくか。）

ん？

この小説って、遊戯王だから、

（その辺の設定どうでも良くないか？）

・・・。

・・・QBに、ヴィヴィオを誘拐させようか？

ユーノの知り合いって、言って・・・。

いや、それ全然関係が無いな・・・後、犯罪だし。

ってか、魔王が恐いな・・・。

・・・話が、脱線したな。

今回の話は、

・・・待てよ？

そろそろ、

（DDが、何かデュエルして死人を出すんじゃないか？）

・・・ディアブロを飛ばして助けさせて、DDの相手の奴は確か犯罪者？だから、ぐるぐる巻きにしてどっかに置いて、観客は助けさせよう。

じゃあ、

（行つてこい、ディアブロ達。）

で、あの亀7の命令が出て、
何日か経って、

自室で、

「さてと、」

どうしようかな？

俺は、もう出番が無いな。

イエローだし。

本当に、3期目からって絡むのが難しい。

ってか、無理だろう。

まあ、絡む気は無いけど。

・・・いや、

「一番、命に関わるな。」

コブラ？って、先生が面倒な事をするよな。

後、ユベルの暴走・・・。

ダークネス・・・トゥルーマンの確保？は知らんけど。

だが、ユベルの精霊世界が面倒だな。

「あれって、下手したら怪獣の精霊世界にも関わるかもな。」

超融合・・・。

で、

ディアブロは、

「（なぜ、私達は人助けを？）」

「あつ、ありがとうございます！！」

ディアブロ達が、人助けしていました。

本人達は、

我々の存在理由って何？

で、

残ったQB達は、

『サンダーボルトを発動、そしてカオスソルジャー——開闢の使者——でプレイヤーに直接攻撃!!』

「ギャアアアアアアアアアアア!？」

八つ当たり気味に、デュエルしていました。

相手？

相手は、

『今更だけど、何で遊戯王の精霊が?』

「お、お前ら、禁止、制限のル、ルールぐらい、守れ……。」

暗黒界の尖兵ベージの奴等です。

『ルール? 君達とのデュエルだと、死んだりする可能性が有るから守らなくて良いって言われているよ。』

まあ、僕達が殺す事はできないから君達は精霊世界に送りつけるけど……。

にしても、

『自力で、この世界に来るとはね。』

で、亀は、

（あいつら、自力で来るのかよ！？）
精霊を甘く見ていた事を後悔した。

デュエルが、少ない・・・。(後書き)

はあ。

デュエルしないといけないのに・・・。

今は、まあ動けない・・・。
(前書き)

デュエルできない。

今は、まあ動けない・・・。

で、また亀7、

精霊がまさか、自力で来るとはな・・・。

隔離したこの世界に。

・・・。

「問題が無いな。」

有るとすれば、

「暗黒界の原作未登場の王・・・だったか？」

まあ、出てくる事は無いな。

そんな、余裕が無いし。

さて、DDは自業自得だから助けないぞ。

DDを、犯罪で起訴させようとも証拠は無いからな。

カードを持っているのは、エド・フェニックス。

それに、モンスターのダメージであんな事件が起こるなんて誰も信じないと思う。

そっぴや、

「衛星のソーラは・・・まあ、しょうがないか。」

あれは、無理。

有ったら、戦争の引き金になるし。

まあ、これで良いか。

で、自室で東は、

デュエルは、

「できないよなあ。」

ああ、デュエルしたいけど、

「ジエネックスには、参加ができない。」

メダルが無い、ってか負けたから・・・。

ゾグの時は、まあ実験でOKって事。

・・・取り敢えず、

「購買に行つて、ドロopan・・・ゲテモノでは無いように!!」

いや、俺って本当に怪獣のカードじゃないといろいろ弱いんだって

!!

俺の前世のデッキは、亀7のコピーって事で罨カードを中心にした
いろいろこちゃ混ぜデッキだったからな。

まあ、そのせいで展開力の有るデッキが嫌いだけど・・・カオスは、
オリカだから違うけど。

実は、東堅治は・・・亀7はあまり攻撃に自信が無い為、怪獣達に
は大体何かしらの罨、魔法カードに耐性の能力を付けた。

まあ、行き過ぎの気がするけど。（カオスとかカオスとかカオスと
かカオスとかカオスとかが・・・。）

カオスは、まあ一応お蔵入りだけど・・・。

で、

購買にて、

「ドローパン1個と・・・。」

東は、ドローパンを飼った。
ってか、引いた。

ブリッ

中身は？

「この味は・・・ガハッ!？」

この味は、

「なっ、何で練りワサビが入っているんだ!？」

東は、練りワサビパンを当てた。

こうかはばつぐんだ!!

し、舌が、

「み、水が、」

欲しい!!

「ト、トメさん、水を買います、ゲホッゴホッ!!」

「ああ、はいよ。」

ペットボトルのミネラルウォーターを、150DPで買った。
ゴギユゴギユ

東は、水をイッキ飲みした。

「はあはあ。・・・何で、練りワサビパンなんて有るんですか!？」

「いやね。昔から、調味料に使われるパンとかが人気有るのよ。」
それって、

「どんな味覚の人ですか!？」

「確か、イエロー寮の寮長の・・・あれ?誰だったかしら?」

樺山先生かよ!?

ってか、また忘れられてるし!?

何で、あの人そういう味覚なの!?

カレーは、旨かったのに!?

舌が、肥えたのか!?

で、自室で、

酷い目に遭った。

デュエルは、

「したいけど、無理。」

イエスマンは、

「絶体に、リリカルが邪魔するだろうな。」

まあ、分かるけど。

仕事だしね。

にしても、

「何で、練りワサビパンなんて有るんだあああああああああ
あ！！！！？」

ってか、あの様子だとシリーズみたいに他の調味料が有るのか！？
そんな物、食えるか！！

で、

QB達は、

『ふう、良い気持ちだ。』

天然の温泉に入っていました。

場所は、火山が多い世界。

で、

ディアブロ達は、

「群雄割拠2枚、御前試合2枚、マクロコスモス2枚、DNA移植手術3枚、次元幽閉・・・2枚？」

「そういや、オネストも入れた方が良くないか？」

「属性が変わるから。」

「それも、そうだな。」

「後、シンクロはトリシューラにブリューナクは？」

『当たり前！！』

デッキ調整中。

ディアブロとQBは、2組に別れて交代制でしています。

残りは、見張りです。

記憶は共有していますが、

1人、1人が微妙に違うデッキを使用している。

ちなみに、ガチデッキの場合は全然内容が違う為把握が不可能。

で、

リリカル達は、

「なんか、最近雑いような？」

「何が、はやて？」

で、

エド・フェニックスがDDとデュエル中。

今は、まあ動けない・・・。(後書き)

デュエル・・・。

ディアプロの一方的なデュエル。(前書き)

タイトル通りです。

ディアプロの一方的なデュエル。

で、

またまた亀？、

さてと、

どうしようかな？

・・・やっぱり、DDの奴を助けようか？

まあ、催眠術でもかけて警察に自首させるか？

それで、いこうか。

じゃないと、死んだら後味が悪いしな。

さて、助けるか。

で、

DDがトドメさせられる瞬間に転移で、こっちに来させて捕まえて、催眠術で眠らせて警察署の近くに跳ばした。

まあ、催眠はエド・フェニックスの父親の事を喋った後に、解除する様にした。

で、

・・・うん？

何故、この男がこの世界のこの時代に干渉しようとしているんだ？

・・・ディアブロよ。

この男を、潰せ！！

・・・東も、呼んでおこうと。

で、

「一体、どういう事なんだ？」

はつきり言つて、デカ過ぎるD・ホイールに乗った仮面を被った金髪
の男が、有る空間に居た。

「私は、さっきまで、」

「イリアステルのパラボックスだな？」

D・ホイールに乗ったディアブロが、後ろから大きさが違い過ぎる
D・ホイールに乗って、パラボックスに声をかけた。

「・・・貴様は誰だ？」

・・・どうやら、私の事は知らないか。

まあ、良い。

『デュエルモード!!』

ディアブロが、D・ホイールのモードを強制起動させた。

「何、デュエルだ!?」

「私とのデュエルに勝たない限り、この空間からは出られない。」

「・・・良いだろう。」

で、東が来た。

「おいおい、パaddockスつて。」

まあ、来た理由は何となく分かるけど。

「俺の怪獣か、翼のシンクロが原因だな。」

どっちも、じゃないか?

「だな。」

で、

S p c は、プレイヤーの横に出てきます。

「「デュエル」」

「先攻は、私だ。ドロー、私は聖なるあかりを攻撃表示で召喚する。」
「S p c 1

レベル1 聖なるあかり

光属性 天使族

A T K 0 D E F 0

「攻撃力が0のモンスター・・・。」

「聖なるあかりが、フィールド場に存在する限りお互いに闇属性モンスターを召喚・特殊召喚する事ができない。」

「何だと!？」

これでは、私のSinモンスターが!?

「カードを1枚セットしてターンエンド。」

「クツ、私のターン、ドロー。・・・私は、カードを2枚セットしてターンエンドだ。」SpC2

「エンドフェイズ時に、永続罨カード王宮のお触れを発動。このカードが、フィールド場に表側表示で存在する限りこのカード以外のお互いの罨カードの効果は無効になる。」
「何っ!？」

で、

「酷いな・・・。」

Sinモンスターには、天敵だし。

「カオスは・・・無理だな。」

カオスヘッダー自体は、光属性だからな。

それに、恐らくあのパラドックスのデッキにはSinモンスターが居る事で、発動できるカードが多いから。

だけど、

S i nモンスターは、全て闇属性モンスターだ。

「王宮のお触れで、畏カードは無効・・・無理か？」
だな。

魔法も、S i nが居ないと無理なカードだろうし。

「プラシドの時みたいになるな。」
だろうな。

「私のターン、ドロー。私は、シャインエンジェルを攻撃表示で召喚する。」 S p c 3

レベル4 シャインエンジェル

光属性 天使族

A T K 1 4 0 0 D E F 8 0 0

「バトル、シャインエンジェルでプレイヤーに直接攻撃!!」

シャインエンジェルが自身の羽を跳ばした。

「ぐあああああああああ！？」LP2600
ダ、ダメージの実体化だと！？

「ターンエンドだ。」

「わっ、私のターン、ドロー。・・・モンスターをセットしてターンエンドだ。」SpC4

で、

「あのデッキは、何だ？」

ディアブロ個人のデッキで、アンチBFデッキ。

「だよな。」

と、言っても闇属性にメタなだ。

で、

「私のターン、ドロー。私は、コーリング・ノヴァを攻撃表示で召喚する。」 S p c 5

レベル4 コーリング・ノヴァ

光属性 天使族

ATK1400 DEF800

「バトル、コーリング・ノヴァでセットモンスターを攻撃!!」

コーリング・ノヴァが光を放った。

セットモンスターは、Sinパラレル・ギア。

レベル2 Sinパラレル・ギア

闇属性 機械族

ATK0 DEF0

Sinパラレル・ギアは粉々にされた。

「そして、シャインエンジェルでプレイヤーに直接攻撃!!」
シャインエンジェルが自身の羽を跳ばした。

「ぐあああああああああああ!？」LP1200

「そして、SpCを4つ取り除いて手札のSpの数1つに付き、相手に800ポイントのダメージを与える。私の手札には、Spが1枚よって800ポイントのダメージを受けてもらう。」SpC1

「何、ぐおおおおおおお!？」LP400

そして、

「手札からSp―火炎地獄を発動。SpCが1つ以上存在する時に、発動する事ができる。相手に1000ポイントのダメージを与え、私は500ポイントのダメージを与える。ぐうううううううう!」LP3500

パラドックスに、炎が跳んでいった。

「こんな事があああああああ!？」LP0

で、

パラドックスから、この時代の記録を消してつと。

「これから、映画の話になるって事か？」

だろうな。

まあ、関係が無いけど。

「まあな。つてか、やっぱりバーンって強いな。」

まあ、シヨボいから華が無いな。

「だから、人気が無いんだろうな。」

そして、パラドックスを過去に送った。

「じゃあ、夜だし寝るぞ。」

ああ。

東は、イエロー寮に戻った。

ディアプロの一方的なデュエル。(後書き)

こうなると思うと思いませんか？
LP4000の閻属性アンチだと。

怪獣のステータス1年目の場合。(スフィア系統、説明のみの怪獣などの場合は

レベル6 ドクロ怪獣レッドキング

地属性 岩石族

ATK 2200 DEF 1500

自分フィールド場にモンスターが存在せず、相手フィールド場のみモンスターが存在する場合、特殊召喚できる。

このモンスターは、攻撃したターンのエンドフェイズ時に守備表示になる。

1ターンに1度、相手フィールド場に存在するセットカードを破壊できる。この効果で破壊したカードが罠カードの場合、相手に500ポイントのダメージを与える。

レベル4 透明怪獣ネロンガ

地属性 雷族

ATK 1600 DEF 1800

1ターンに1度、このモンスター以外の雷族モンスターを1体を選ぶ。選んだ雷族モンスター1体の攻撃力分、このモンスターの攻撃力をアップする。このモンスターの攻撃力と相手フィールド場に存在する雷族モンスターの攻撃力の差のダメージを与える。この効果で、相手にダメージを与えた場合、このモンスターの攻撃力を元々の数値に戻り、このモンスターは攻撃できない。

レベル4 電気怪獣エレクトラス

水属性 雷族

ATK1000 DEF1900

このモンスターは通常召喚する場合、守備表示で通常召喚する。

1ターンに1度、相手フィールド場に存在する雷族モンスターの攻撃力を0にする。

レベル7 宇宙怪獣エレキング

水属性 雷族

ATK2000 DEF1000

1ターンに1度、自分の墓地の雷族モンスターをゲームから除外する事で、その除外したモンスターの守備力分のダメージを与える。この効果を発動した場合、このモンスターは相手に攻撃できない。

レベル1 宇宙寄生獣サイクロメトラ

地属性 爬虫類族

ATK500 DEF500

このモンスターが召喚・特殊召喚された場合、自分のデッキ・手札から宇宙寄生獣サイクロメトラを可能な限り攻撃表示で特殊召喚する。このモンスターは、召喚・特殊召喚したターンの次の自分のターンのスタンバイフェイズ時に、破壊される。このモンスターが機械族以外の相手モンスターと戦闘を行う場合、戦闘は行われずその相手モンスターに装備する。

このモンスターがモンスターに装備されたターンのエンドフェイズ時に、装備されたモンスターとこのモンスターを墓地に送り、墓地に送った装備されたモンスターの攻撃力分のダメージを相手に与える。

このモンスターは、エクシーズ素材・モンスターのリリースに使用できない。

レベル4 再生怪獣グロッシーナ

地属性 岩石族

ATK1500 DEF1800

このモンスターが召喚・特殊召喚した場合、墓地の宇宙寄生獣サイクロメトラを装備する。

レベル10 究極帝王メンシュタイト

闇属性 悪魔族

ATK4000 DEF4000

フィールド魔法アンバランス・ゾーンが存在する場合、自分の墓地の怪獣と名のつくモンスターを全て除外する事で特殊召喚できる。

1ターンに1度、相手に1000ポイントのダメージを与える。

1ターンに1度、自分の手札、デッキ、ゲームから除外されている暗殺怪獣グラールを攻撃表示で特殊召喚する。

このモンスターは、相手の魔法・罠カードの効果を受けつけない。

レベル6 異次元超人エースキラー

地属性 機械族

ATK2100 DEF1800

このモンスターは、相手フィールド場に存在するレベル4のモンスターを生け贄に特殊召喚できる。

このモンスターが、フィールド場に存在する限り自分は召喚・特殊召喚できない。

このモンスターは、相手フィールド場にモンスターが存在しない場合、攻撃できない。

このモンスターは、手札に戻す事で1枚ドロウできる。この効果は、相手ターンでも発動できる。

総合PV20万突破記念？番外編 この後の、予定？（前書き）

まあ、こういう事になります。

総合PV20万突破記念？番外編 この後の、予定？

「また、白い部屋か。」

最近、多いけどな。

「で、何の用だ亀？」

いや、祝だ。

「・・・はあ？」

祝、総合PV数が20万の突破だ。

「・・・おお!!」

前の総合PV数が10万突破から、約1ヶ月だ。

「早いな・・・。」

まあ、1日投稿だからな

「短いけど？」

1時間くらいで、夜に書きながら考えて投稿している。

「・・・短いよな？」

ああ、思いつきり短い。

「・・・で、何か有るのか？」

いや、まあコラボしたりして満足・・・いや、この言葉は無いな。

「まあ、理由は分かるがな・・・。」

個人的に、いろいろ有りましたね・・・。

で、

「どうするんだ、この3年目からは？」

まだ、入って無いがな。

「俺の出番は、無いんだろう。この後は。」

まあ、イエロー寮には関係が無いな。

・・・次は、3年目から。

いや、後1、2話がいるかな？

「まあ、そうじゃないか？」

ああ、そっぴや忘れてるが、

「何だ？」

モーメントの暴走は、後5年以内に有るぞ。

「・・・はあああああああああああああ！！！！？」

まあ、びつくりするよな・・・。

「いやいやいやいやいや、何で！？」

まあ、牛尾の存在だ。

「何で、5D'sの牛尾教官が？」

いや、まあ有る情報でな。

「いや、何のだ？」

実は、あの牛尾だが無印に武藤遊戯の先輩の風紀委員として存在していたんだ。

「いや、他人にじゃ無いのか？」

いや、公式設定で本人らしい。

しかも、アテムに闇のゲームに負けて木の葉が金に見える罰を受けらしい。

「・・・本当に？」

らしい。

それで、時期の逆算したら後5年以内に起きるって事らしい。

「らしいって。」

まあ、あくまでこつちでの設定にするから。

「他の奴等は？」

恐らく、生きている。

が、

「が？」

翼とかのイレギュラーは、恐らくそこで消されるな。

じやなきや、転生者が生きていたら5D・sに干渉する可能性が有るからな。

「・・・俺は？」

まあ、平行世界に行くぞ。

精霊世界も、一緒にな。

「どう考えても当たり前だ。」

で、

ダークネスとトゥルーマンは、仲間にできなかった。

「だろうな。」

いや、まああいつらはこの世界に重要だからな。

「そうか。」

「つてか、断られた。」

「まあ、イレギュラーだからな。」

で、

「総合PV数が20万突破しました。」

読んでくださりありがとうございます！！

最近、アイデア募集の怪獣が出せてませんが出すようにします。

「・・・できるだけ。」

では。

総合PV20万突破記念？番外編 この後の、予定？（後書き）

こうなります。

話が跳んで、こつなります。(前書き)

話が、跳びます。

話が跳んで、こうなります。

で、

「おお、なんかネオスとティラノ？が飛んでるなあ。」
え？

精霊が見えるのか？

居ないけど、見えるのぞ。

一応……。

さて、

「どうしようかなあ？」

（ちなみに、十代と翼がタッグで斎王とデュエル中だ。）

……斎王が不利か？

（いや、まあ魔法・畏で防いでるな。後、ゾグの事を欲しがってるな。）

……送って無いよな？

（したら、破滅の光がゾグに取り込まれて面倒な事になるぞ。）
取り込めるのかよ！？

（まあ、効果やいろいろすごいからな。）

壊れてるからなあ。

ゾグの効果って。

第一形態は、スターダストで止められるとして。

（第二形態は、魔法・畏の発動できなくする。）

まだ、他にも有るだろうが！！

（……共通として、戦闘を行う場合はその戦闘に勝利する。このモンスターとの戦闘では、戦闘ダメージは相手が受ける。）

前半の勝利する効果は、デュエルマスターズだろうが！？

（いや、第一形態は光属性機械族以外。第二形態は、光属性戦士族

以外。)

いや、無理だろうが!?
充分、壊れているぞ!!

(若気の至りだ!!)

・・・自壊効果は、有るって事だが意味が有ると思えないが?
(使う人が居ない。バトルロイヤルなら、分からないけど・・・。)

・・・デメリットは、

このカードのプレイヤーは、ゾグ以外のカードの効果は無効と発動
できないだよな?

(ああ、無効だけだとコストとして使えて効果を無効にできない可
能性が有るから。)

後、このカードのプレイヤーはモンスターの召喚・特殊召喚・反転
召喚・セットできないだったな。

(これは、妥当だと思うけど・・・。)

で、

それから、数週間が経って、

「何で？」

何で、学園祭が有るんだ！？

（実は、面白そうだからいろいろ世界を弄くった。）

おい！！

（いや、原作では無かったけど2期目も有ると思ったから。）

で、

学園祭当日。

「で、何でこうなるんだ。高町、神楽坂？」

「僕に、言われても。」

「なあ。」

イエローの出し物。

デュエル大会。

3人1組のチームで、デュエルする。

勝ち抜きで、フィールド、墓地、除外されているカードは、引き継ぎでのデュエル。

参加者は、3人ならOK。イエローは、強制参加。

この3人になった理由は？

「なんとなく、集まったから。」

話が跳んで、こつなります。(後書き)

書けるかな？

まだ、学園祭じゃ無いけど。デュエル。（前書き）

時間稼ぎです。

まだ、学園祭じゃ無いけど。デュエル。

さてと、亀7で、

なんとなく、集めさせたメンバーで良いな。

神楽坂は、ちよつとデッキを決めれて無いからなあ。

エグゾディアだと・・・。

ルールが、ちよつと面倒になるな。

おや？

ディアブロが、デュエルするのか？

また、相手は遊戯王の精霊か・・・。

おい！？

今度は、お前かよ！？

ってか、デュエルできるのかよ！？

で、ディアブロで、

「君か？この世界に入って来たのは？」

「ええ、そういう事になるわね。」

私の前に居るのは、

「天使族の光神テテウス。」

「覚えて貰えて光栄ね・・・でも、さようなら。」

光神テテウスが、人差し指から光のレーザー？をディアブロに放った。

「おっと。」

それを、ディアブロは横に体を反らして避けた。

「この様子だと、デュエルだな。」

ディアブロが、デュエルディスクを作動させた。

「あら、そんな事を・・・！？」

光神テテウスが、体が動かせ無いのに驚いた。

「フフ、私のデュエルディスクは特別製でね。強制的に、デュエルディスクを作動させて君の動きを、デュエル以外にできなくさせたのさ。」

精霊専用だけど・・・。

「・・・なら、デュエルね。」

光神テテウスが、腕に付けた天使の羽の様なデュエルディスクを構えた。

ちなみに、他にもシャインエンジェル達がQB達とデュエルディスクを作動させデュエルを始めた。

で、亀7

光神テテウスか・・・。

まあ、遊戯王の精霊だから戦う・・・デュエルするよな。恐らく、自分達の領土・・・陣地や資源の確保か？

精霊世界では、戦争？をやっているのか？

・・・まあ、関係が無いがな。

で、

「デュエル」

先攻は、光神テテウス。

「ドロー。私は永続魔法、神の居城―ヴァルハラ―を発動。そして効果を発動させて、私自身を特殊召喚するわ。」

相手自身が、フィールド場に出てきた。

「そして、モンスターをセット。カードを1枚セットしてターンエンドするわ。」

レベル5 光神テテュス

光属性 天使族

ATK2400 DEF1800

いきなり、自分自身か……。

「私のターン、ドロー。……私は、魔法カード、サイクロンを発動。ヴァルハラを破壊する。」

風が舞って、ヴァルハラを吹き飛ばそうと、

「カウンター罠、魔宮の賄賂!!」
が、風が止んだ。

「なら、効果で1枚ドロー。……私は、A・O・J コズミック・クローザーを特殊召喚。」

レベル8 A・O・J コズミック・クローザー

闇属性 機械族

ATK2400 DEF1200

モーターの様な、モンスターが出てきた。

「攻撃力2400ですって!？」

「このモンスターは、相手フィールド場に光属性を含むモンスターが、2体以上存在する場合、手札から特殊召喚する事ができる。さらに、A・O・J コアデストロイを攻撃表示で召喚。」

レベル3 A・O・J コアデストロイ

闇属性 機械族

ATK1200 DEF200

「そして、バトルだ。コアデストロイで、光神テテュスを攻撃。」

「攻撃力の低いモンスターで!？」

コアデストロイが、光神テテュスに飛びかかった。

「コアデストロイが、光属性モンスターと戦闘を行う場合、ダメージ計算を行わずそのモンスターを破壊する。」

「何ですって、ガッ!?!」

飛びかかろうとしたコアデストロイが、目からレーザーを出して、光神テテユスの体を貫いた。

「そして、コズミック・クローザーでセットモンスターを攻撃。」

コズミック・クローザーが、セットモンスターに電流を飛ばした。だが、

「セットモンスターは、マシュマロンよ。効果で、1000ポイントのダメージを受けて貰うわ!」

レベル3 マシュマロン

光属性 天使族

ATK300 DEF500

「何っ、くそ!」LP3000

マシュマロンが、コズミック・クローザーの攻撃を弾いて、口を開いてディアブロに噛みついた。

「・・・カードを1枚セットしてターンエンドだ。」

「私のターン、ドロ。私は、魔法カード地砕きを発動。相手フィールド場に表側表示で存在する守備力の一番高いモンスターを破壊するわ。コズミック・クローザーを破壊。」

「くっ!」

コズミック・クローザーが、粉々にされた。

「カードを1枚セットして、ターンエンドするわ。」

伏せカードが気になるが、相性的には関係が無いな。

「私のターン、ドロ。私は、A・O・J ブラインド・サッカーを召喚。」

レベル4 A・O・J ブラインド・サッカー

闇属性 機械族

ATK 1600 DEF 1200

「バトル、コアデストロイでマシユマロンを攻撃。」

「甘いわ、罠カード炸裂装甲を発動！！邪魔なコアデストロイを破壊すわ。」

コアデストロイが爆発した。

「なら、ブラインド・サッカーで攻撃。そして、ブラインド・サッカーの効果でこのモンスターと戦闘を行った、光属性モンスターの効果は、無効化する。」

「えっ！？」

ブラインド・サッカーが、掌から光弾をマシユマロンに放ち、マシユマロンの力を消した。

「カードを1枚セットしてターンエンドだ。」

で、

意外と強いな。

まあ、時間の問題か・・・。

で、

「私のターン、ドロー。・・・私は、モンスターをセットして、ターンエンドよ。」

「エンドフェイズ時に、永続罫リビングゲットの呼び声を発動。墓地のコズミック・クローザーを特殊召喚。そして、私のターン、ドロー。2体目のコアデストロイを攻撃表示で召喚。バトル、コアデストロイでマシユマロンを攻撃。そして、戦闘を行う代わりに破壊する。」

コアデストロイが、レーザーでマシユマロンを撃ち抜いた。

「そして、コズミック・クローザーでセットモンスターを攻撃。」
セットモンスターは、オネストだった。

レベル4 オネスト

光属性 天使族

ATK1100 DEF1900

そして、オネストは粉々になった。

「ブラインド・サッカーで、プレイヤーに直接攻撃。
ブラインド・サッカーが、掌から光弾を放った。」

「ぐうううううううううう！？」LP2400

で、

まだ、続くか・・・。

まあ、ディアブロが勝つな。

まだ、学園祭じゃ無いけど。デュエル。（後書き）

疲れて眠いです・・・。

ディアフロの切り札の1つ。(前書き)

アンチ光。

ディアブロの切り札の1つ。

デュエルの状況

光神テテュス LP 2400

手札1枚

モンスターゾーン、0体。

魔法・罨カードゾーン永続魔法、神の居城―ヴァルハラ―が発動中。
セットカードは0枚。

ディアブロ LP 3000

手札2枚

モンスターゾーンには、

A・O・J コズミック・クローザー、

A・O・J コアデストロイが2体、

A・O・J ブラインド・サッカー。

魔法・罨カードゾーン、永続罨リビングデットの呼び声。対象は、
コズミック・クローザー。
セットカードが1枚。

次は、光神テテュスのターン。

「私のターン、ドロー。私は、永続魔法光の護符剣を発動させるわ。ターンエンドよ。」

ディアブロのフィールド場に、光の剣が降り注いだ。

で、亀7は、

ライトロード以外なら、こうなる。

ライトロードは、破壊するから面倒だ。

しかも、展開力に対応が追いつかない。

まあ、今は良いがな。

殺れ、ディアブロ。

切り札を出せ！！

で、ディアブロのターン。

「私のターン、ドロー。私は、A・O・J コアDESTロイを生け贄に捧げ、光の悪魔を召喚する。光怪獣プリズ魔を攻撃表示で召喚する。」

レベル6 光怪獣プリズ魔

光属性 悪魔族

ATK0 DEF3000

「えっ、何……。きゃあああああああ！？」

光の塊が出てきた。

だが、その光は他の光には毒でしか無い……。

光神テテウス、QBとデュエルしているシャインエンジェル達が、苦しみ出した。

「プリズ魔は、光の悪魔。光を持っている光神テテウス……お前の光を、吸い出しているのさ。」

「何よ、その私達専用のカードは！？」

いや、そうだから。

「そして、このモンスターのモンスター効果を発動。プリズ魔以外の他のモンスターを、光属性モンスターに変える。そして、このモンスターの攻撃力は、フィールド場、墓地の光属性モンスター1体

に付き、800ポイントアップする。」

光怪獣プリズ魔

ATK0↓ATK5600

「だ、だけど、光の護符剣で攻撃は出来ないわ!!」

「フフ、だが君達はどうかな？」

「くっ。」

そう、この効果は精霊にも干渉する。

光神テユス、シャインエンジェル達が苦しむ。

シャインエンジェル達は、もう倒れている。

ドサッ

「デュエルの続行は不可能だな。」

光神テユスは、倒れた。

で、亀7は、

まあ、天使族は回復させたら精霊世界の天空の聖域にでも、飛ばし

たら良いな。

まあ、深淵さんのアイデア募集のを凶悪にしました。
いや、光属性に変えるのはプリズ魔が光に変えていろいろ食べていたから……。

ちなみに、この精霊世界のプリズ魔は隔離して、凍らせているから。

危ないから……。

にしても、

やはり闇も光も、大して変わらないな。

まあ、普通に考えて戦う事が存在意義の精霊に、優しいのはあまり居ないか。

で、学園祭。

東のグループは、

神楽坂↓東↓高町の順番になった。

ちなみに、高町ユーノが最後なのは墓守でスキルドレインが、有るから。

ディアプロの切り札の1つ。(後書き)

深淵さんのアイデア募集を凶悪にしました。
すいません。

プリズ魔は、強いイメージが有り過ぎて・・・。
ヴァルハラが、初めて登場したのはプレミアムパックで、
2008年の初めぐらい。

まあ、良いのかなあ？

学園祭。(前書き)

展開、早い。

学園祭。

で、亀7。

・・・ディアブロ。

「は、はい!!」

いつもと、雰囲気が違う亀7にディアブロは驚いている。

このカードで、ダークネス狩ってこい。

亀7は、1枚のカードを出した。

そのカードは、

「こ、このカードは!?!?・・・なぜ、何ですか!?!?このカードは、まだ出すには、」

ディアブロは、亀7の出したカードに驚愕を隠せない。

良いから、もう行って来れ!!

「・・・分かりました。ですが、この事はQB達、東堅治にも伝えてください!!」

分かってる。

「では、行きます。」

そして、ディアブロは消えた。

・・・QB達、東。

こういう事だ。

で、QB達は、

『いやいや、あれを使うのをおおおおおおお!!?!?!?』

全QBが、困惑した。

で、東は、

「・・・もう知らんからな。」

ああ。

嫌でも、分かってる。

で、
ディ
ア
ブ
ロは、

「アアアアアアアアアアアアアアアアアアアアア
アアアア！！？？」

ダークネスは、苦しんでいた。

7
 •
 •
 •
 ○
 7

ディアブロは、それをただ見ていた。

「ナ、何故ダ！？何故、干渉スル！！」

「ただアナタは、デュエルに負けた。それだけだ。だから、アナタは亀7の手駒になって貰います。」

そう、ディアブロはデュエルに勝った。

先攻の1ターン目で・・・。

グツ。

ダークネスは、ディアブロのフィールド場に存在する1体のモンスターを睨んだ。

その理不尽な存在に・・・。

で、亀？、

いやあ、お疲れ様。

「・・・はい。」

『グツ。』

もちろん、ダークネスも一緒。

じゃあ、頼むね。

働いてね。

で、東。

「取り敢えず、学園祭だ。」

「誰に言っているの？」

高町に聞かれた。

「さあな。」

もう、知らんからな。

亀7。

で、

「でもさ、高町……。」

「何？」

「神楽坂、エクゾディアを揃え過ぎじゃないか？」

「……うん、分かっているよ。」

デュエルが始まってから、神楽坂は連続でパーツを揃えて、今は、

「決勝戦って……。」

決勝戦。

相手は、

「サンダー、十代、翼か。」

……リリカルは、翼達とデュエルして負けた……。
シューティング・スター・ドラゴンでの逆転で……。

で、

「おいおい、十代の勝ちかよ!？」

つてか、あのイルカの効果でエクゾディアパーツを墓地に落とされているし。

・・・頭以外を。

フィールドの状況。

十代 LP 4000

手札 3枚

モンスターゾーン、

N・アクア・ドルフィン（攻撃表示）

E・HERO エッジマン

E・HERO ネオス

E・HERO ワイルドマン

魔法・罠カードゾーン、

フィールド魔法―スカイスクレーパー―発動中。

伏せカード2枚。

神楽坂

モンスターゾーン、

モンスターは、存在しない。

魔法・罠カードゾーン、

永続魔法、凡骨の意地が発動中。

カードが、1枚伏せられている。

「ええつと？」

伏せカードは、

リビンググデットの呼び声か。

まあ、壁モンスターが多いからな。
神楽坂のデッキは、

まあ、

「デュエル」

学園祭。(後書き)

いろいろです。

終わるのが早っ!?(前書き)

デュエルが短い。

終わるの早っ!?

で、東の先攻、
どうなるかな?

「ドロー。俺は、超古代の胎動を発動。自分フィールド場に、モンスターが存在しない場合、自分のデッキから超古代と名のつくモンスターを2体特殊召喚する。」

「何!?!」

アイデアで多かった怪獣なので、混ざったり、
その間のステータスにしてみました。

「デッキから、超古代怪獣ゴルザ、超古代竜メルバを攻撃表示で特殊召喚する!!」

レベル5 超古代怪獣ゴルザ

地属性 岩石族

ATK2000 DEF2200

レベル4 超古代竜メルバ

風属性 ドラゴン族

ATK1800 DEF1500

「攻撃力2000超えのモンスターか!!・・・そういや、お前とデュエルするのってこれが初めてじゃないか?」
十代が言った。

「ああ。ってか、イエローとあまりデュエルした事が無いだろうが。

「そっぴや、そっぴな。」

おいおい、

イエローの影の薄さか……。

「取り敢えず、この効果で特殊召喚したモンスターは攻撃はこのターンできず、モンスターの召喚・反転召喚・セットできない。」

「えっ、それじゃあ攻撃できないじゃ無いのか？」

ああ、

だが、

「魔法カード、超古代の怒りを発動。」

『ゴガアアアアアアアア！！』

『グアアアアアアアアア！？』

「オレのモンスターが！？」

ゴルザがエネルギー弾を放ち、十代のモンスターを吹き飛ばした。

「超古代の怒りは、自分フィールド場に超古代と名のつくモンスターが、2体以上存在する場合のみ発動できる。自分のライフを半分を払い、相手フィールド場に存在するモンスターを全て墓地に送る。このターン、バトルフェイズはスキップされるが、このターンの自分フィールド場のモンスターは、攻撃できないから1つも問題は無い。」LP2000

「へえ、見た事が無いカードだな。」

ああ、そっぴな。

「カードを1枚セットしてターンエンドだ。」

……なぜだ？

負ける気がするの？

リリカルメンバーは、

「ロストログアの反応は無いよ。」

「なら、良いけど。」

・・・まあ、これについては亀7が反応をできないように細工しました。

十代のターン、

「オレのターン、ドロー。オレは手札から、魔法カード融合を発動！手札のフェザーマンとバーストレディを融合させ、E・HERO フレイム・ウイングマンを召喚！！」

レベル6 E・HERO フレイム・ウイングマン

風属性 戦士族

ATK2100 DEF1200

・・・悪いが、引き分けた。

「カウンター罠、パワー・スパイラルを発動。このカードは、相手が自分フィールド場に存在する攻撃力2000以上のモンスターより、攻撃力が高いモンスターをフィールド場に特殊召喚した場合、発動できる。このカードと、お互いのフィールド場に全てのモンスター、お互いの墓地のカードをデッキに戻して、その数×400ポイントのダメージをお互いに受ける。このカードに、チェインはできず、効果は無効にならない。」

「何、うあああああああ！？」LP0

十代に水の塊が、飛んでいった。
こっちも、

って、

「ぎゃあああああああああ!?!」LP0

で、白い部屋。

居るのは、亀7、東、ディアブロ、QB、ダークネスの代わりにトウルーマン。

（すまん。）

「いろいろ焦りすぎだ。何で、夢幻神獣魔デウスを出したんだ?」
それが、あの理不尽なカードだ。

ってか、怪獣。

（正直、自分でも分からなくなった。）

「・・・取り敢えず、あの理不尽はこれからは無しだ。」

（ああ、嫌でも分かってる。）

「持ち場に戻るぞ。」

そして、持ち場に戻って行った。

ちなみに、トウルーマンは危険すぎるエリアの担当。

例、マグマの中。

で、亀7は、
はあ、次は3年目か・
・
・。

終わるのが早っ！？（後書き）

焦り過ぎて、すみません。

会議です。(前書き)

こうなる。

会議です。

で、メンバーが集まって、

（それでは、会議を始めます。）

「ああ。」

『うん。』

「はい。」

「ええ。」

（取り敢えず、ゴルザ、メルバの出番がああなった理由は、）

「チーム戦だから、道連れにした。ただ、ユーノに怪獣のカードを触らせたく無いから、デツキに戻した。」

『まあ、でも負けたりしないね。』

「翼のデツキは、遊戯王の主人公のごちゃ混ぜデツキだったらいいですね。」

「私は、１年後に相手をするのですか？」

（ああ、そうなる。しかも、負ける。）

「決定事項ですか？」

「『『（だろっ。）』』」

で、

（ウルトラマンは、出せない。）

「まあ、まとめんな。」

「いろいろ、フラグが有りますし。」

『ってか、これって怪獣を使うからこのタイトルだから出したら、地獄絵図に……』

「……壊れますね。いろいろ世界が。」

（ああ、ってかオリジナルの時点ですれてるがな。）

で、

（次の話は、ヤンデレ……ユベルの迷惑な事だ。）

「ってか、一番被害が出てないか？」

「ですね。」

『人が死んでいる。』

「まあ、やり過ぎですね。」

（……人？の事を言えるか？）

「いいえ・・・。」

『でも、どうするの?』

「助けるっても、」

「精神面での問題が有りますね。」

(・・・今は、保留だ。)

で、

(最後に、精霊世界が多い事だ。)

『平行世界にも、干渉できるから。』

「影法師がね・・・。」

「あの闇ですか?」

「ええ、それが干渉して怪獣の精霊世界がいろいろ増えました。」

レベル? 影法師

闇属性 悪魔族

ATK 0 DEF 0

（ダークチユナーモンスター。）

居るのは、影の世界。

いろいろな闇が、集まってできた世界。
隔離しなくても、まず干渉できない。

「使うのか？」

（いや、分かん。）

取り敢えず、そこで会議は終わった。

で、

3年目が、短いな。

ってか、干渉が難しい。

話を作るのも・・・。

会議です。（後書き）

次は、3年目。

3年目です。(前書き)

テストが、終わった。

3年目です。

で、

はい、3年生です。

もちろん、イエロー寮のまま。

これから、各アカデミア分校の生徒の代表が来るらしい。

ってか、ユベルの不完全体も一緒に来るのか・・・。

デスデュエルも、危ないな・・・。

・・・取り敢えず、様子見か。

で、それから数日経って、
自室。

「体調不良の生徒が出てきたか・・・。」

このデスベルト。

東は、外したデスベルトを見た。

「外して置いて、良かった。」

つてか、コブラ先生。

「自分の義息の為に・・・まあ、ユベルが言ったのか。」

はあ。

デュエルできねえ。

（だろうな。）

「亀7、リリカルメンバーの方は？」

（まあ、大丈夫だ。何もできない。）

亀7は、異世界での転移した場合は時空管理局が動くかが、心配だった。

だが、

（まあ、少しな。）

いろいろな様だ。

で、

亀7は、
ふむ。

次の世界は、
ゼアルの世界。

だけど、

他の世界は・・・。

ごちゃ混ぜの遊戯王の世界は、保留と。

・・・これは？

ああ、遊戯王の世界でも、

攻撃力が4000を超える世界か・・・。

いや、レベル4の普通のモンスターが。

うん？

それは、遊戯王では無い？

いや、平行世界で遊戯王での基準を、完全に超えた世界って事。

いや、だからそれが遊戯王では無いって？

いやいや、

それは、あくまで平行世界でもずれてない世界の事。

本来、平行世界にも原作の居ないキャラ・・・オリキャラが出るのが有るから。

カードも、オリ力が出てくる世界も有る。

その中でも、原作好きから観たら絶対に壊れ過ぎた世界って事。

まあ、小説では絶対に読みたく無い世界でも有るけど・・・。
で、

その世界は、無いな。

いろいろ、無茶苦茶になるから。

神が、雑魚に見える様なカードばっかだ。

いや、レベル1で攻撃力が∞って無理ゲーだろう？

・・・いや、

違う。

どの世界にしようか？

3年目です。（後書き）

本当に無理な平行世界に行ったら、神なんて雑魚に見える・・・。
まあ、遊戯王では無くなるなあ。

次からオリジナル？（前書き）

あれ？

次からオリジナル？

で、白い部屋。

「佐藤先生、プロフェッサーコブラ。」

今、目の前で眠ってます。

（取り敢えず、生きているぞ。）

「じゃなきゃ、いかんだろうが！！」

（2人供、平行世界の自分に憑依させる。それで、本来全然別の理由の事故で死ぬ筈の自分になってもらう。）

「この世界では？」

（それだと、いろいろ無理が有る。）

「・・・そうか。」

（コブラの義息リックは、生きているし。佐藤先生は、プロでやる。そういう世界だ。）

「なら、良いか。」

で、東、
異世界。

「面倒だな。」

デュエルゾンビが、出たらしい。

まあ、食料が無いしな。

あれ？

マルタン、

どうやって、肉を食っていたんだ？

・・・幻覚を見せたのか？

まあ、良いか。

「でも、デュエルができないな・・・。」

で、

異世界から、戻って来た。

早い？

何も無いからだよ！！

はあ。

翼は、十代達と一緒に異世界にまた行ったらしいけど。
イライラする。

（そうか、なら鬱憤ばらしに逝ってこい。）
「へっ？」

精霊世界。

「どういつ事だ？」

（まあ、精霊達のトップを潰してくれ。）

「何でだ？」

（こっちに、ちょっかいかけてくるのが多いから、ちょっとお灸を据えてくれ。大丈夫。アカデミアは、オネストが出てくるまでトゥルーマンが、出てくれるから。）

「・・・まあ、良いけど。」

やっとデュエルか？

「相手は？」

次からオリジナル？（後書き）

次から、オリジナル？
かなあ？

最初の相手は水属性。(前書き)

デュエル。

最後には、出演した怪獣のステータスが出ます。

最初の相手は水属性。

「おい、相手は？」

まあ、まず光と闇は無い。

「・・・ちよつかい、かけてなかったか？」

いや、闇は霸王が居たら面倒だし。

光は、ちよつと役不足。

怪獣のカード効果的に、メタが多いし。

つてか、この2属性つてアンチデッキ作りやすいし。

「まあな。」

ああ、だから他の4属性を潰してくれ。

「・・・で、最初の相手は？」

水属性の海龍神―ネオダイダロスだ。

「つて、海じゃねえか!!」

つてか、デュエルできるのかよ!?

場所は、伝説の都アトランティスだ。

「だろうな!!」

じゃあ、逃げ!!

「え、ぎゃあああああああああ!??」

東は、伝説の都アトランティスにイエスマンの衣装を着せられて飛ばされた。

伝説の都アトランティス。

宮殿の様な場所。

今、イエスマンの衣装で隠れてます。

『ぬっ！？そこに居るのは、誰だ！！』

「・・・デュエルだ。」

気づいたかあ。

つてか、海龍神―ネオダイダロスでかつ！！

『・・・良いだろう、我が潰してくれる。』

いきなり怖いな、おい！？

・・・まあ、侵入者だしな。

じゃあ、

デュエルディスクを構えて、

ドンッ

ネオダイダロスは、石板の様だ。

「『デュエル！！』」

『先攻は、我だ。我のターン、手札のアトランティスの戦士の効果を発動。このカードを手札から墓地に捨てる事で、伝説の都アトランティスを1枚手札に加える。さらに、手札に加えたフィールド魔法、伝説の都アトランティスを発動！！』

・・・風景は、変わらんか。

『伝説の都アトランティスは、手札とフィールド場の水属性モンスターレベルを、1つ少なくなる。そして、フィールド場の水属性モンスターの攻撃力と守備力を、200ポイントアップする。我は、モンスターをセット。カードを、1枚セットしてターンエンドする。』

セットモンスター？

まあ、良いか。

「私のターン、ドロー。私は、超古代竜メルバを召喚。」

レベル4 超古代竜メルバ

風属性 ドラゴン族

ATK1800 DEF1500

『そのモンスターは、あの世界の!!』

ああ、知っているのか？

まあ、良いか。

「バトル、このモンスターは、直接攻撃えきる。超古代竜メルバで、プレイヤーに直接攻撃!!」

戦闘ダメージは、半分になるけど。

メルバが、ネオダイダロスに突撃した。

『だが、畏カード魔法の筒を発動する。』

嘘!?

メルバが、いきなり現れた筒の中に入り、そのまま筒がこっちを向いて、中からメルバが突撃してきた。

「・・・カードを2枚セットしてターンエンドする。」LP2200
『ぬっ!?!』

ノーダメージってか、この服って防護服。

『まあ、良い。我のターン、ドロー。我は、ペンギン・ナイトメアを反転召喚。リバーズ効果で、超古代竜メルバを手札に戻す。』

レベル4 ペンギン・ナイトメア

水属性 水族

ATK900 DEF1800

「・・・」

ディスクのモンスターゾーンから、メルバを手札に加えた。

『バトル、ペンギン・ナイトメアでプレイヤーに直接攻撃!!』

ペンギン・ナイトメア

ATK900 ↓1100 ↓1300

ペンギン・ナイトメアが、アトランティスと自身の効果で、アップした攻撃をしてきた。

つてか、突っ込んで来た。

「対処する。罾カード、超古代の出撃を発動する。相手モンスターが、このカードのプレイヤーに直接攻撃宣言時に発動できる。デッキから、レベル6以下の超古代と名のつくモンスターを攻撃表示で特殊召喚し、直接攻撃宣言したモンスターと戦闘を行う。私が、特殊召喚するのは超古代怪獣ゴルザだ。」

『何!?!』

デッキから、カードを取り出してディスクに置いた。

レベル5 超古代怪獣ゴルザ

地属性 岩石族

ATK2000 DEF2200

ゴルザが、突撃して来たペンギン・ナイトメアに、右ストレートを繰り出した。

『グオッ!!』 LP3300

そして、ネオダイダロスの方に吹っ飛んだ。

「この効果で、特殊召喚したモンスターはバトルフェイズ終了時に破壊される。」

ゴルザが、消えていった。

『グッ、我はモンスターをセット。カードを1枚セットして、ターンエンドする。』

「エンドフェイズに、罨カード、超古代の復活を発動。」
ピシッ

地面が割れてゴルザが出てきた。

『なっ、何！？』

「超古代の復活は、自分フィールド場に存在する超古代と名のつくモンスターが、破壊され墓地に送られたターンに発動できる。そのモンスターを、守備表示で特殊召喚する。」

さて、

「私のターン、ドロー。私は、超古代竜メルバを召喚。」

『罨カード、奈落の落とし穴！！』

甘い。

「対処する。手札から、速攻魔法コーティング・ロックを発動。自分フィールド場のモンスターの種族が2つ以上存在する時に、LPを1500ポイント払って発動する。このターン、自分フィールド場のモンスターは、このカード以外のカード効果を受けない。」
LP700

『何だと！？』

じゃあ、終わるか。

「ゴルザを攻撃表示にして、バトル！！ゴルザで、セットモンスターを攻撃。そして、ゴルザの効果を発動。表側守備表示又は裏側守備表示モンスターとの戦闘では、戦闘を行わず破壊する。」

『何！！』

ゴルザが、攻撃したセットモンスターはペンギン・ソルジャーだった。

・・・危ないな。

「そして、メルバでプレイヤーに直接攻撃する。」

このモンスターは、相手フィールド場にモンスターが存在する時にも、直接攻撃できるがダメージが半分になる。

今は、関係無いけど。

そして、メルバが突撃した。

『グオオオオオオオオオオオ!!』LP1500
ニヤツ。

「速攻魔法カード、超古代の進撃を発動。自分フィールド場の、超古代と名のつくモンスターが、相手プレイヤーに戦闘ダメージを与えた時、そのモンスターを除外してデッキからレベル4以下の超古代と名のつくモンスターを特殊召喚する。メルバを除外して、超古代植物ギジエラを特殊召喚する。」

レベル4 超古代植物ギジエラ

闇属性 植物族

ATK1600 DEF1900

『何!?!』

「ギジエラで、プレイヤーに直接攻撃!!」

ギジエラが、薦をネオダイダロスに突き刺した。

『グアアアアアアアア!!?!?!』LP0

そして、ネオダイダロスは石像になった。

で、白い部屋。

「次は、どこだ？」
次の相手は。

最初の相手は水属性。(後書き)

今日の出演怪獣のカード。

レベル5 超古代怪獣ゴルザ

地属性 岩石族

ATK2000 DEF2200

このモンスターは、表側守備表示又は裏側守備表示で存在するモンスターとの戦闘では、戦闘は行われずそのモンスターを破壊する。

レベル4 超古代竜メルバ

風属性 ドラゴン族

ATK1800 DEF1500

このモンスターは、相手フィールド場にモンスターが存在する場合、直接攻撃する事ができる。このモンスターの効果で、直接攻撃した場合、このモンスターが相手に与える戦闘ダメージは半分になる。

これ以上、効果を増やしたら壊れますので・・・。

超古代植物ギジェラは・・・。

亀7の愚痴。
(前書き)

暴走しました。

亀7の愚痴。

「次の相手は？」

まあ、そうだな。

・・・よし。

「決めたか？」

いや、その前に聞きたいのだが、

「・・・何だ？」

オリカの事を、どう思う？

「・・・何が言いたい？」

いや、もっと凶悪でいこうかなって？

「止めるー!!」

いや、だってさあ。

「何だ？」

怪獣達の中でも、

凶悪過ぎる奴なら、

世界を、掌握できるって事。

「鉄さんに、前に感想でいろいろ書きあって少し自重してなかったか？」

いや、効果を凶悪につて事。

「・・・。」

まあ、凶悪の意味が分からない場合は例えるなら、

・相手の・・・を・・・にする。

・相手は・・・に・・・。

「いや、カードゲームじゃねえよ!？」

まあ、無理ゲー。

あの切り札の2体と魔デウスを筆頭に・・・とかな。

「それ、読んだらキレるな。」

ああ、そうだな。

「ゾグの二の舞？」

だな。

「・・・攻撃力10000？」

いや、∞か5000ぐらいだ。

「デメリットは？」

全然無いが、物理的な被害が出るな。

「はあ。」

ちなみに、掌握の仕方だが、

「だが？」

かなり、えげつないぞ。

「内容は、ホラー？」

まあ、基本はエイリアンとかだし。

「吐くか？」

吐く。

怪の奴なんか、能力で可能だぞ。

「あれは、無いだろ。」

あいつが、その気になればの話がだな。

簡単に書けば、

数で、来たらできるだろう？

「・・・。」

いや、今まで怪獣のカードが出る数が少ないのは、基本ウルトラマンは1話で1体が相手だから、

「同じ様にした。」

って事。

遊戯王の基準って、本当に何なの!?

「ああ、それがか。」

いや、もう名前負けのモンスターとか多いしさ。

どんな基準、何だよ!?

「・・・さあ?」

初期のカードと現在のカードを比べてたら、

ただステータスの違いが、有ると思うんだよ!?

「いや、最初はしょうがないだろう。カードゲーム的にも。」

大体さ、勝った方が正しいんだよ。

「おい!?!」

この世界じゃあ、デュエルで勝った方が正義だ。

「おいおい!?!」

オリカでも、勝ったから正しいんだよ。

「モラル的には、ダメだろうが!?!」

ああ、だがな。

「何だ!?!」

原作キャラ、結構そういう系統のカードを使ってるぞ。

「・・・。」

デメリットが、ほぼ無いカードを使っているぞ。

「・・・。」

捨てられた屑カードとか言っている奴に、制裁をしている奴が居るが、そいつはその屑カードだけで作ったデッキで、デュエルして勝った奴なんか、

居・た・の・か?

「不動遊星、チーム太陽が、」

能力は、神と同等の眠れる巨人ズシン。

「・・・。」

ジャンクは、シンクロ召喚にとっては必須なカードだが？

「・・・。」

所詮、弱いカードはレアカードの踏み台にしかならんのだがらなあ？

「・・・。」

屑カードは、屑カードだ。

「遊戯王の主人公（オリ主）を、全員を敵にしたあああああああああああ！？」

ふん。

元々、書いている小説は全て原作キャラの敵として、出てるからな。こんな、考えなんだよ！！

お前も、そういう考えだろうが！！

「・・・。」

なあ、ダークネス？

「・・・ああ。」

「・・・つて、居たのかよ！？」

『いや、呼ばれたから影の中から出てきたんだが？』

ダークネスは、東の影の中から出てきていたのであった。

つてか、ダークネスの分身のトゥルーマンなんて、そういうカードの固まりだろうが！！

『まあな。』

「おいおい。」

取り敢えず、凶悪になるかは保留だ。
「で、相手は？」

亀7の愚痴。(後書き)

まあ、前から思ってた事です。

感想で、これについて受けますが、

レアカードを出すには、踏み台がいるのは事実では？
では。

次は、炎属性モンスター。(前書き)

遅れました。

星人が、初登場します。

次は、炎属性モンスター。

「おい、投稿が遅いぞ!!」

しょうがないだろうが、相手があれなんだから・・・。

「・・・あれ？」

次の相手は、

で、

『「デュエル!!」』

相手は？

『先攻は、私だ。』

白い姿の鳥の様なドラゴン族モンスター。

ホルスの黒炎竜 LV8

炎属性モンスター。

お触れホルスで、有名なLVモンスターだ。

亀7は、王宮のお触れが苦手だ。

俺もだが・・・。

「ドロー、私はホルスの黒炎竜 LV4を召喚。そして、魔法カードレベルアップ！を発動させて、ホルスの黒炎竜 LV4を墓地に送りホルスの黒炎竜 LV6をデッキから特殊召喚。」

レベル6 ホルスの黒炎竜 LV6

炎属性 ドラゴン族

ATK2300 DEF1600

『カードを1枚セットして、私はターンエンドする。』
はあ。

1ターンキルしろ！！

だっけなあ。

・・・やるか。

「私のターン、ドロー。私は、双子怪獣ブラックギラスを召喚。」

レベル4 双子怪獣ブラックギラス

闇属性 恐竜族

ATK1900 DEF1900

「さらに、このモンスターがフィールド場に表側表示で存在する場合、手札又はデッキから双子怪獣レッドギラスを1体、特殊召喚する。手札から、双子怪獣レッドギラスを特殊召喚。」

レベル4 双子怪獣レッドギラス

闇属性 恐竜族

ATK1900 DEF1900

「何！？」

まあ、アイデア募集の中間のステータスを取りました。

「手札から、速攻魔法ギラスピンを発動する。」

ブラックギラス、レッドギラスが抱き合って回り始めた。

「ぐっ、何だ！？」

「ギラスピンは、双子怪獣ブラックギラス、レッドギラスの2体が表側表示でフィールド場に存在する場合、発動する事ができる。この2体以外のフィールド場のカードを、全て破壊して500ポイントのダメージを与える。」

風が舞い始めて、ホルスの黒炎竜 LV8のフィールド場のカードを、吹き飛ばした。

「だが、ホルスの黒炎竜 LV6は魔法カードの効果を受けない。ぐっ！！」 LP3500

破壊された伏せカードは、次元幽閉だった。

「そして、この2体のモンスターがフィールド場に表側表示で存在する場合、このモンスターを特殊召喚する。手札から、サーベル暴君マグマ星人を特殊召喚する。」

レベル4 サーベル暴君マグマ星人

闇属性 悪魔族

ATK1700 DEF1700

「だが、ホルスの黒炎竜 LV6より攻撃力は低いぞ！！」

いや、アイデア募集だから効果は凄いよ。

「ブラックギラス、レッドギラスはフィールド場に表側表示で2体揃っている場合、500ポイントアップする。」

双子怪獣ブラックギラス

ATK1900↓2400

双子怪獣レッドギラス

ATK1900↓2400

「何!?!」

ダメ押しだ。

「装備魔法、宇宙剣を発動させてマグマ星人に装備する。」

装備させたが、あまり変化は見えない。

「・・・何だ?」

「この魔法カードは、サーベル暴君マグマ星人のみに装備させる事ができる。このカードを装備したマグマ星人は、このモンスターより、攻撃力の大きいモンスターと戦闘を行う場合、戦闘を行わず破壊する。」

「何!?!」

ちなみに、この宇宙剣でセブンは貫かれた。

「バトル、サーベル暴君マグマ星人でホルスの黒炎竜 LV6を攻撃!!--」

マグマ星人が、ホルスの黒炎竜 LV6を宇宙剣で貫いた。

「そして、双子怪獣ブラックギラス、レッドギラスで攻撃!!--」
ブラックギラス、レッドギラスがギラスピンを始め、

「ぐあああああああああああ!?!?!」 LPO

ホルスの黒炎竜 LV8は、石になった。

で、
「相手は？」
次は・・・。

次は、炎属性モンスター。（後書き）

一応、今回出てきた怪獣達の効果はこれだけです。
募集の奴の、中間のステータスです。

今度は、風属性モンスター。(前書き)

あれれ？

今度は、風属性モンスター！

「次の相手は？」

あれだ。

「あれ？」

場所は、デザートストーム。

『フツ、貴方ね。最近の石化の原因は？』

「Yes。」

そして、強制デュエルモードを起動させた。

『「デュエル！！」』

相手は、風属性モンスターのガーディアン・エアトス。

「先攻は、私だ。ドロー、私は、魔法カード予期せぬ幸福を発動。このカードをゲームから除外する事で、お互いに2枚ドロウする。このターン、モンスターを召喚・特殊召喚できないが。モンスターをセット、カードを2枚セットしてターンエンドする。」
セットは、できる。

長いデュエルに、なりますように!!

「私のターン、ドロー。フツ、私は、魔法カード大嵐を発動。」

「対処する。罨カード、予期せぬ運命を2枚発動する。」

伏せていた、笑顔と泣き顔が描かれた絵柄の罨カードの2枚を発動させた。

「見た事が無いわね・・・。」

「罨カード、予期せぬ運命の効果で自分のデッキから、レベル4以下の怪獣と名のつくモンスターを1体、守備表示で特殊召喚する。」

2枚発動させた事により、デッキから2体の怪獣と名のつくモンスターを、守備表示で特殊召喚する。」

「何よ!? そのカード!?」

さあ?

「私は、デッキから2体の宇宙怪獣ゴルゴザウルス?世を、守備表示で特殊召喚する。」

レベル4 宇宙怪獣ゴルゴザウルス?世

闇属性 恐竜族

ATK1700 DEF1100

「なら、自分の墓地にモンスターが存在しない場合、手札から私自身を特殊召喚。そして、フィールド魔法、デザートストームを発動させるわ。」

モンスターとしてのガーディアン・エアトスが出てきた。

レベル8 ガーディアン・エアトス

風属性 天使族

ATK 2500 DEF 2000

『そして、ウィンドフレームを攻撃表示で召喚。』

レベル4 ウィンドフレーム

風属性 鳥獣族

ATK 1800 DEF 200

『バトル、ガーディアン・エアトスとウィンドフレームで宇宙怪獣ゴルゴザウルス？世を攻撃！！』

ガーディアン・エアトス

ATK 2500 ↓ 3000

ウィンドフレーム

ATK 1800 ↓ 2300

2体のモンスターが、宇宙怪獣ゴルゴザウルス？世に襲いかかって来た。

「対処する、宇宙怪獣ゴルゴザウルス？世の効果を発動。このモンスターは、フィールド場に表側表示で存在する場合、相手モンスターの攻撃を1度だけ、無効にする。」

ゴルゴザウルス？世が、姿を消した。

『カードを1枚セットして、ターンエンドするわ。』

・・・終わるか。

「私のターン、ドロ。」

『罫カード、ゴッドバードアタックを発動するわ。ウィンドフレームを、生け贄に捧げてセットモンスターと宇宙怪獣ゴルゴザウルス

「？世の2体を破壊するわ！！」

セットモンスターの宇宙礫岩怪獣グロマイトと、ゴルゴザウルス？世の2体が破壊された。

・・・面倒な。

「私は、手札から速攻魔法カード怪獣襲来を発動。このターン、モンスターが破壊された場合、その破壊されたモンスターのレベルの合計以下のレベルの怪獣と名のつくモンスターを、エンドフェイズ時にデッキから1体、特殊召喚する。」

合計は、8。

「エンドフェイズ時に特殊召喚するのは、レベル6の冬眠怪獣ゲラんだ。」

「・・・見た事が無い。」

「私は、カードを1枚セットしてターンエンドする。そして、冬眠怪獣ゲランを守備表示で特殊召喚する。このモンスターは、他に怪獣と名のつくモンスターが存在する場合、攻撃対象にできない。」

「・・・。」

レベル6 冬眠怪獣ゲラン

地属性 爬虫類族

ATK1100 DEF2300

「私のターン、ドロ。バトル、ガーディアン・エアトスで宇宙怪獣ゴルゴザウルス？世を攻撃！！」

宇宙怪獣ゴルゴザウルス？世は、ガーディアン・エアトスが飛ばした、羽に貫かれて破壊された。

「カードを1枚セットしてターンエンド。」

一方、その頃、

亀7は、

やはり、早く終わるかな？

デュエルは、短いか・・・。

・・・あれ？

おい、ディアブロ！！

「はい。」

ちよつと、やってこい。

「・・・はい？」

まあ、こつゆう事だ。

『N O . を狩つて来い。』

「・・・はあ！？」

今度は、風属性モンスター。(後書き)

あれ、何を言っているんだ？

風属性モンスター後半。(前書き)

状況整理は、無いです。

風属性モンスター後半。

次は、イエスマンのターン。

「私のターン、ドロー。手札から、魔法カード予期せぬ不幸を発動。お互いのライフを半分にする。」

『何よ、それ！？カウンター罠、魔宮の賄賂を発動してそのカードの発動と効果を、無効にするわ！！』

「1枚、ドローする。」

まあ、焦るよな。

「冬眠怪獣ゲランの効果を発動する。自分フィールド場に、ベビーゲラントークンを1体守備表示で特殊召喚する。」

レベル1 ベビーゲラントークン

地属性 爬虫類族

ATK/0 DEF/0

「魔法カード、ゴースト・クラッシュを発動する。自分の墓地の怪獣と名のつくモンスター2体に付き、カードを1枚破壊する。ガーディアン・エアトスを破壊。」

『クッ！！』

ガーディアン・エアトスに、闇が包み混んで破壊した。

「ゴースト・クラッシュを発動したターン、召喚できない。冬眠怪獣ゲランを攻撃表示にして、バトル、冬眠怪獣ゲランで直接攻撃する。」

ゲランが、火を吐いた。

『きゃあああああああ！？』LP2700

「カードを1枚セットして、ターンエンド。」

『クッ、私のターン、ドロー！！魔法カード、ライティング・ボールテックスを発動。手札から、カードを1枚墓地に送り相手フィールド

ド場の表側表示で存在する、モンスターを全て破壊するわ!!」

「・・・。」

ゲランとトークンが、破壊された。

「私は、墓地の風属性モンスターを除外してシルフィードを特殊召喚するわ。」

レベル4 シルフィード

風属性 天使族

ATK/1700 DEF/700

「バトル、シルフィードで直接攻撃!!」

シルフィード

ATK/1700 ↓ 2200

「対処する。罠カード、モンスターのブレスを発動!! 相手ターン中、自分フィールド場にモンスターが存在しない場合、墓地の怪獣と名のつくモンスターを全て除外して、フィールド場のカードを全て破壊する。」

シルフィード、フィールド魔法デザートストームが粉々にされた。

「カードを1枚セットしてターンエンドよ。」

「私のターン、ドロ。」

終わるか?

「超音速怪獣ヘイレンを召喚する。」

レベル4 超音速怪獣ヘイレン

風属性 鳥獣族

ATK2000 DEF/0

「カウンター罠、神の宣告!! 召喚を無効にして、破壊するわ!!」

LP1350

ヘイレンが、粉々にされた。

・・・粉々が、多いな。

「カードを1枚セットして、ターンエンド。」

「私のターン、ドロー。私は、墓地の風属性モンスターを除外して風の精霊 ガルダを特殊召喚。そして、音速ダックを召喚。」

レベル4 風の精霊 ガルダ

風属性 鳥獣族

ATK/1600 DEF/1200

レベル3 音速ダック

ATK1700 DEF/700

「バトル、風の精霊 ガルダ、音速ダックで直接攻撃!!」
これが、LP4000の限界だ。

「畏カード、リバイバル・ダメージを発動。自分が戦闘ダメージを受ける場合、1度だけ相手も戦闘ダメージを受ける。」LP2400
「嘘っ、きゃあああああああ!!??」LP0
そして、ガーディアン・エアトスは石になった。

で、白い部屋。

「ディアブロにN.O.を狩らせるってどういう事だ？」

「そうですね!!」

亀7は、東とディアブロにN.O.について問い詰められていた。

いや、あれって原作通りのカードにはならんだろう。

「はあ？」

いや、N.O.って持ち主が手に入れてからカードのステータス決まってるから。

「簡単に書けば？」

原作ぶっ壊してやろうかなあつて。

「止める!!」

「あれ、私達が居る時点で壊れてません？」

いや、原作主人公組に絡んで無いから壊れて無いぞ。

つてか、お前らもう出番が無いから良くね？

ここに、居る面子つて。

「そついや、一発？キャラばっかだな。」

「・・・。」

まあ、でもゼアルは裏がまだ有るだろうし別に良いから、保留だな。

「「裏？」」

まあ、いろいろ情報が少ないって事。

「そついや、今回デュエルが、」

やつぱり、思ったんだが無理かなあつて事。

「デュエルの長さが？」

ああ。

LP4000では、これがちょっと増えたぐらいが限界だ。

「まあ、攻撃力が2000ぐらいで終わりますものね。」

魔法の筒で、跳ね返したりもできるし。

「下手に長くしたら負ける・・・か？」

まあ、当時のカードじゃあほぼ無理。

情報が無いから。

「環境も違うし。」

アニメみたいに、長くできる気がしない。

風属性モンスター後半。(後書き)

最後は、愚痴。

愚痴？ 2 (前書き)

愚痴。

愚痴？2

で、白い部屋。

「・・・また、愚痴？」

ああ、

『愚痴だ。』

「あれ、括弧を使うのか？」

『まあ、良いだろう？』

「良いけど・・・。」

『じゃあ、愚痴る。』

それ、

「・・・俺に、関係が有るか？」

『さあ？まあ、聞いてくれ。』

「ああ・・・。」

『ウルトラマン・・・チートじゃね？』

「今更かよ！？」

それを、今！？

『いや、何だつて有りだぞ。あれ。』

「いや、そうだが、」

『怪獣なんか、1体でやっているがウルトラマンなんか意味の分からん能力で、多人数でやる時が、有るんだぞ。』

「いや、まあな。」

『それ、狡くね？』

「いや、それ、」

『正々堂々なら、確実にダメだろう。あの戦いは。』

「まあ、それは、」

『相手が、強いから手助けした？言い訳も、大概にしろよ。怪獣にも、生きる為に暴れる奴が、多いんだぞ。』

「まあ。」

『つか、ウルトラマンを書いている人に書く事だけどさ。モブとか雑魚で、そっただけが悪いって事で、怪獣を倒すのを止めてくれ無い?』

「いろいろ、敵に回した!？」

『いやさ、怪獣だけを悪役にする物語って好きじゃ無いんだよね。』

「まあ、これ怪獣だし。」

『書いているシリーズは、どちらも怪獣が多いけどさ。知っているか?ただ単に、一方的に悪役で、出てくる怪獣の気持ち?』

「・・・。」

『強いて挙げるなら、理由は有るが、生きる為だ。・・・こっちも、生きる為だよ!!』

「・・・。」

『所詮、ウルトラマンが勝って怪獣が負けるのが、決まっているんだよ!!』

「まあ、だろうな。」

『じゃあ、仮面ライダーは?』

「・・・はっ?」

『仮面ライダーは、有る意味では怪獣よりタチが悪いぞ。明確には、自分達も敵って話ばっかだし。』

「いや、知らんから!？」

『大体さ、八百長みたいな物なんだよ!!』

「はあ!？」

『書いている身から、書かせたら八百長をやっている様な物なんだよ!!』

「いや、なら変えれば?」

『変えたら、問題が有り過ぎだろう!!』

「・・・そうだな。」

『まあ、現実補正を付けたら怪獣を殺せ無いかもな。』

「・・・はあ？」

『怪獣達は、大切な自然遺産みたいな事で保護されるかもな。』

「コスモスみたいに？」

『いや、捕まえて解剖するだろう。』

「おい！？」

『現実、怪獣は簡単に殺すって事にならんと思うけど？希少な動物扱いで、保護されるかもな。』

「危険な奴も？」

『まあ、ウルトラマンみたいに殺したら非難が来るかもな。なぜ、殺したんだって。』

「・・・。」

『人の為に、みんなの為に、それが最善の策だからやった。だけど、それが実際に良い方向に動くかは、周りの判断する側の意思だ。理由はどうかあれ、判断する側の意思で、良いか、悪いかが決まる。』

「まあ、な。」

『さて、まあ書くが物語を良い方向にしようと、転生者とかが居るが、』

「何だ？」

『変えて、本当にハッピーになれる訳では無い。』

「はあ？」

『ただ別の苦悩が、待っているだけだ。その物語の不幸が去ったからって、ハッピーにはなれない。物語には無い出来事が、待っている。』

「何だ？」

『例で挙げやすいのは、魔法少女リリカルなのは。』

「・・・。」

『理由は、転生が多いから。』

「で？」

『まあ、本来の物語から外れるって事は別の物語を、歩まなければ

いけない。それこそ、最善の選択という事で選んでいるが、」

「が？」

『その物語は、変な方向に変わる。』

「まあ。」

『変わったから、ハッピーになる？いや、あれって内情を知らない
と、面倒が多いって事だ。』

「……。」

『主人公勢が、ハッピーになるって事はそれ以外の人は、バッドな
運命になる。』

「それは、」

『もしも、主人公勢が居ないならその世界は存在の意味が、無くな
り消える。まあ、魔法少女リリカルなのは主人公勢が、居ない世
界になるって事だけど。』

「……。」

『物語の多くは、主人公を中心に事件が起こる。そして、不幸が起
こる。』

「……。」

『そして、最終的に被害を出して主人公勢がハッピーになる。』

「……。」

『だが、それ以外の人にはバッドな事しか無い。』

「……。」

『ちなみに、魔法少女リリカルなのはで原作のあれ以上のハッピー
を、求めるなら自分達にそれだけの事をした罰が、待っているって
事だ。』

「ん？どういう事だ？」

『面倒、厄介事が多い。あの主人公勢は、何かしら起こす。良い意
味でも、悪い意味でも絶対に。』

「具体的には？」

『あいつらが……いや、全部の物語の主人公勢に関係が有るが、』
「……。」

『主人公勢が、ハッピーになれば他はどうでもいい、つてのが物語で多い。』

「まあ。」

『後の事を考えて行動するなら、何もしない方が良い。考えずに行動したら、後の面倒が起こるって事。』

「。。。。」

『まあ、面倒事は主人公勢に丸投げすれば大概は、それで良いんだがな。』

「おい!？」

『原作キャラが、勝手に解決してくれるから結構、好き勝手にやる。が、』

「が？」

『もしも、主人公勢が欠けていたらそのキャラの居ない物語で、物語は進む。そして、』

魔法少女リリカルなのはの世界で、主人公勢が、1人でも欠けていたら、

『あの世界は、物語のバッドな終わり方をする。』

まあ、これだけだ。

愚痴？2（後書き）

まあ、いろいろです。

愚痴？3（前書き）

すいません！！
デュエル無しです。

愚痴？3

「また、愚痴かよ！？」

しょうがないだろうが。

今は、デュエルを書いたら短くなるから。

「いや、読んでも人、」

「絶対に、デュエル希望ですよ！！」

「つてか、この世界は、」

「デュエルモンスターズだからな！？」

東、ディアブロ、QB、ダークネス。

「何だ？」

呼んただけだ。

「おい！！」

で、
矛盾。

「何だ？」

いや、ほら物事には矛盾って有るだろう？

「まあな。」

「でしようね。」

「だろうね。」

「それが、世の理だ。」

で、

だから、矛盾した事をしようかなあって。

『具体的には？』

ほら、アンチとかメタな物ってそういう物だろう？

『これには、関係が無いだろう？』

いや、この怪獣達のカードっているいろいろ矛盾しているぞ。

『何がだ？』

感覚的に、強さを決めているが実際、遊戯王のモンスターで表しても、強さにいろいろ無理が有るぞ。

物理的に。

『。。。』

いや、遊戯王のモンスターでの強いのもて神とか、人気？が有る奴だろう？

『。。。そうだな。』

怪獣も、まあ現実問題で強いのが多いぞ。

デュエルモンスターののは、仮想？的な問題だけど。

『いや、怪獣も仮想？問題だろう？』

・・・実際に、怪獣なんて居るかは分からんけど遊戯王も、そういう問題だ。

遊戯王は、エジプトの神が主体だからな。

三幻神が、それだからな。

まあ、

神自体が、居るかが分からん。

それこそ、まあ矛盾だけど。

「・・・さつきから、私の存在否定が有る気がするのだが？」

いや、ダークネスなんて5D・sまでの時間稼ぎみたいな役だろう？
実際、ユベルの後にGXが続いてダークネスがラスボスなんて事を、
知っている奴なんて居ないぞ。

「グッ・・・。」

まあ、カードの発動を間違えたし。

「この世界では、しないぞ！！」

まあ、あんなカードは使わせないけど。

「あんなカード・・・。」

あんなカードだ。

大嵐、ハリケーン、王宮のお触れ、サイクロンで終わるだろうが。

まあ、ファンデッキなら良いけど。

で、

矛盾だが、

デュエルモンスターのモンスターの強さ。

よく分からん。

『いや、カードゲームだからそこは、』

いや、スルーしないから。

ってか、書いている側はスルー出来ない問題だから。
こういうのは。

『まあ、頑張れ！！』

へいへい、分かってるって。

まあ、

多分、一番壊れているカードってレベルの割に攻撃力と守備力が高くて、効果が条件が緩くて強いって事だろう？

『じゃないのか？』

いや、そういう事。

だから、

ギラ・ナーガ、ゼヴオス、魔デウスとかは理不尽だろう？

『いや、あれって遊戯王のステータスでは無いから！！』

「正直、冒涇以外の何でも無いぞ！！」

そういう事。

まあ、

あれとかは、理不尽な力。

ちなみに、ルールに干渉するモンスターだ。

『いや、怪獣だけど。』

だから、

手抜きで、デュエルしているだろう？

ビクッ

東。

お前が持っているカードで、その気になれば1ターンキル、0ターンキルが出来るだろう？

「いや、それは、」

いや、まあカードゲームだからしょうがないっていうのが、有るが、
思いつきり、デュエルしたいだろう？

ラスボスとか、使いたいのう？

「・・・ああ。」

だけど、

力を、持っているからなあ。

怪獣って。

「いや、貴方がどうにか出来るでしょう？」

「ここではね。」

いや、普通に無理が多いのはいろいろダメだろう？

この世界でのカードは、現実に影響力が有るのが、売り？でも有るのだから。

で、

まあ、ちょっとした世界での矛盾、理不尽みたいな事だから。

『・・・。』

まあ、この辺で。

愚痴？3（後書き）

考える事が、多い。

地属性モンスター。(前書き)

あれえ？

地属性モンスター。

で、

アモンとかは、

「他の世界の自分自身に、憑依させるのか？一緒に。」

まあ、被害？を負った奴もな。

「アモンの幼馴染み？とか。」

で、

デュエルだ。

「よしっ、やっただい!!」

じゃあ、逝け！！

「^?」

ブラックホール

「またかあああああああああ！！！！？」

で、

岩山、

「侵入者だ!!」

「探せっ!!」

隠れて居ます。

・・・さて、

透明にして。

探すか、

メガロック・ドラゴンを。

で、

洞窟の奥の方で、眠って居るのを見つけた。

東は、

メガロック・ドラゴンの前に出て、

「デュエル。」

これで、良いよな？
スッ

メガロック・ドラゴンが、目を開けた。

『お前が、侵入者か？』

「Yes。」

『そうか……。出会え、我僕達！！』

ドンッ

「……。。」

ぐっ、

何かが、天井から落ちてきた。

「……。伝説の柔術家、カオスポット。」

2体のモンスターが、落ちてきた。

伝説の柔術家は、デュエルディスクを着けている。

『我等との、バトルロイヤルだ……。良いな？』

ああ、

「Yes。」

『ウケケッ！！』

『いざ、勝負！！』

ルール

LP4000統一のデュエル。

順番は、東↓メガロック・ドラゴン↓伝説の柔術家↓カオスポット。

お互いに、1ターン目は攻撃が出来ない。

『『『「デュエル！！」』』』

ドンッ

天井から、メガロック・ドラゴン、カオスポットの前に、石板が落

ちてきた。

「私のターン、ドロー。」

長い、デュエル。

「私は、魔法カード怪獣出撃を発動。ライフポイントを1000ポイント払い、デッキからレベル4以下の、怪獣と名のつくモンスターを攻撃表示で特殊召喚する。私は、凶暴怪獣アーストロン、超音速怪獣ヘイレンを、特殊召喚する。」LP3000

レベル4 凶暴怪獣アーストロン

地属性 恐竜族

ATK/2000 DEF/1500

レベル4 超音速怪獣ヘイレン

風属性 鳥獣族

ATK/2000 DEF/0

「カードを、2枚セットしてターンエンド。」

どうする？

「私のターン、ドロー。我は、モンスターをセット。カードを、2枚セットしてターンエンドだ。」

やっぱり、守りか。

「私のターン、ドロー。私は、魔法カードハンマーシユートを発動して、攻撃力が一番高いモンスターの、超音速怪獣ヘイレンを破壊する。」

ヘイレンが、粉々にされた。

・・・ヘイレンの方が。

「モンスターをセット、カードを1枚セットして、ターンエンドする。」

「エンドフェイズ時に速攻魔法、怪獣襲来を発動。このターン、破壊された怪獣と名のつくモンスターの、レベルの合計以下のモンス

ターを1体、デッキから守備表示で特殊召喚する。」

「私は、宇宙礫岩怪獣グロマイトを守備表示で特殊召喚する。」

レベル4 宇宙礫岩怪獣グロマイト

地属性 恐竜族

ATK/1500 DEF/2300

「やるな。」

「ウケツ、肥やしの手伝いになくなってねえぞ。オレっちのターン、ドロ。・・・オレっち、モンスターをセット、カードを3枚セツトしてターンエンドだ。」

カオスポットが、曲者？か？

2ターン目。

「私のターン、ドロ。バトル、凶暴怪獣アーストロンで、カオスポットのセットモンスターを攻撃！！」

「オレっちかよ！？」

俺とキャラが、被るんだよ！！

セットモンスターは、

「へっ、そいつは黒曜岩竜だ。」

レベル4 黒曜岩竜

闇属性 岩石族

ATK800 DEF/2100

ちっ、

「カードを2枚セットしてターンエンドする。」LP2900
『ふむ、私のターン、ドロ。メデューサ・ワームを、反転召喚する。そして、効果で宇宙礫岩怪獣グロマイトを破壊。』

レベル2 メデューサ・ワーム

地属性 岩石族

ATK/500 DEF/600

「対処する。永続罠、怪獣の呪いを発動。墓地に、怪獣と名のつくモンスターが存在する場合、相手のモンスターの召喚・特殊召喚・反転召喚時に、発動したモンスターの効果を、300ポイントライフを払い、無効にしてそのモンスターを破壊する。」LP2600
『カウンター罠、何！？』
『発動出来ねえ！？』

「このカードは、発動時に他の罠カードは発動は出来ない。そして、このカードは発動して3ターン後の、自分のターンのスタンバイフェイズ時に、墓地に送られる。」

そして、メデューサ・ワームは破壊された。

『我は、モンスターをセットしてターンエンド。』

『私のターン、ドロ。私は、モンスターを生け贄に捧げて、ヒエラコスフィックスを召喚する。』

レベル6 ヒエラコスフィックス

地属性 岩石族

ATK/2400 DEF/1200

『バトル、ヒエラコスフィックスで凶暴怪獣アーストロンを、攻撃！！』

「対処する。罠カード、ブレイク・スパイラルを発動。相手モンスターの攻撃時に、自分フィールド場の怪獣と名のつくモンスターを

破壊して、攻撃モンスターを手札に戻し、相手にそのモンスターの攻撃力分のダメージを与える。このカードの発動に、カウンター罠は発動は出来ない。凶暴怪獣アーストロンを破壊して、ヒエラコスフィックスを、手札に戻す。」

『何っ、ぐおおおおおおおおお！！・・・ターンエンド。』LP1600

『へっ、オレっちのターン、ドロ。伏せていた魔法カード、地砕きを発動して宇宙礫岩怪獣グロマイトを破壊する。』
グロマイトが、粉々にされた。
またかよ。

『モアイ迎撃砲を召喚してバトル、モアイ迎撃砲で、直接攻撃！！』

レベル4 モアイ迎撃砲

地属性 岩石族

ATK/1100 DEF/2000

「対処する。手札の蜃気楼怪獣バラゴンの効果を、発動する。手札のこのカードを墓地に送り、このターン、攻撃モンスターの攻撃対象は、別のプレイヤーへの直接攻撃に変える事が、出来る。モアイ迎撃砲の攻撃対象を、カオスポットへの直接攻撃に変更。」

レベル7 蜃気楼怪獣バラゴン

地属性 爬虫類族

ATK/2000 DEF/2000

『何だ！？その効果はああああああああ！！・・・モアイ迎撃砲の効果を、発動させて、裏守備表示にしてターンエンド。』

LP2900

3ターン目。

「私のターン、ドロ。魔法カード、魂の宝札を発動。墓地の怪獣と名のつくモンスターを、全て除外してその枚数だけドロして1000ポイントライフを回復する。墓地の怪獣を、除外して3枚ドロする。」LP3600

『くっ。』

『発動が、出来ない……。』
「だろうね。」

「私は、魔法カード小さき反応を発動。デッキから、レベル4以下の怪獣と名のつくモンスターを2枚手札に加える。」

『へっ!!カウンター罠、魔宮の賄賂を発動するぜ!!』
ドロしてっど。

「魔法カード、モンスター・バーンを発動。手札の、怪獣と名のつくモンスターを2枚墓地に送り、このカードのプレイヤー以外の他のプレイヤーに、2000ポイントのダメージを与える。このカードに、ライフポイント2000以下のプレイヤーは、カードの発動をする事が出来ない。」

『『ぐおおおおおおおおおおおお!!』』

メガロック・ドラゴンLP2000

伝説の柔術家LP0

カオスポットLP900

『ぐあっ……。』

伝説の柔術家は、石になった。

『『……。』』

ギロツ
うわっ、
キレているなあ。

地属性モンスター。(後書き)

続くかな？

地属性モンスター後半。(前書き)

短い・・・。

地属性モンスター後半。

まだ、

俺のターンは、終わってない。

「私は、怪奇植物グリーンモンスを攻撃表示で召喚する。このモンスターが、フィールド上に表側表示で存在する場合、相手モンスターの攻撃力は、500ポイントダウンする。ターンエンドする。」

レベル4 怪奇植物グリーンモンス

地属性 植物族

ATK/1400 DEF/1900

「私のターン、ドロー。我は、マンモ・フォッシルを召喚、墓地のメデューサ・ワームを除外して、岩の精霊 タイタンを特殊召喚する。」

レベル4 マンモ・フォッシル

地属性 岩石族

ATK1800 DEF/0

レベル4 岩の精霊 タイタン

ATK/1700 DEF/1000

攻めて来たか。

「バトル、マンモ・フォッシルで怪奇植物グリーンモンスを、攻撃
！！」

マンモ・フォッシル

ATK / 1800 ↓ 1300

突進ぐらいか？

『ダメージ計算時に、速攻魔法突進を発動する。マンモ・フォッシルの攻撃力をエンドフェイズ時まで、700ポイントアップする。』

マンモ・フォッシル

ATK / 1300 ↓ 2000

つて、本当にかよ！？

そして、マンモ・フォッシルがグリーンモンスを潰そうと、

『なら、オレっちもダメージ計算時に伏せていた速攻魔法、突進を発動するぜ。選ぶのは、マンモ・フォッシルだ。』

カオスポットも！？

マンモ・フォッシル

ATK 2000 ↓ 2700

グシャ

グリーンモンスが、マンモ・フォッシルに押し潰された。

「・・・」 LP 2300

『マンモ・フォッシルの効果で、相手に400ポイントのダメージを与える。』

「・・・」 LP 1900

『岩の精霊 タイタンで相手プレイヤーに直接攻撃!!』
それは、

「対処する。罨カード、クラッシュ・ブレイクを発動。自分フィールド上の、怪獣と名のつくモンスターが破壊された場合、相手フィールド上のカードを2枚を選んで墓地に送る。この効果は、罨カードの効果を受けない。岩の精霊 タイタンとカオスポットの伏せカ

ードを破壊する。」

2枚のカードが、吹き飛ばされた。

伏せカードは、奈落の落とし穴か……。

『ターンエンドだ。』

『オレっちのターン、ドロー。オレは、モアイ迎撃砲を反転召喚、伝説の柔術家を召喚するぜ。戻って来いよ、相棒!!』

レベル4 モアイ迎撃砲

地属性 岩石族

ATK / 1100 DEF / 2000

レベル3 伝説の柔術家

地属性 岩石族

ATK 1300 DEF / 1800

・・・石になった伝説の柔術家が、元に戻って、フィールド上に出てきた。

いや、分かるけど。

『バトル、モアイ迎撃砲で攻撃!!』

まただよ。

「対処する。2枚目の手札の蜃気楼怪獣バラゴンの効果を発動する。手札から、墓地に送りモアイ迎撃砲の攻撃対象を、カオスポットに変更。」

『なっ!!クソ、伏せていた速攻魔法、月の書を発動させて、モアイ迎撃砲を裏守備表示にして、ターンエンドだ!!』

順番を、少し間違えたな。

先に、伝説の柔術家で攻撃しておけばモアイ迎撃砲は、自身の効果で裏守備表示に出来たのに……。

「私のターン、ドロー。墓地の魂の宝札の効果で、ドローフェイズ時にドローする枚数は手札が5枚になる様にドローして、2枚を除

外する。」

『『……』』

いや、睨んでもなあ。

「魔法カード、モンスター・バーンを発動する。2000ポイントのダメージだ。」

終わり。

『『グアアアアアアアアアアアアアアアアアア!!??』』

L P O

そして、石になった。

で、

「で、今からは？」

まあ、アカデミアに戻れ。

「分かった。」

トウルーマンが動く、ダークネス編前だから後少しで、十代達に戻って来るぞ。

「そんなに、居たか？」

時間の流れが、怪獣の精霊世界とかも居た時のも、含めてだとな。
「そうか。」

で、亀7。

さて、

石になった精霊のエネルギーを、ちょっと使ってつと。

特殊な結界？を創って、この怪獣の精霊世界が、超融合の効果を受けない様にしてつと。

まあ、大丈夫だろうけど。

まあ、この為に精霊を石にしていたって訳。
そして、

次は、もうダークネスの時期か。

まあ、どうなるかな？
いろいろと。

地属性モンスター後半。(後書き)

ダークネスの出番まで、少し間があるかな？
いや、短いかな？

急展開！？本腰を、入れた？（前書き）

いきなり？

急展開！？本腰を、入れた？

イエロー寮、

久しぶりのデュエルアカデミア。

まあ、

「ダークネス編まで、時間が有るらしいけどなあ。原作と違う、何かをするらしいけどな。」

「・・・まあ、良いけど。」
どうせ、

「悪役は、負けるし。」

その頃、
有る空間で、

「お前は、何なんだ!？」

十代が、言った。

「ボクは、Q B。 遊戯十代、君の超融合を貰いにデュエルしに来たよ。」

そこには、Q Bが1匹?居た。

「ふざけるなっ! ?翼を、返せ! !」

「さあね。ボクが相手するのは君だからね。彼の事は、ボクは知らないよ。ボクは、君の超融合に用が有るのだから。」

「・・・お前、このカードがどんなに危険な物か分かって言っているのか?」

「関係無いね。ボク達には、世界に影響を与えるカードが必要だからね。」

「お前の目的は、一体何なんだ! !」

「そうだね。デュエルに、勝ったら教えても良いよ。」

「なら、デュエルだ! !俺が、勝ったら話して貰うぞ! !」
ガシャ

十代は、デュエルディスクを起動させた。

「それは、効率的で良いね。」

『デュエル! !』

翼は、

「お前は、ディアブロ!？」

「デュエルです。七龍翼!!」
ガシヤ

ディアブロは、強制デュエルモードを起動させた。

「!?!?!? 俺が、勝ったらお前が何なのか教えて貰うぞ!!」
・・・意外と、話が早いですね。

『デュエル!!』

有る世界の有る場所で、

リリカルメンバーは、

「・・・しつこい。」

「なのは！！まだ、残っているよ！！」

「これで、終わりよ。E・HERO　ガイアでQBに直接攻撃！！」

LP1200

「・・・。」LP0

シン

ギンガとのデュエルに、負けたQBは消えた。

「みんな、大丈夫！？」

『どちらかと言うと、ボク達の方が大丈夫じゃないけど？』

リリカルメンバーは、足止めのQB軍団とデュエル中。

「貴方達の数が、多いのよ！！」

ギンガが、言った。

世界各国では、トゥルーマンがデュエルを行っていた。
・・・そして、

別の世界で、

「君のNo.を狩らせて貰いますよ。」

「オッサンは、一体・・・。」

『気をつける！！遊馬、この男は普通の人間では無いぞ！！』

「分かった、アストラル！！」

『デュエル！！』

いきなり、現れた人間？のトゥルーマンとのデュエルが、始まった。

で、

さあ、ショーの始まりだ！！

「亀7が、書けるか不安だ。」

さあ？

「おい！？」

デュエルは、カットするかも。

急展開！？本腰を、入れた？（後書き）

書けるかは、分からない。

期待、しないでくれ！！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4147t/>

遊戯王 怪獣を使う転生者（凍結中）

2012年1月4日19時45分発行